

第 1 6 4 9 回島根県教育委員会会議 議題書

令和6年6月4日(火)
日 時
9時30分～

第 1 6 4 9 回教育委員会会議議題

期日 令和 6 年 6 月 4 日(火)

議 題

－公 開－

(報告事項)

- 第 7 号 令和 7 年度島根県公立学校教員採用候補者「一般選考試験」の出
願状況について
(学校企画課) _____ 1
- 第 8 号 令和 7 年度島根県市町村立小・中学校等校長・教頭・主幹教諭採
用・昇任候補者選考試験(令和 6 年度実施)について
(学校企画課) _____ 2
- 第 9 号 令和 5 年度島根県内高校 3 年生を対象とした進路決定に関する意
識等の把握に係る調査について
(社会教育課) _____ 3

－非公開－

(議決事項)

- 第 5 号 教職員の懲戒処分について
(学校企画課) _____ 4
- 第 6 号 令和 7 年度使用教科用図書採択に向けた今後の進め方について
(教育指導課・特別支援教育課) _____ 5

(報告事項)

- 第10号 令和 6 年度 6 月補正予算案(6 月10日上程分)の概要について
(総務課) _____ 6
- 第11号 県立学校の教育職員及び市町村立学校の教職員の特殊勤務手当に
関する条例の一部改正について
(総務課) _____ 7

令和7年度島根県公立学校教員採用候補者「一般選考試験」の出願状況について

1 出願状況

(1) 全体の状況

出願者数は、1,105名※（昨年度1,121名） 倍率は3.3倍（昨年度3.5倍）
（会場別内訳：県内 661名、大阪 276名、東京 89名、福岡 33名、全免除 46名）
※ 出願者数は、併願者の第1志望及び第2志望ともに計上（併願者数 47名）

(2) 出願者数と倍率 ※（ ）は昨年度

校種・職種	採用予定者数	出願者数	増減	倍率
小学校教諭※ ¹	150名程度（150名程度）	322名（341名）	▲19名	2.1（2.3）
中学校教諭※ ¹	110名程度（90名程度）	296名（289名）	7名	2.7（3.2）
高等学校教諭	40名程度（38名程度）	292名（318名）	▲26名	7.3（8.4）
特別支援学校教諭※ ¹	25名程度（25名程度）	60名（45名）	15名	2.4（1.8）
養護教諭	10名程度（10名程度）	110名（104名）	6名	11.0（10.4）
栄養教諭	2名程度（1名程度）	25名（21名）	4名	12.5（21.0）
障がいのある方を対象とした募集※ ²	3名程度（3名程度）	〔4名〕（5名）	〔▲1名〕	
島根かみあり国スポ競技力向上枠	若干名（若干名）	0名（3名）	▲3名	
合計	340名程度（317名程度）	1,105名（1,121名）	▲16名	3.3（3.5）

※1 島根創生特別枠の出願者数 15名を含む。

※2 すべての校種・職種で募集。出願する校種・職種を含む。

(3) 特別枠出願者数の内訳 ※（ ）は昨年度

特別枠	校種・職種等		採用予定者数	出願者数
島根創生特別枠	小学校教諭	全県	20名程度 ※一般枠の募集人数を含む （20名程度）	7名（13名）
		数理全県		0名（0名）
		英語全県		0名（0名）
		特別支援教育担当		1名（1名）
	中学校教諭【新規】	全県	10名程度 ※各教科の募集人数は1～2名程度 ※一般枠の募集人数を含む	6名 —
		特別支援教育担当		0名 —
	特別支援学校教諭	小学部	3名程度 ※一般枠の募集人数を含む （3名程度）	1名（0名）
島根かみあり国スポ競技力向上枠※ ¹	中学校教諭	全県	若干名 ※一般枠の募集人数に含まない （若干名）	0名（0名）
	高等学校教諭	全県		0名（2名）
	特別支援学校教諭	中学・高等部		0名（1名）

※1 対象競技は、体操競技

(4) 併願者数 ※ () は昨年度

	第1志望	第2志望(併願先)	出願者数
ア	中学校教諭(全募集区分・教科)	小学校教諭(全募集区分)	20名 (21名)
イ	中学校教諭(技術、家庭受験者以外)	中学校教諭(技術、家庭)	0名 (0名)
ウ 【新規】	高等学校教諭(全募集区分・教科)	小学校教諭(全募集区分)	5名 —
エ	高等学校教諭(情報受験者以外)	高等学校教諭(情報)	7名 (6名)
オ 【新規】	高等学校教諭(全募集区分・教科)	特別支援学校教諭(中学部、中学・高等部、高等部)	8名 —
カ 【新規】	特別支援学校教諭(中学部、中学・高等部、高等部)	特別支援学校教諭(小学部)	7名 —

(5) 島根独自の特色ある採用への出願状況 ※ 上記(2)の内数、() は昨年度

募集区分等	校種・職種	採用予定者	出願者数
小学校の算数・理科分野で高い専門性を持つ者	小学校	12名程度 (12名程度)	8名 (11名)
小学校英語教育のリーダー的役割を担う教員	小学校	10名程度 (10名程度)	10名 (5名)
小学校の特別支援教育担当	小学校	若干名	7名 (9名)
中学校の特別支援教育担当	中学校	若干名	8名 (4名)
石見地域・隠岐地域限定採用	小学校	20名程度 (20名程度)	13名 (19名)
	中学校	24名程度 (15名程度)	41名 (30名)
	高等学校	若干名 (若干名) ※隠岐地域のみ	3名 (1名)
県外国公立学校現職教員への特例【拡充】 (第1次試験全免除)	小・中・特	—	13名 参考 (7名)
前年度第2次試験A評価者等への特例 (第1次試験全免除)	全校種・職種	—	12名 (14名)
前年度第2次試験「繰り上げ登載候補者」のうち名簿 登載にならなかった者への特例 (第1次試験全免除)	全校種・職種	—	21名 (9名)
現職常勤講師等のうち前年度第2次試験受験対象者への 特例 (第1次試験一部免除及び加点)	全校種・職種	—	162名 (174名)
石見地域・隠岐地域の現職常勤講師のうち、市町村教育 委員会教育長から推薦された者への特例 (第1次試験一部免除及び加点)	小・中 地域限定	—	2名 (2名)
国公立学校正規教員経験者への特例【拡充】 (第1次試験一部免除と加点)	小・中・特	—	10名 参考 (4名)
県外国公立学校現職教員への特例【拡充】 (第1次試験加点)	高・養・栄	—	4名 参考 (2名)
国公立学校正規教員経験者への特例【拡充】 (第1次試験加点)	高・養・栄	—	8名 参考 (1名)
現職常勤講師等への特例 (第1次試験加点)	全校種・職種	—	140名 (138名)

現職非常勤講師等への特例 (第1次試験加点)	全校種・職種	—	11名 (11名)
第84回国民スポーツ大会に向けた指導者等への特例 (第1次試験加点)	全校種・職種	—	19名 (6名)

2 試験内容等

(1) 第1次試験

① 内容等

試験内容	期日	会場
教職教養 専門教養 論述試験	7月6日(土)	松江会場：くにびきメッセ 島根県教育センター・自治研修所 大阪会場：JEC 日本研修センター江坂 東京会場：都道府県会館 福岡会場：TKP 博多駅筑紫口ビジネスセンター

② 結果の通知

令和6年7月24日(水)午前9時に学校企画課ホームページに掲載するとともに、教員採用試験受験等申込みシステムのマイページで通知する。

(2) 第2次試験

① 内容等

試験内容	期日	会場
面接(模擬授業等・場面指導含む) 実技	8月17日 (土) ～ 8月28日 (水)	【県内】 松江農林高等学校 島根県教育センター・自治研修所他 【県外】※小学校専願受験者のみ 大阪会場：新大阪丸ビル新館 東京会場：都道府県会館

※ 模擬授業等課題を受験者に通知

※ 追試験は9月8日(日)に実施

(対象) 新型コロナウイルス感染や災害などやむを得ない事情により第2次試験を受験できなかった者

② 結果の通知

令和6年9月27日(金)午前9時に学校企画課ホームページに掲載するとともに、教員採用試験受験等申込みシステムのマイページで通知する。

※ 第2次試験不合格者のうち、若干名を繰り上げ登載候補者として通知。名簿登載者の辞退により採用予定者数に満たない場合には、繰り上げ登載候補者を名簿に登載する。

令和7年度島根県市町村立小・中学校等校長・教頭・主幹教諭
採用・昇任候補者選考試験（令和6年度実施）について

1 管理職に求められる資質能力（管理職育成プログラム R6 3月改定 より）

- ① 高い教育理念と広い識見 ② 学校経営 ③ 学校管理・運営
④ 人材育成 ⑤ 外部との連携・折衝

※主幹教諭については、①②④⑤

2 試験内容

区分	校 長	教 頭	主幹教諭
一次	論文記述（90分） [学校管理・学校教育]	論文記述（90分） [学校管理・学校教育]	
	面 接（15分）	面 接（15分）	面 接（15分）
二次	面 接（20分×2）	面 接（20分×2）	面 接（20分）

一次面接は教育事務所、二次面接は本庁で実施。

※ 令和4年度実施より、校長・教頭一次試験で実施していた客観テスト(60分)を廃止し、校長一次試験で面接試験を実施。

3 試験期日等

(1) 願書提出

受験者から所属長へ	7月10日（水）
所属長から市町村教委へ	7月17日（水）
市町村教委から教育事務所へ	7月24日（水）
教育事務所から学校企画課へ	7月31日（水）

(2) 選考試験

第一次選考試験（論文記述）	8月16日（金）
第一次選考試験（面接試験）	8月上旬
第二次選考試験	10月中旬～11月中旬

(3) 選考結果通知

第一次選考試験	10月上旬
第二次選考試験	12月上旬

4 試験会場

- ・第一次試験 各教育事務所
- ・第二次試験 松江会場及び浜田会場

5 選考上の特例

- (1) 教頭選考における主幹教諭 2 年以上勤務者への特例【R 4 実施～】
主幹教諭として 2 年以上勤務した者（今年度末現在）は、教頭一次試験を免除。
- (2) 教頭選考試験における市町村教育委員会教育長の推薦枠【R 5 実施～】
- 市町村教育委員会教育長に対して、46 歳以上 58 歳以下の者で、次の①又は②のいずれかに該当し、かつ、学校組織マネジメントを実践する力量を有する者について推薦を求める。
 - ① 教務主任、学年主任、研究主任、生徒指導主事等、教職員間の連絡調整及び他の教職員に対する指導・助言を担う校務の経験を有する者。
 - ② 教育行政機関での勤務経験を有する者。
 - 推薦された者については、教頭第一次試験を免除する。
- (3) 主幹教諭選考における市町村教育委員会教育長の推薦枠【R 4 実施～】
- 市町村教育委員会教育長に対して、36 歳以上 45 歳以下の者で、将来管理職への登用が見込まれる特に有望な者についての推薦を求める。ただし、46 歳以上 58 歳以下の者であっても、主幹教諭としての学校運営の中核業務に携わることができる者の推薦も可能とする。
 - ※ 主幹教諭の配置のない町村においても、市部の学校で経験を積ませたい者の推薦を可能とする。
 - 推薦された者については、主幹教諭第一次試験（教育事務所面接）を免除する。

6 受験資格

(1) 校長

現在表中 A のいずれかに該当し、B の要件を具備すること。

A 対 象	B 要 件	
a 市町村立学校教頭	45 歳以上かつ 58 歳以下 (R7.4.1 現在) であること。	教頭を 3 年以上経験した者であること。
b 教育委員会事務局又は教育機関の職員で教頭職の者		
c 島根県教育委員会が適任と認めた者		

※ a には、島根大学教育学部附属学校の副校(園)長を含む。

(2) 教頭

島根県内市町村立学校で教諭等として3年以上(今年度末現在)の勤務経験を有する者で、現在次表のAのいずれかに該当し、Bの要件を具備すること。

A 対 象	B 要 件		
a 市町村立学校 主幹教諭	38歳以上かつ58歳以下 (R7.4.1)であること。	教育に関する職に10年以上あったこと。	
b 市町村立学校 教諭、 養護教諭、 栄養教諭			人事異動の解消状況において、教育職員細則上の①②のいずれかを満たすこと。 ①「他地域勤務」を終了している。 ②「へき地学校勤務」を終了し、現在「他地域勤務」を解消中である。
c 市町村立学校 事務職員			人事異動の解消状況において、事務職員細則上の「出身外ブロック等勤務」を2回以上終了していること。
d 県教育委員会が 適任と認めた者			

※ a～cには、市町村立学校教職員に採用され、現に以下の職にある者を含む。

- ・教育委員会事務局等職員又は市町村教育委員会事務局職員。
- ・島根県立学校の教諭、養護教諭、栄養教諭。
- ・島根大学教育学部附属学校の教諭、養護教諭。

(3) 主幹教諭

島根県内市町村立学校で教諭として3年以上(今年度末現在)の勤務経験を有する者で、現在、次表のAのいずれかに該当し、Bの要件を具備すること。

A 対 象	B 要 件		
a 市町村立学校 教諭	36歳以上かつ58歳以下 (R7.4.1)であること。	教育に関する職に8年以上あったこと。	人事異動の解消状況において、教育職員細則上の①②のいずれかを満たすこと。 ①「他地域勤務」を終了している。 ②「へき地学校勤務」を終了し、現在「他地域勤務」を解消中である。
b 県教育委員会が 適任と認めた者			

※ aには、市町村立学校教諭に採用され、現に以下の職にある者を含む。

- ・教育委員会事務局等職員又は市町村教育委員会事務局職員。
- ・島根県立学校の教諭。
- ・島根大学教育学部附属学校の教諭。

7 役職定年予定者数

- ・校 長 45名(小学校 27名、中学校 18名※) ※島根県教育センター所長 1 含む
- ・教 頭 12名(小学校 7 名、中学校 5 名)
- ・主幹教諭 1 名(小学校 1 名)

令和5年度島根県内高校3年生を対象とした進路決定に関する 意識等の把握に係る調査について

1 調査の目的

卒業を迎える高校生の進路決定に関する意識等の実態について調査分析し、第2期島根創生計画策定の参考とする。また、島根県教育委員会が行っているふるさと教育推進事業についての効果検証を目的とする。

2 調査概要

県内の公立・私立高等学校及び特別支援学校高等部に在籍する卒業年次生にアンケートを実施。

- ・調査時期 令和5年12月11日～令和6年1月29日
(前回調査：平成31年2月15日～3月8日)
- ・回答数 4,608件 (回収率83.6%)
(前回調査：5,880件 (回収率93.4%))

3 調査結果

- | | | |
|--|---|------|
| (1) 「ふるさと教育」への評価
(2) 地域への意識
(3) 卒業後の進路 | } | 別紙参照 |
|--|---|------|

4 今後の取組

- ・ 小中学校でのふるさと教育・高校での探究学習の時間の連続性・系統性を考慮した、地域との連携・協働による学習を引き続き推進していく。
- ・ 高校生の県内進学、県内就職にあたっては、企業の見学や学校説明会が有効なことから、知事部局と連携しながら、大学や企業との連携を強化していく。

調査結果

※ 太字ゴシック下線部分は、肯定的な回答をした者の割合を前回調査と比較したもので、前回調査から5ポイント以上伸びているもの

(1) 「ふるさと教育」への評価

設 問		2018 年度	2023 年度	増減
①	小中学校での「ふるさと教育」により、学ぶ喜びや充実感を味わい、学習意欲の向上につながった	82.0%	80.9%	-1.1
②	「ふるさと教育」の中での地域の方々との会話や接することで、コミュニケーションの力や思いやりの気持ちが身についた	83.0%	85.2%	+2.2
③	「ふるさと教育」により、ふるさとへの愛着や誇りを感じるようになった。	83.4%	82.2%	-1.2
④	「ふるさと教育」により、地域の自然、歴史、文化、伝統行事、産業等の知識が修得できた	89.1%	87.0%	-2.1
⑤	「ふるさと教育」が、自分の進路決定に影響している	41.1%	49.1%	<u>+8.0</u>
⑥	「ふるさと教育」が、自分の将来像を描くことに影響している	45.6%	56.1%	<u>+10.5</u>

- ・ ふるさと教育に対する肯定的受けとめ、ふるさとへの「愛着・誇り」に関する数値は高水準を保っている（①・②・③・④）。
- ・ 生徒の進路決定や自分の将来像を描くことに影響していると感じた生徒は大幅に増加（⑤・⑥）。

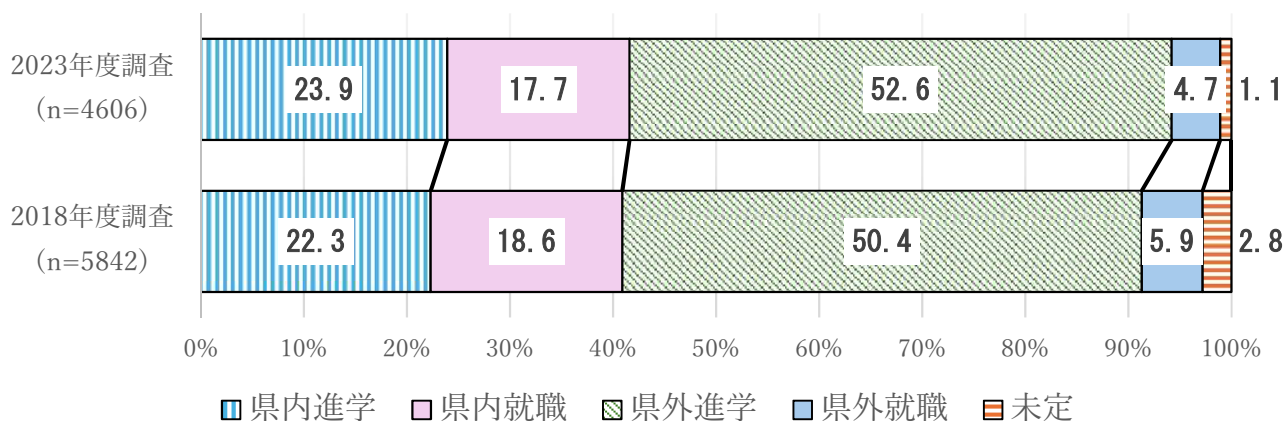
(2) 地域への意識

設 問		2018 年度	2023 年度	増減
①	生まれ育った地域に興味や関心がある	77.9%	80.7%	+2.8
②	生まれ育った地域への愛着や誇りがある	84.2%	86.6%	+2.4
③	自分が今住んでいる地域の住民との関わり（あいさつ、会話など）がある	84.7%	84.5%	-0.2
④	高校で、地域の課題解決や活性化を目指した学習をしたことがある	68.4%	82.7%	+14.3
⑤	高校生になってから、自分が今住んでいる地域の行事（伝統行事、公民館行事など）に参加したことがある	54.8%	60.6%	+5.8
⑥	高校生になってから、自分が今住んでいる地域のボランティア活動や社会貢献活動に参加したことがある	48.0%	55.0%	+7.0
⑦	卒業後も、自分が今住んでいる地域や島根県に関わりを持ち続けたいと思っている（県外からの関りも含む）	75.6%	76.5%	+0.9
⑧	将来、自分が今住んでいる地域や島根県のために役に立ちたいと思っている（県外からの貢献も含む）	74.1%	76.2%	+2.1
⑨	将来、自分が今住んでいる地域や島根県で仕事をしたいと思っている	65.3%	64.6%	-0.7
⑩	将来、自分が今住んでいる地域や島根県をどんな地域にしたいか希望がある	50.3%	55.0%	+4.7

- ・ 「ふるさと教育」への評価と同様に、ふるさとへの「愛着・誇り」に関する数値は高水準を保っている（①・②・③）。
- ・ 平成31年度から、県立高校魅力化ビジョンにもとづき、地域資源を活用した教育を推進してきたことにより、高校生の地域に関わる学習の機会や、地域活動への参加のポイントが大きく増加（④・⑤・⑥）。
- ・ 卒業後も（地域を離れても）、島根に関りを持ち続けたい、役に立ちたいと思っている生徒の割合は高水準を保っている。（⑦・⑧）
- ・ 将来、島根県で仕事がしたいと思っている生徒のポイントは横ばい。また、地域や島根県の将来について希望を持つ生徒のポイントが増加（⑨・⑩）。
- ・ 総合的に見て、高等学校の総合的な探究の時間の学習が、小中学校で行われたふるさと教育の学習の上に、地域との継続的な関係性を持ちながら積み上がることに
より、ふるさとに対する生徒の意識の高まりがみられるとともに、進路選択時の生徒の自己決定によい影響を及ぼしている。

(3) 卒業後の進路

① 「卒業後の進路希望」の比較



注) 2023 年度調査：「進学する」が県内か県外かは不明の 1 件を除く数値。

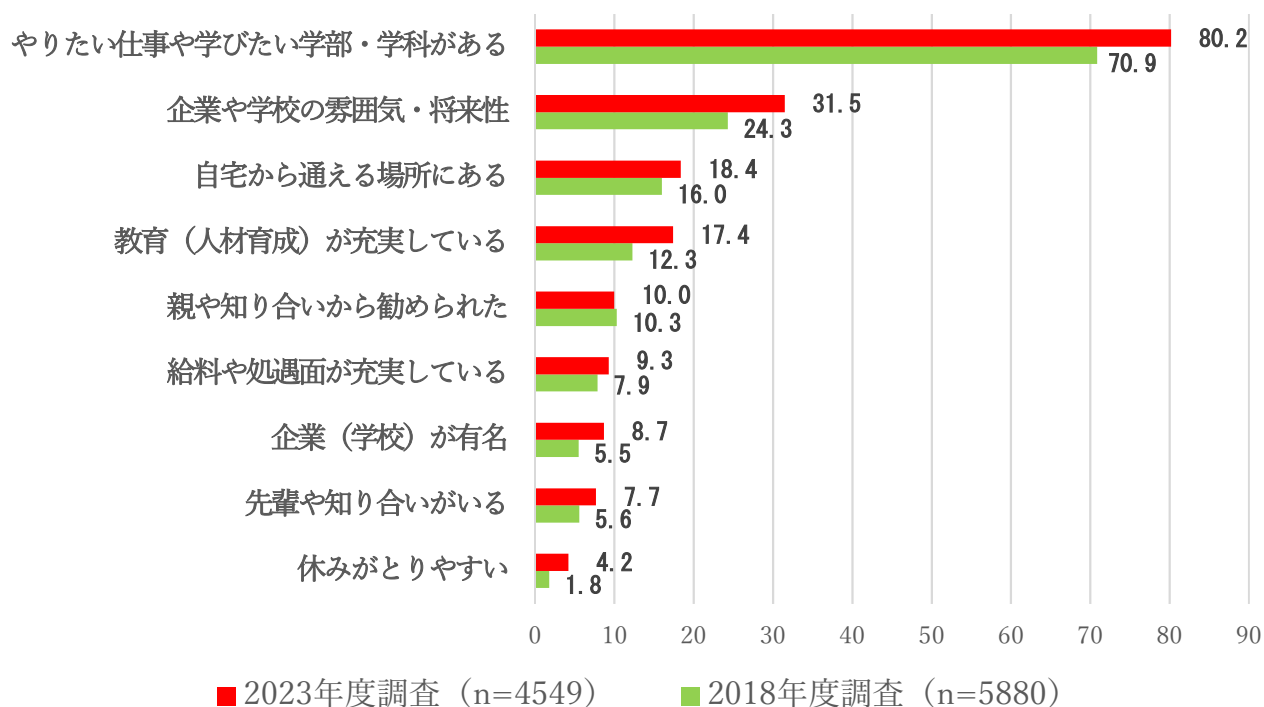
【参考】令和 6 年 3 月卒業生の進路状況（確定値）

県内進学	県内就職	県外進学	県外就職	その他・未定
21.8	16.8	52.4	3.9	5.2

注) 令和 6 年 3 月末日時点 教育指導課調べ

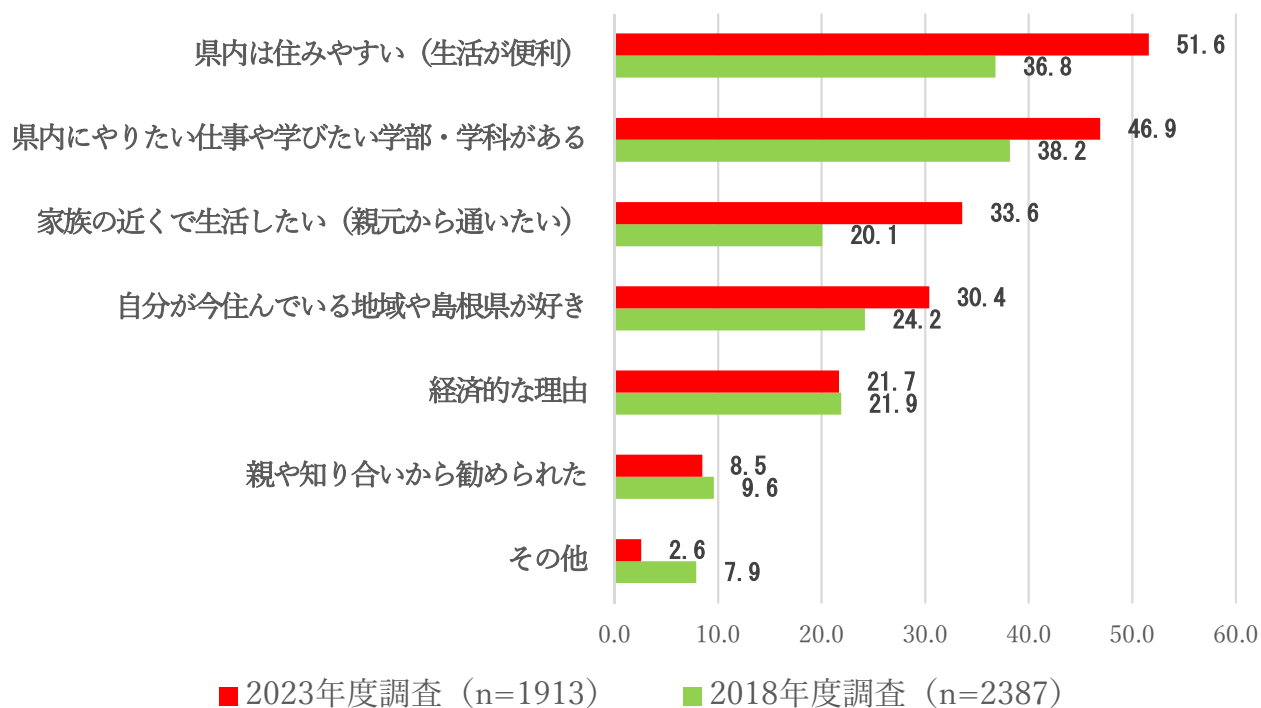
※平成 31 年 3 月卒業生の進路状況は、進学者のデータがないため比較できず

② 「進学先・就職先を決めた理由」の比較



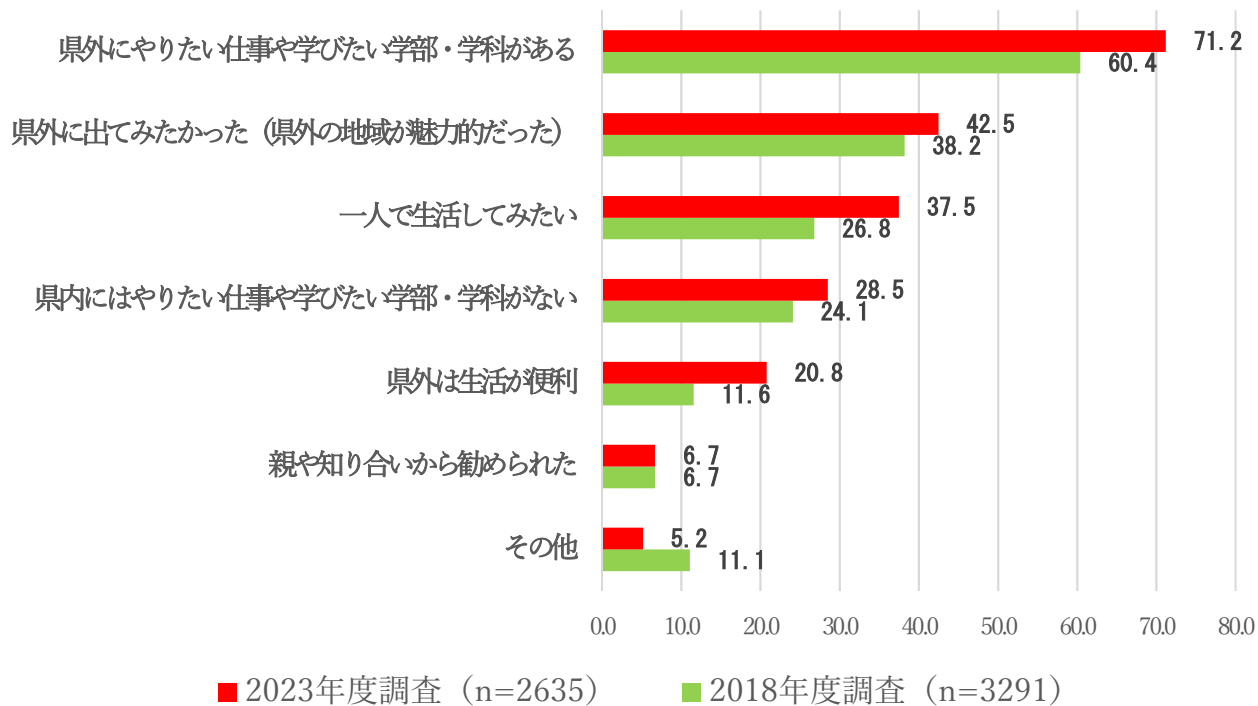
- ・ やりたい仕事や学びたい内容を持った上で、進路決定をする生徒の割合が高い。

③ 「県内への進学や就職を決めた理由」の比較



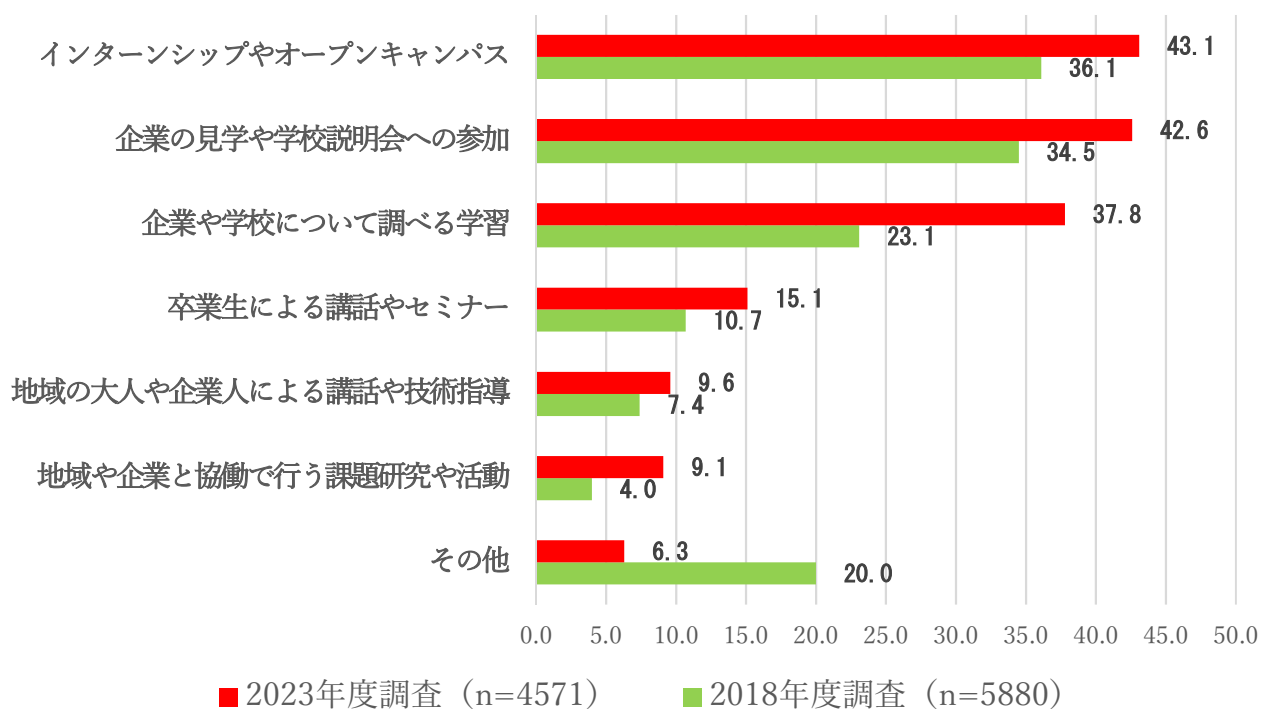
- ・ 県内は住みやすいという理由で県内進学・就職を決めた生徒の割合が高い。

④ 「県外への進学や就職を決めた理由」の比較

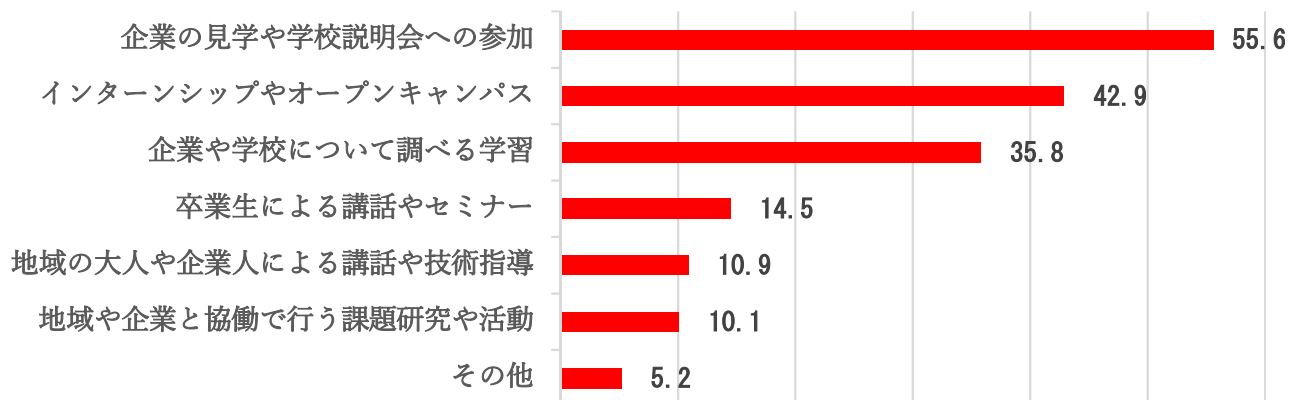


- ・ 県外にやりたい仕事や学びたい学部・学科があることを進路決定の理由とした生徒の割合が高い。

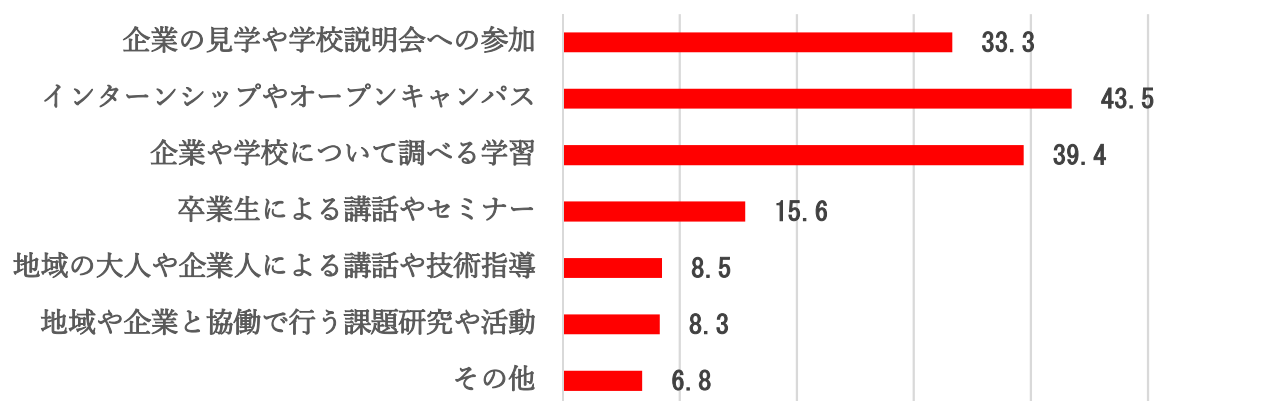
⑤-1 「進路決定にあたり、参考になった高校での取組」の比較



⑤-2 「進路決定にあたり、参考になった高校での取組」の進路先内訳
【県内進学・就職者】(n=1908)



【県外進学・就職者】(n=2612)



- ・ 県内に進学・就職した生徒に対しては、企業の見学や学校説明会、また、インターンシップやオープンキャンパスに参加したことが進路決定に影響している。
- ・ 生徒が自分の進路選択において自分の理由を明らかに持ち、進路決定をしている。
- ・ 県内への進学・就職を希望した生徒については、地域の住みやすさ、家族とのつながり、自分の住んでいる地域や島根県が好きと答えた生徒の割合が多く、島根県に肯定的な思いを持って進路選択していることがわかる。
- ・ 高校の総合的な探究の時間の学習やキャリア教育の中で、地元企業や県内大学等と関わることは、生徒の県内への進学や就職という進路決定に有効である。

「令和5年度島根県内高校3年生を対象とした進路決定に
関する意識等の把握に係る調査」

アンケート調査 報告書

2024年3月

島根県教育委員会

目 次

I. 調査の概要.....	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査概要.....	1
II. アンケート結果.....	2
1. 回答属性.....	2
2. 卒業後の進路希望など.....	6
3. 島根県の「ふるさと教育」について.....	12
III. 前回調査との比較.....	25
IV. 参考（クロス集計結果等抜粋）.....	34
V. 【資料編】.....	59

I. 調査の概要

1. 調査の目的

卒業を迎える高校生の進路決定に関する意識等の実態について調査分析し、県の次期最上位の行政計画の基礎資料とする。また、島根県教育委員会（以下「県教委」という）が行っているふるさと教育推進事業についての効果検証を目的とする。

2. 調査概要

島根県内の全高等学校の全日制課程・定時制課程に在籍する卒業年次生全員、また県立特別支援学校高等部に在籍する卒業年次生全員を対象にアンケート調査を実施した。実施概要は図表 I-1 の通りで、配布数は 5,511 件、回答数 4,608 件、回収率は 83.6%となった。

図表 I-1 アンケート調査実施概要

項 目	概 要
調査対象	県立 38 校、市立 1 校、私立 10 校、県立特別支援 16 校の卒業年次生徒 5,511 名
調査方式	・ マクロミル・セルフアンケートツール「Questant」を利用した Web アンケートおよび郵送方式による回収 ・ アンケートは県教委から各学校に調査票等を配布することにより依頼
調査時期	2023 年 12 月 11 日～2024 年 1 月 29 日
回 答 数	4,608 件（回収率 83.6%）

II. アンケート結果

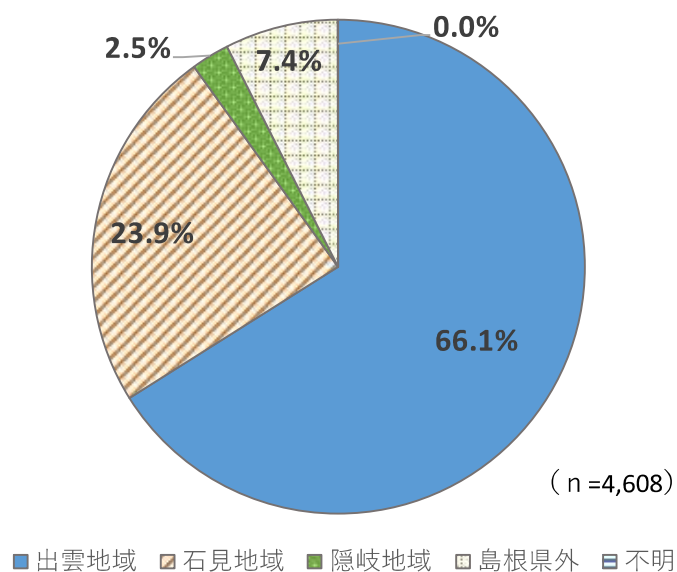
1. 回答属性

(1) 卒業中学校の地域

- ・ 卒業した中学校の地域では、「出雲地域」が 66.1%と最も高くなった。
- ・ 続いて、「石見地域」23.9%、「島根県外」7.4%、「隠岐地域」2.5%となった。

図表Ⅱ－1 卒業中学校の地域（SA）

項目	件数	(全体)%	(除不)%
出雲地域	3046	66.1	66.1
石見地域	1103	23.9	23.9
隠岐地域	116	2.5	2.5
島根県外	342	7.4	7.4
不明	1	0.0	
N（％ベース）	4608	100	4607



注1) 本報告書において“SA”は単一回答、“MA”は複数回答を示す。

注2) 表中にある「不明」は無効回答あるいは無記入のサンプル。

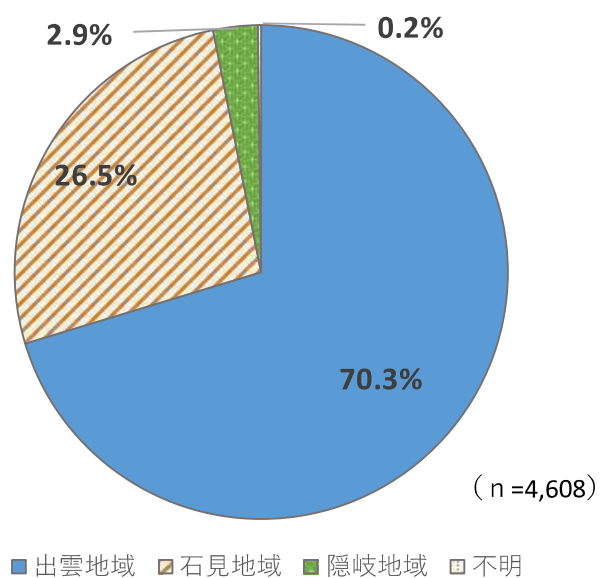
注3) 本報告書について、“出雲地域”は松江市、出雲市、安来市、雲南市、奥出雲町、飯南町、“石見地域”は浜田市、益田市、大田市、江津市、川本町、美郷町、邑南町、津和野町、吉賀町、“隠岐地域”は海士町、西ノ島町、知夫村、隠岐の島町を示す。

(2) 高等学校の地域

- ・ 高等学校の地域では、「出雲地域」が 70.3%と最も高くなった。
- ・ 続いて、「石見地区」26.5%、「隠岐地区」2.9%、「不明」0.2%となった。

図表Ⅱ－2 高等学校の地域（SA）

項目	件数	(全体)%	(除不)%
出雲地域	3241	70.3	70.5
石見地域	1223	26.5	26.6
隠岐地域	134	2.9	2.9
不明	10	0.2	
N（％へ→）	4608	100	4598

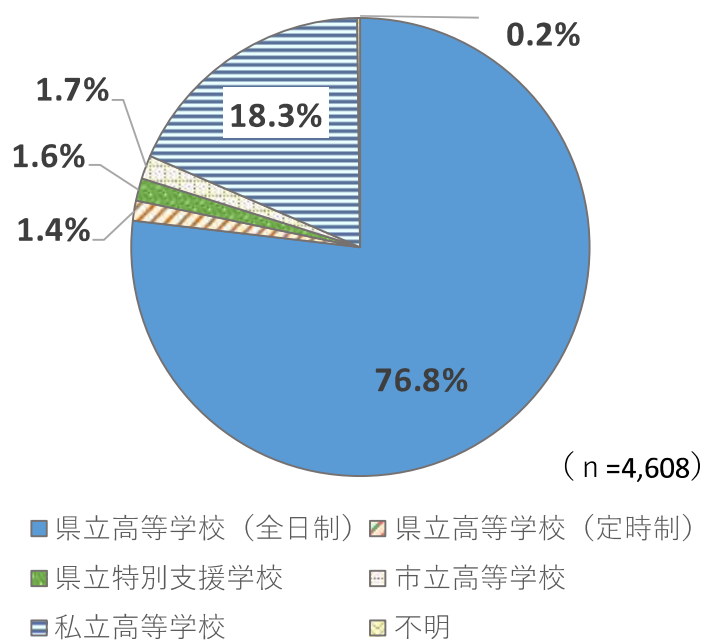


(3) 高等学校の区分

- ・ 高等学校の区分では「県立高等学校（全日制）」が76.8%と最も高くなった。
- ・ 続いて、「私立高等学校」18.3%、「市立高等学校」1.7%、「県立特別支援学校」1.6%、「県立高等学校（定時制）」1.4%、「不明」0.2%となった。

図表Ⅱ－3 高等学校の区分（SA）

項目	件数	(全体)%	(除不)%
県立高等学校（全日制）	3541	76.8	77.0
県立高等学校（定時制）	65	1.4	1.4
県立特別支援学校	73	1.6	1.6
市立高等学校	77	1.7	1.7
私立高等学校	842	18.3	18.3
不明	10	0.2	
N（％へ－ス）	4608	100	4598

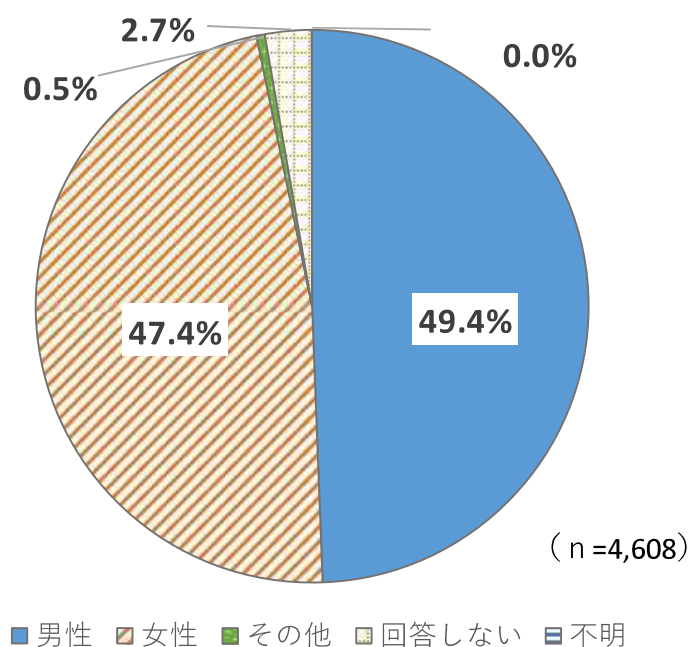


(4) 性別

・性別では、「男性」が 49.4%、「女性」が 47.4%となり、「回答しない」 2.7%、「その他」 0.5%と続いた。

図表Ⅱ－4 性別（SA）

項目	件数	(全体)%	(除不)%
男性	2277	49.4	49.4
女性	2182	47.4	47.4
その他	22	0.5	0.5
回答しない	126	2.7	2.7
不明	1	0.0	
N（％ベース）	4608	100	4607

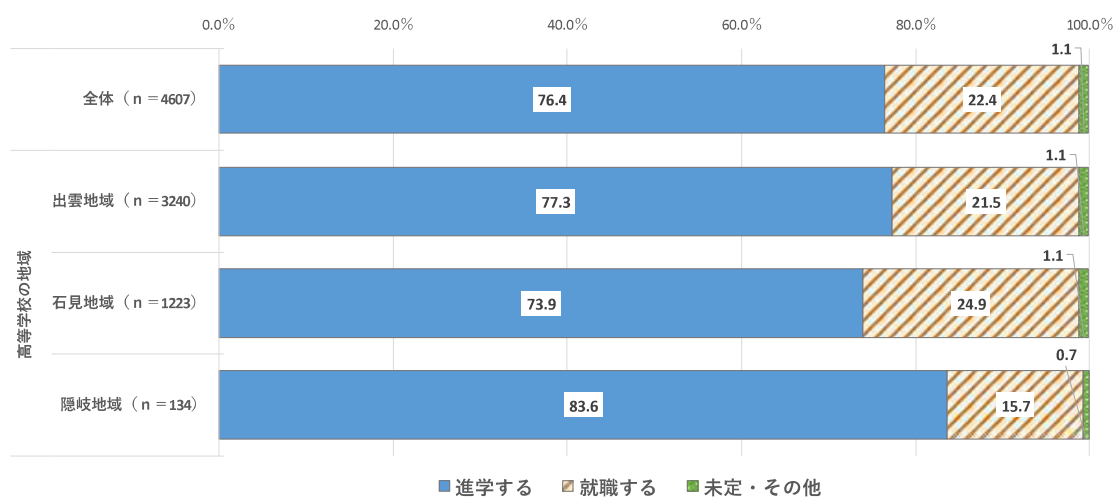


2. 卒業後の進路希望など

(1) 高校卒業後の進路（※試験の結果がでていない場合は、第一希望）

- ・ 全体では「進学する」が76.4%となり、「就職する」が22.4%、「未定・その他」が1.1%と続いた。
- ・ 高等学校の地域別にみると、「進学する」は“隠岐地域”が83.6%と最も高く、“出雲地域”77.3%、“石見地域”73.9%となった。

図表Ⅱ－5 高校卒業後の進路（SA）

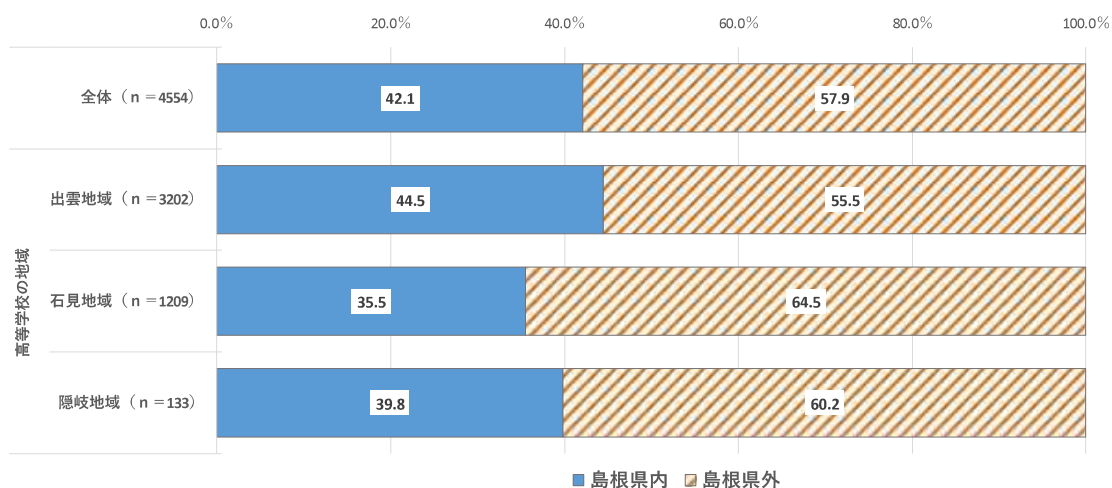


注 1) 全体は、高等学校の地域の「不明」を含む。以下同。

(2) 進学先・就職先

- ・ 全体では「島根県外」が 57.9%、「島根県内」が 42.1%となった。
- ・ 高等学校の地域別にみると、「島根県内」は“出雲地域”が 44.5%と最も高く、“隠岐地域” 39.8%、“石見地域” 35.5%となった。

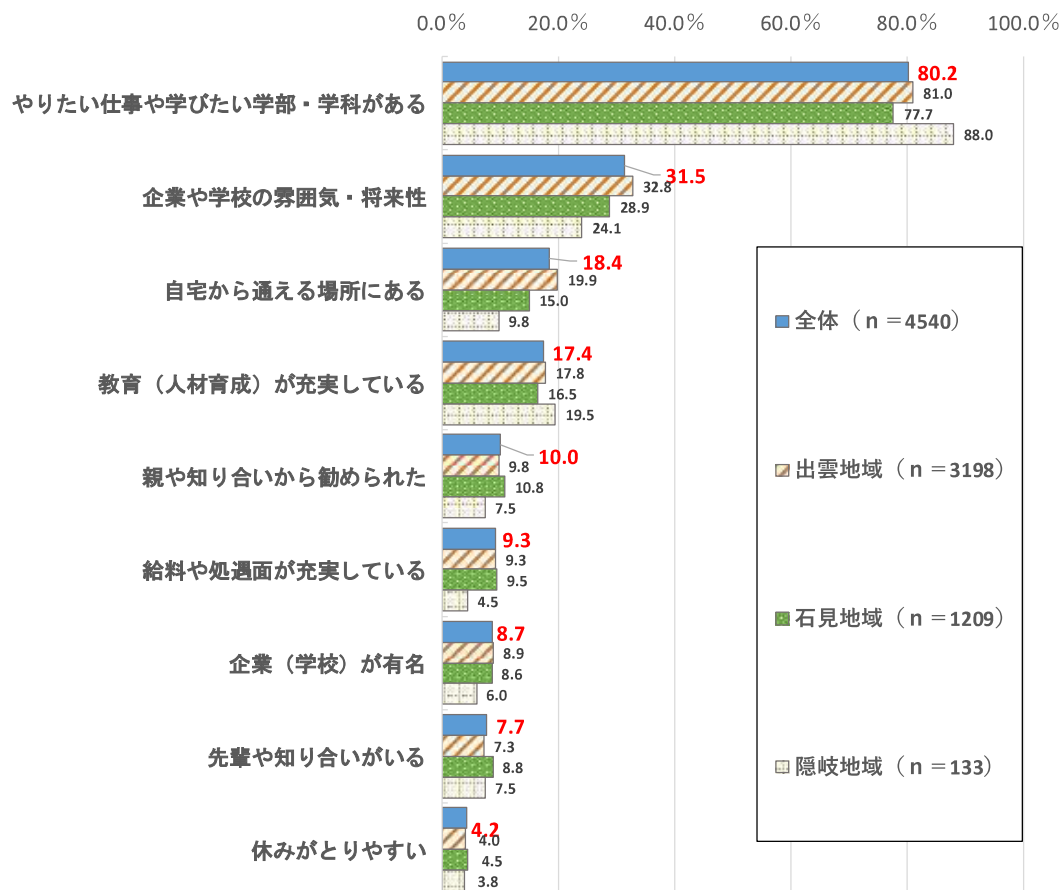
図表Ⅱ－6 進学先・就職先（SA）



(3) 進学先・就職先を決めた理由（複数回答）

- ・ 全体では「やりたい仕事や学びたい学部・学科がある」が80.2%となり、「企業や学校の雰囲気・将来性」31.5%、「自宅から通える場所にある」18.4%、「教育（人材育成）が充実している」17.4%などと続いた。
- ・ 高等学校の地域別にみると、いずれも「やりたい仕事や学びたい学部・学科がある」が最も高くなっている（出雲：81.0%、石見：77.7%、隠岐：88.0%）
- ・ それぞれの選択肢をみると、「やりたい仕事や学びたい学部・学科がある」、「教育（人材育成）が充実している」は隠岐地域、「企業や学校の雰囲気・将来性」、「自宅から通える場所にある」等は出雲地域、「親や知り合いから勧められた」、「先輩や知り合いがいる」等は石見地域が他の地域と比べて高い回答割合となっている。

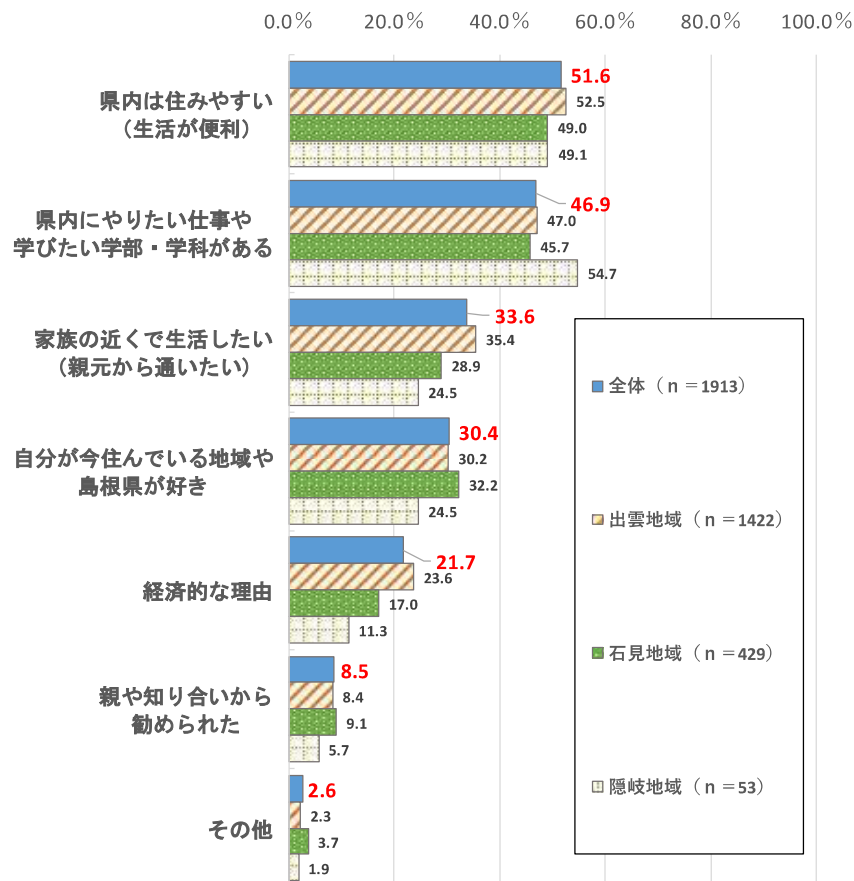
図表Ⅱ－7 進学先・就職先を決めた理由（MA）



(4) 県内への進学や就職を決めた理由（複数回答）

- ・ 島根県内に就職・進学する人を対象に理由について尋ねたところ、全体では「県内は住みやすい（生活が便利）」が51.6%となり、「県内にやりたい仕事や学びたい学部・学科がある」46.9%、「家族の近くで生活したい（親元から通いたい）」33.6%、「自分が今住んでいる地域や島根県が好き」30.4%などと続いた。
- ・ それぞれの選択肢をみると、「県内は住みやすい（生活が便利）」、「家族の近くで生活したい（親元から通いたい）」、「経済的な理由」は出雲地域、「自分が今住んでいる地域や島根県が好き」、「親や知り合いから勧められた」等は石見地域、「県内にやりたい仕事や学びたい学部・学科がある」は隠岐地域が他の地域と比べて高い回答割合となっている。

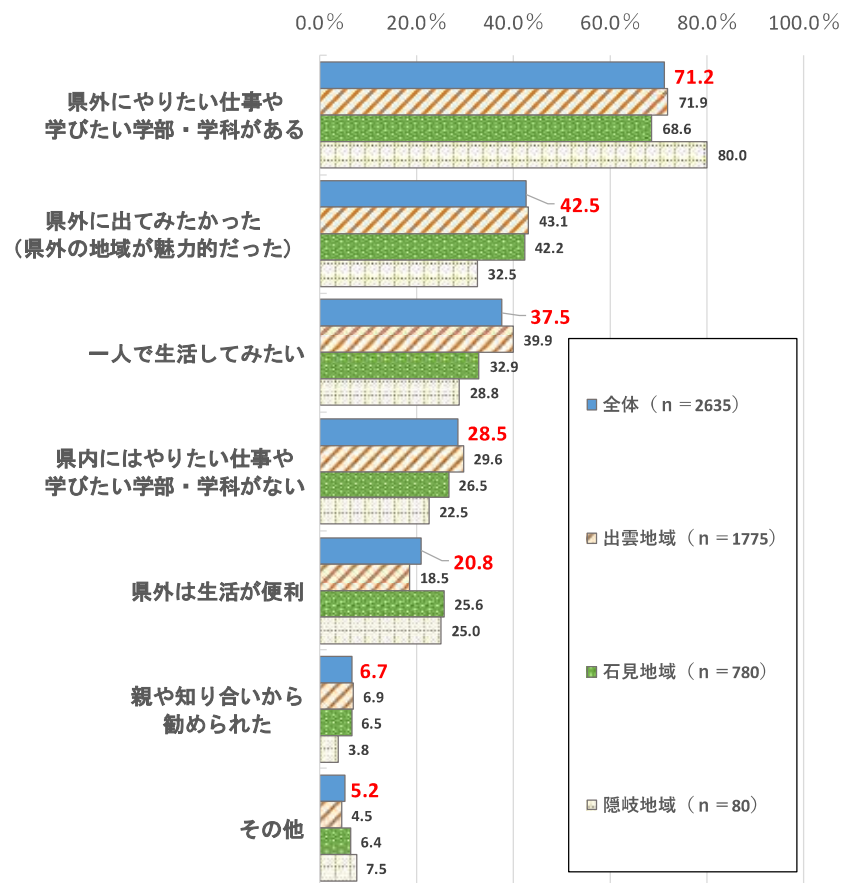
図表Ⅱ－8 県内への進学や就職を決めた理由（MA）



(5) 県外への進学や就職を決めた理由（複数回答）

- ・ 島根県外に就職・進学する人を対象に理由について尋ねたところ、全体では「県外にやりたい仕事や学びたい学部・学科がある」が71.2%となり、「県外に出てみたかった（県外の地域が魅力的だった）」42.5%、「一人で生活してみたい」37.5%、「県内にはやりたい仕事や学びたい学部・学科がない」28.5%などと続いた。
- ・ それぞれの選択肢をみると、「県外にやりたい仕事や学びたい学部・学科がある」等は隠岐地域、「県外に出てみたかった（県外の地域が魅力的だった）」、「一人で生活してみたい」等は出雲地域、「県外は生活が便利」は石見地域が他の地域と比べて高い回答割合となっている。

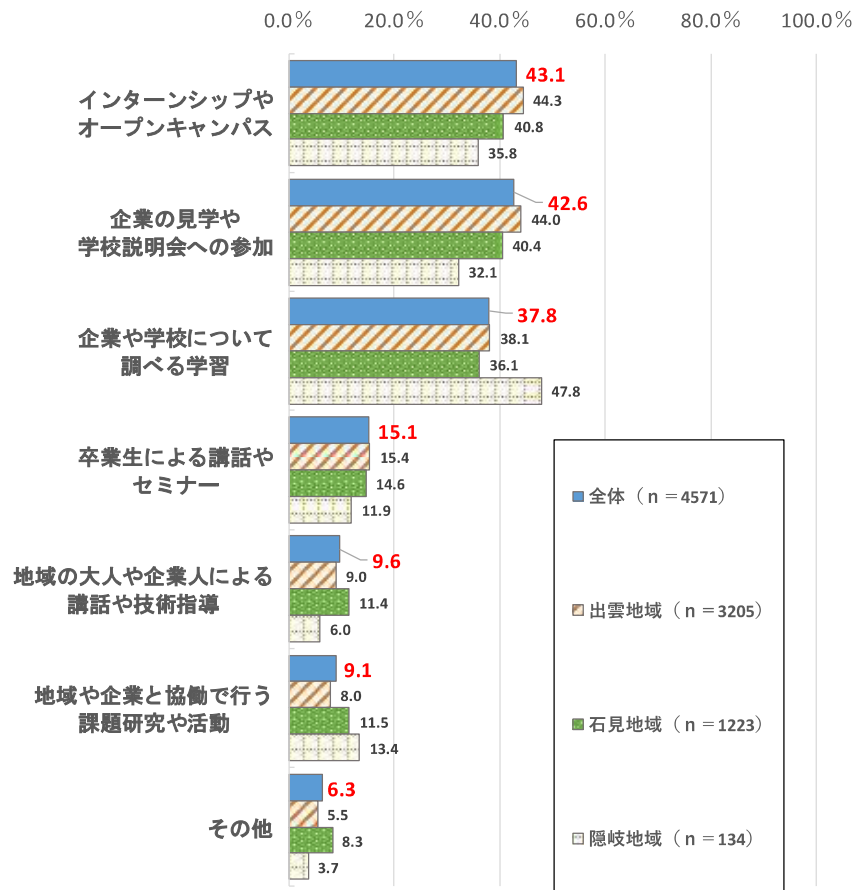
図表Ⅱ－9 県外への進学や就職を決めた理由（MA）



(6) 進路決定にあたり、参考になった高校での取組（複数回答）

- ・全体では、「インターンシップやオープンキャンパス」が43.1%となり、「企業の見学や学校説明会への参加」42.6%、「企業や学校について調べる学習」37.8%、「卒業生による講話やセミナー」15.1%などと続いた。
- ・それぞれの選択肢をみると、「インターンシップやオープンキャンパス」、「企業の見学や学校説明会への参加」等は出雲地域、「企業や学校について調べる学習」、「地域や企業と協働で行う課題研究や活動」は隠岐地域、「地域の大人や企業人による講話や技術指導」等は石見地域が他の地域と比べて高い回答割合となっている。

図表Ⅱ－10 進路決定にあたり、参考になった高校での取組（MA）



3. 島根県の「ふるさと教育」について

○評点法による分析

“「ふるさと教育」への評価” および、“地域への意識” について、「あてはまる」～「あてはまらない」の回答を4点から1点までの得点をつけて数値化した。

次ページ以降のグラフは、算出した数値を示したもので、2.5 を中心に 4.0 に近いほうが好評価（「あてはまる」・「どちらかといえばあてはまる」の回答が相対的に多い）、1.0 に近いほうが低評価（「どちらかといえばあてはまらない」・「あてはまらない」）に振れていることを示している。

なお、算出方法は以下の通りである。

図表Ⅱ－11 数値の算出方法

選択肢	あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない
得点	4点	3点	2点	1点
回答数	A	B	C	D
評価				

【算出式】

$$\frac{4A + 3B + 2C + 1D}{A + B + C + D}$$

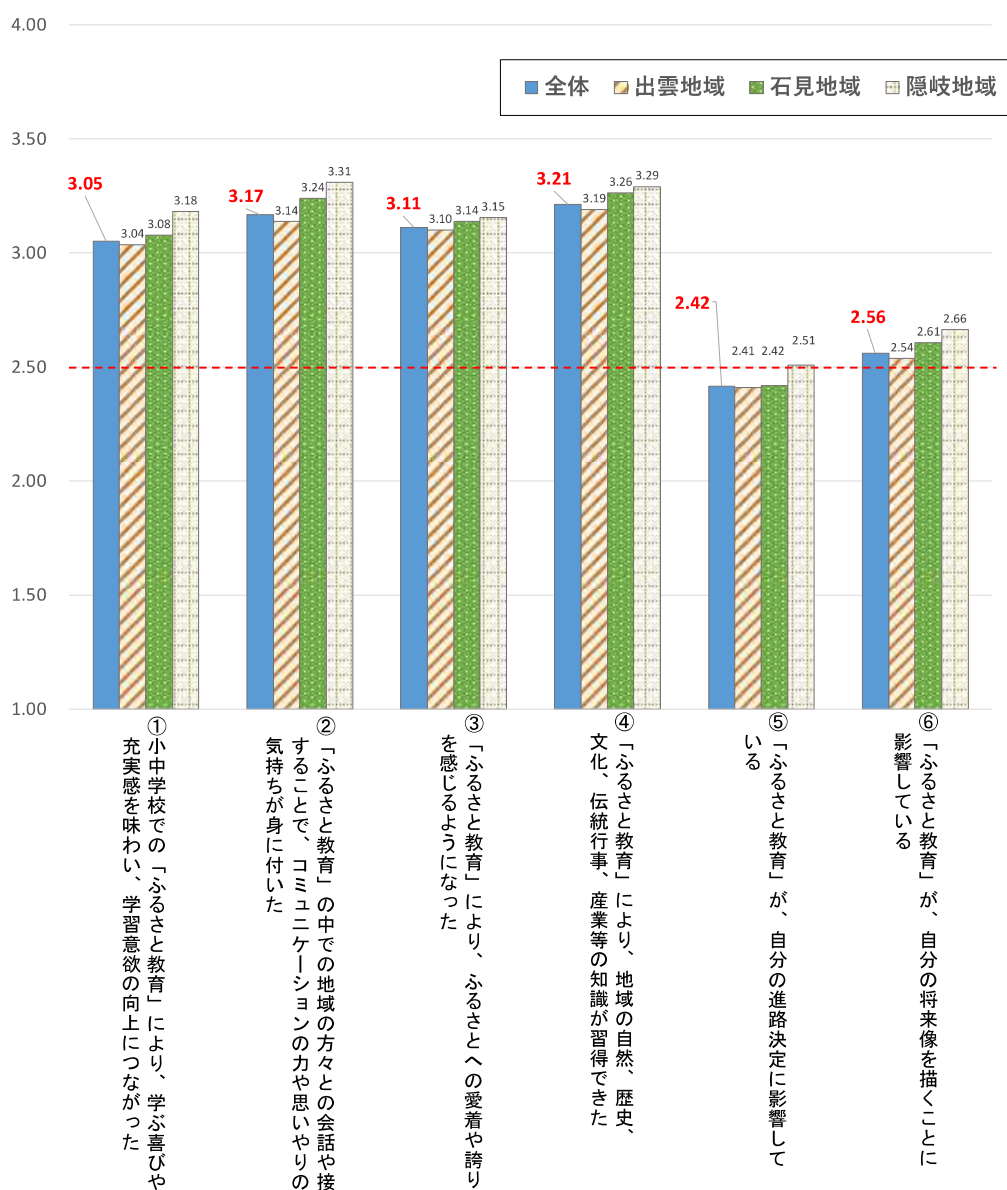
※それぞれの選択肢への回答数に、上記の得点をつけて数値化します。

※上記の場合、最低評価1点～最高評価4点となります。

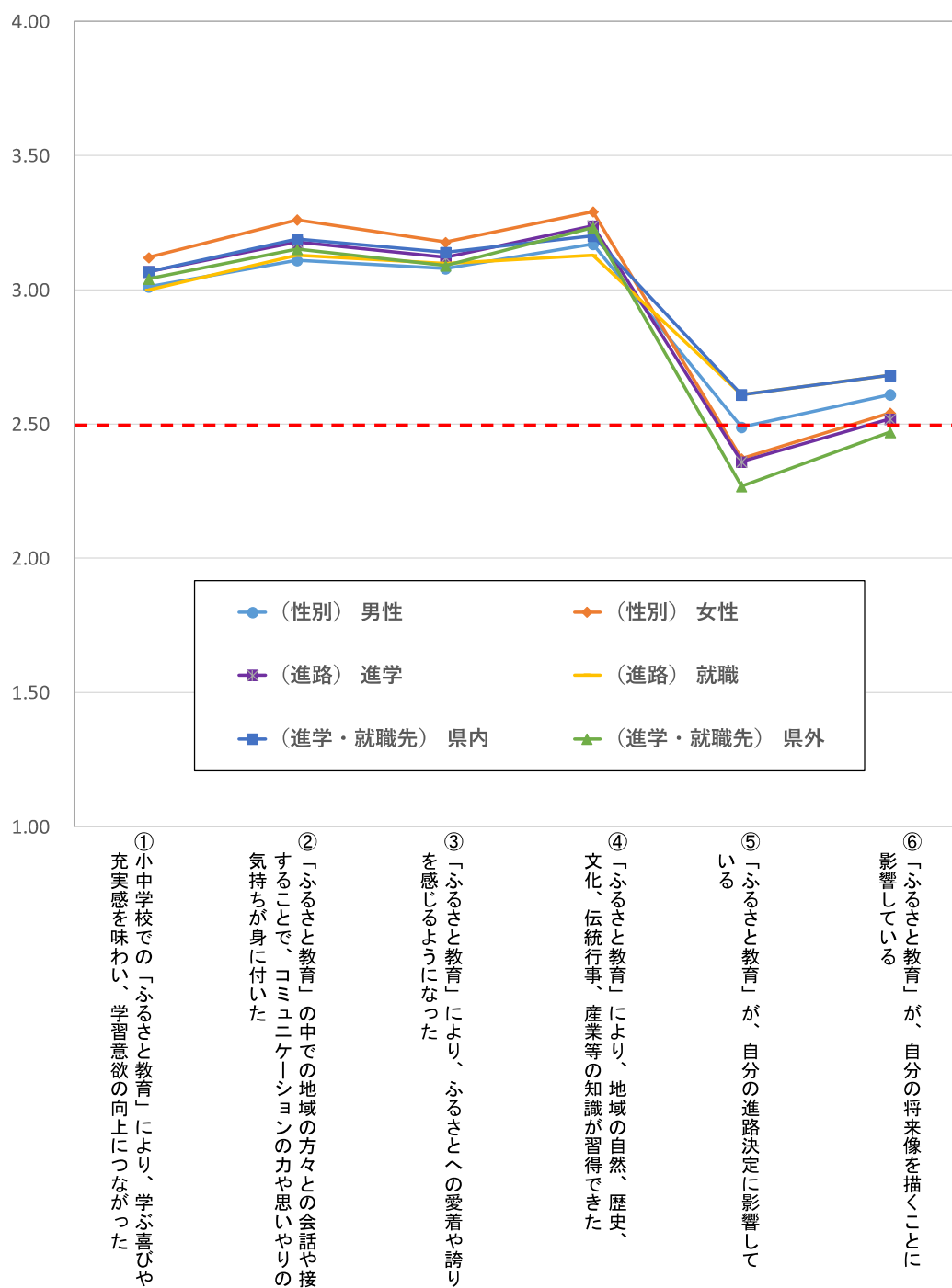
(1) 「ふるさと教育」への評価

・最も数値が高いのは、“④「ふるさと教育」により、地域の自然、歴史、文化、伝統行事、産業等の知識が習得できた” (3.21) であり、続いて、“②「ふるさと教育」の中での地域の方々との会話や接することで、コミュニケーションの力や思いやりの気持ちが身に付いた” (3.17)、“③「ふるさと教育」により、ふるさとへの愛着や誇りを感じるようになった” (3.11) となった。

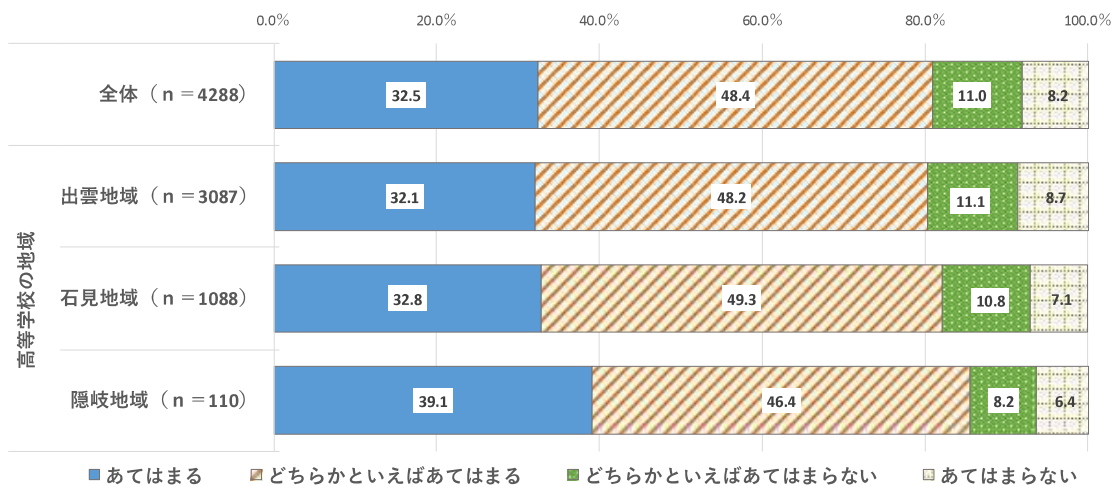
図表Ⅱ－12 「ふるさと教育」への評価



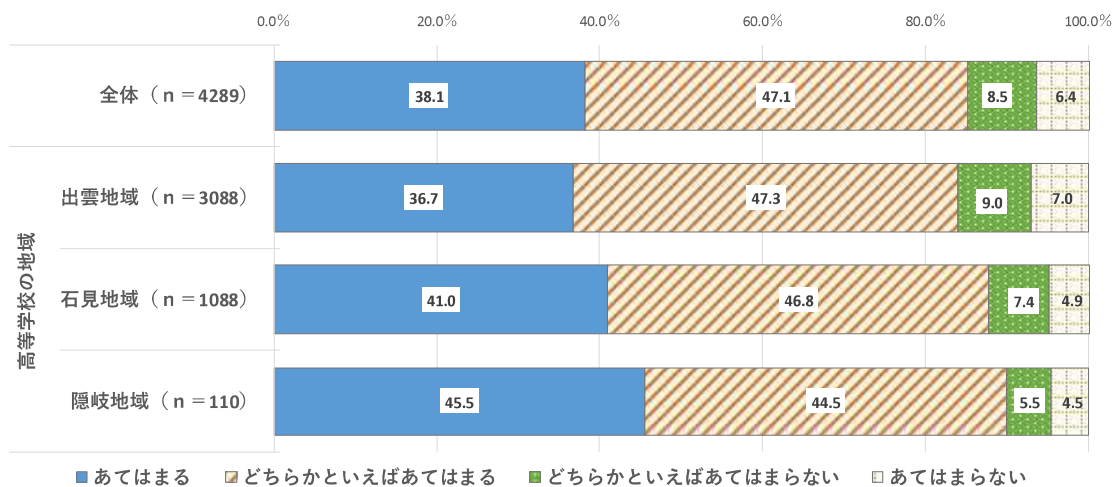
(参考) 図表Ⅱ－13 「ふるさと教育」への評価(その他属性)



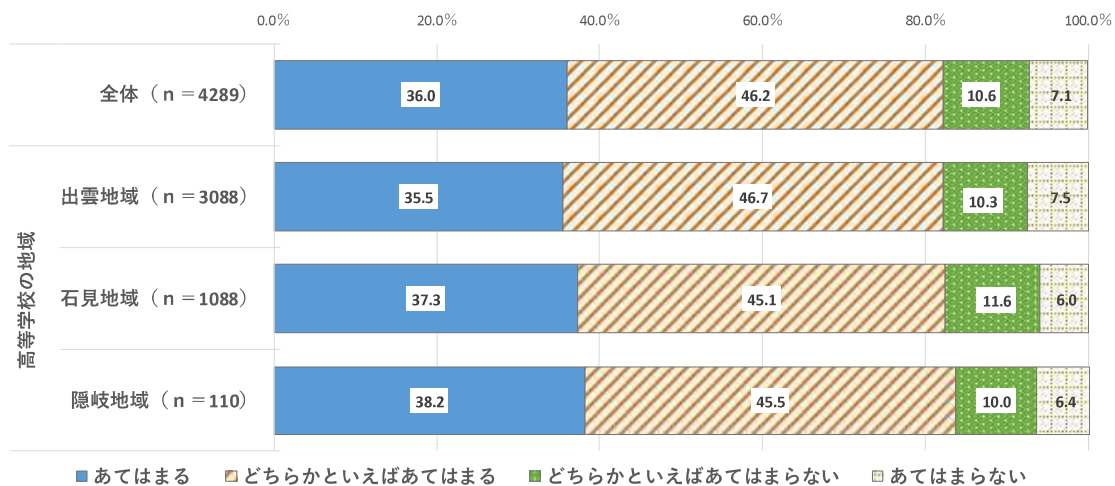
(参考) 図表Ⅱ－14 ①小中学校での「ふるさと教育」により、学ぶ喜びや充実感を味わい、学習意欲の向上につながった (SA)



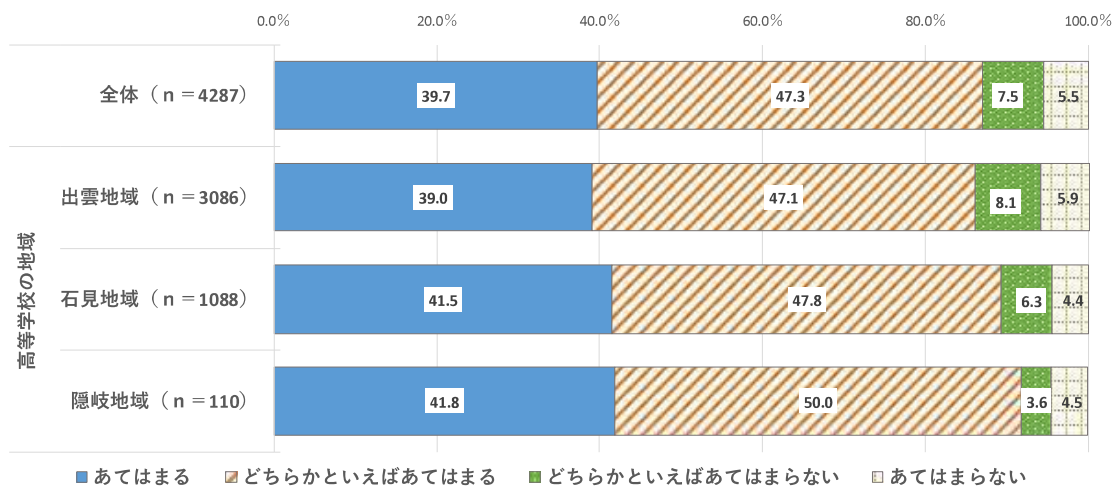
(参考) 図表Ⅱ－15 ②「ふるさと教育」の中での地域の方々との会話や接することでコミュニケーションの力や思いやりの気持ちが身に付いた (SA)



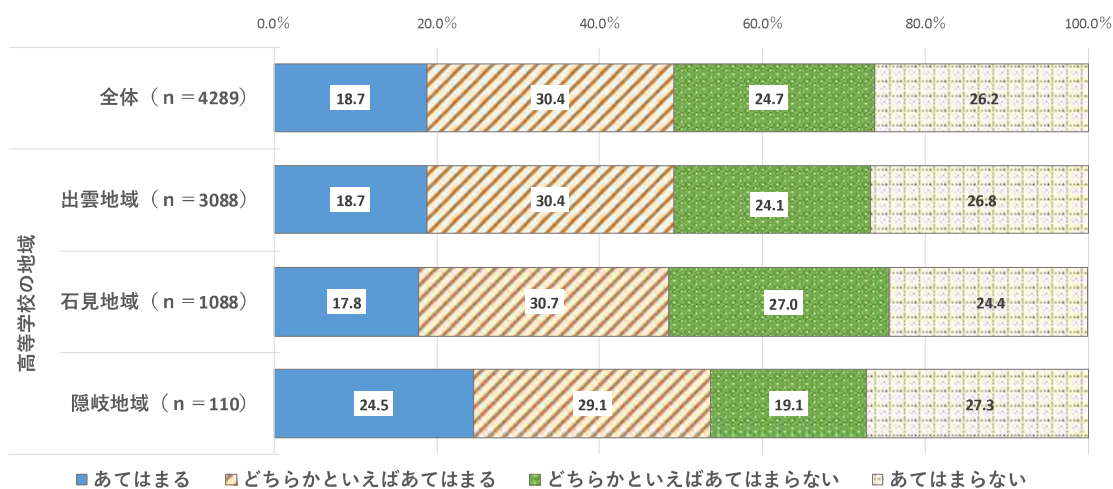
(参考) 図表Ⅱ－16 ③「ふるさと教育」により、ふるさとへの愛着や誇りを感じるようになった (SA)



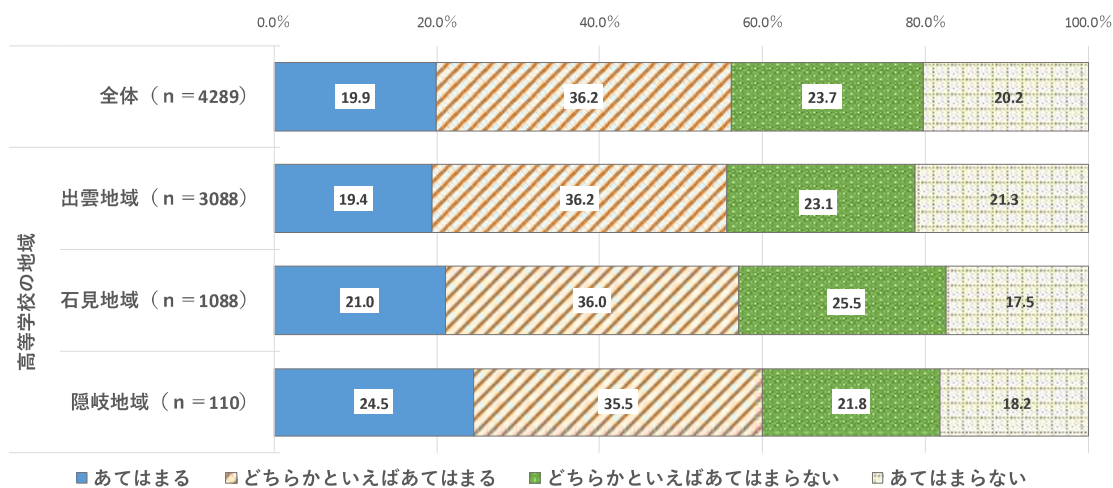
(参考) 図表Ⅱ－17 ④「ふるさと教育」により、地域の自然、歴史、文化、伝統行事、産業等の知識が習得できた (SA)



(参考) 図表Ⅱ－18 ⑤「ふるさと教育」が、自分の進路決定に影響している (SA)



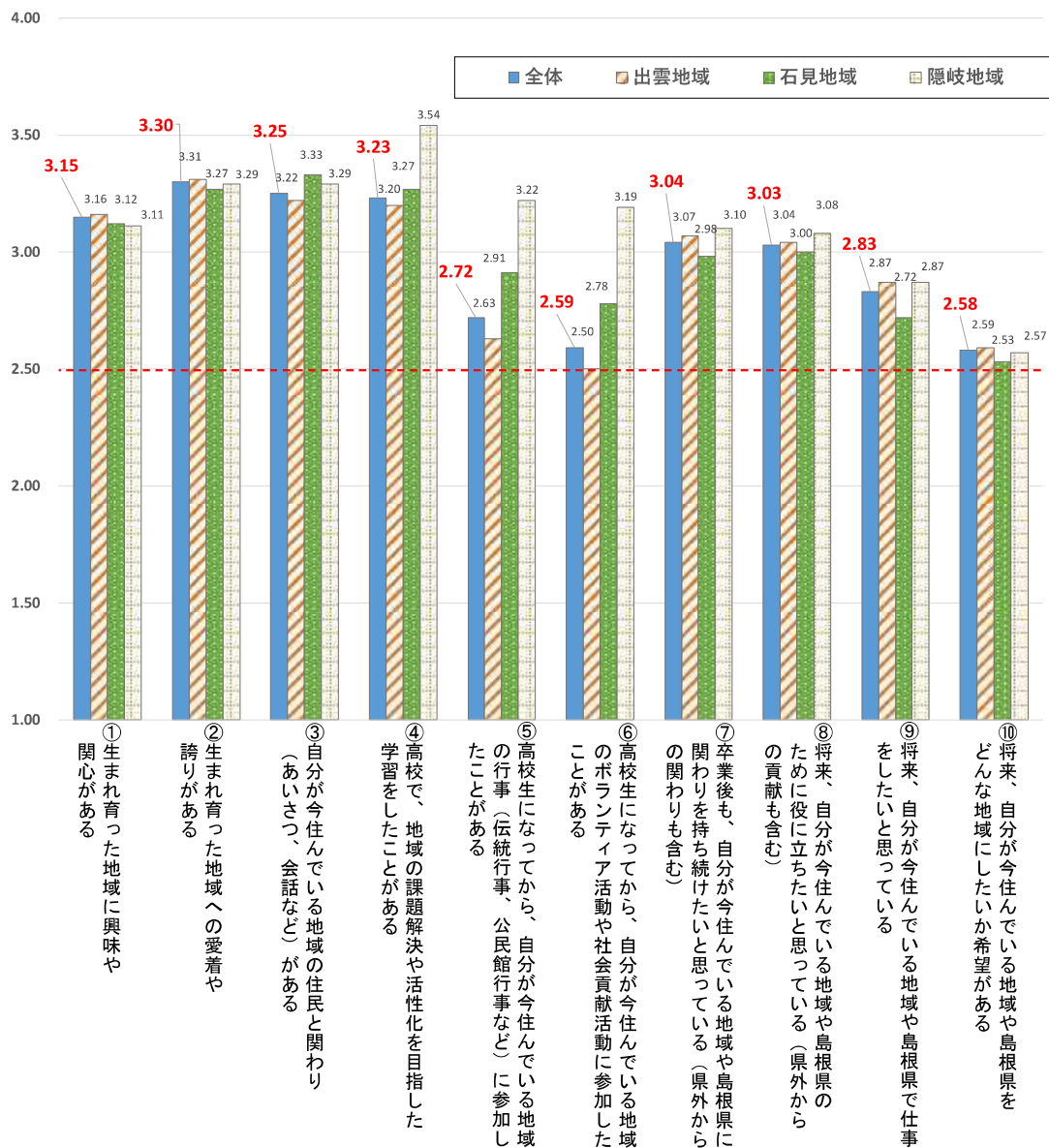
(参考) 図表Ⅱ－19 ⑥「ふるさと教育」が、自分の将来像を描くことに影響している (SA)



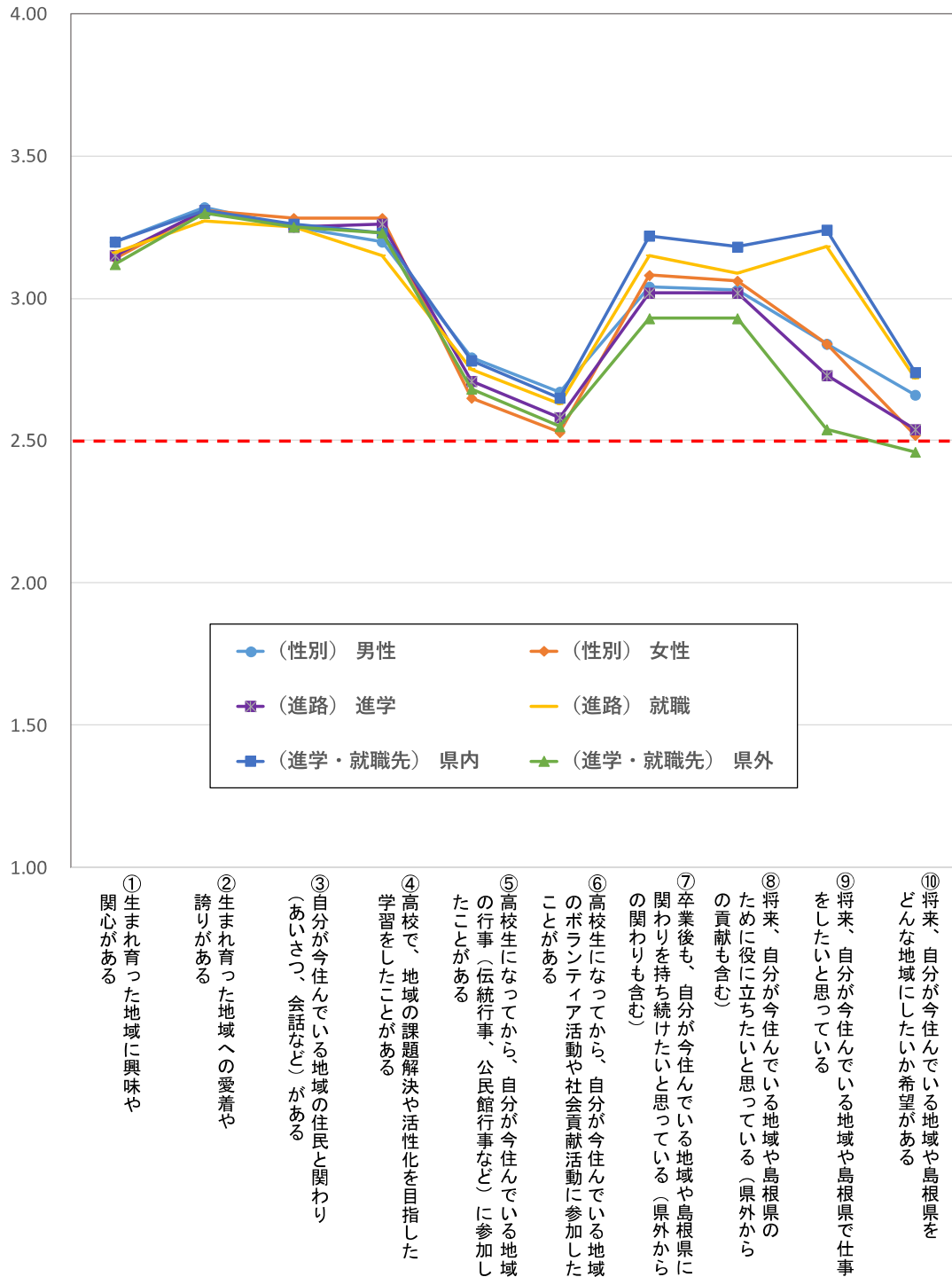
(2) 地域への意識

・最も数値が高いのは、“②生まれ育った地域への愛着や誇りがある”（3.30）であり、続いて、“③自分が今住んでいる地域の住民と関わり（あいさつ、会話など）がある”（3.25）、“④高校で、地域の課題解決や活性化を目指した学習をしたことがある”（3.23）となった。

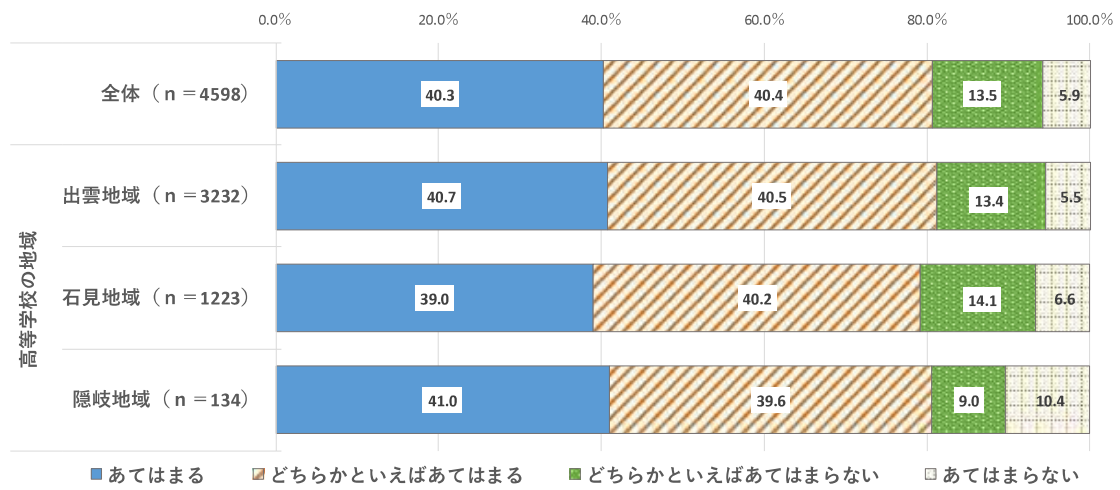
図表Ⅱ－20 地域への意識



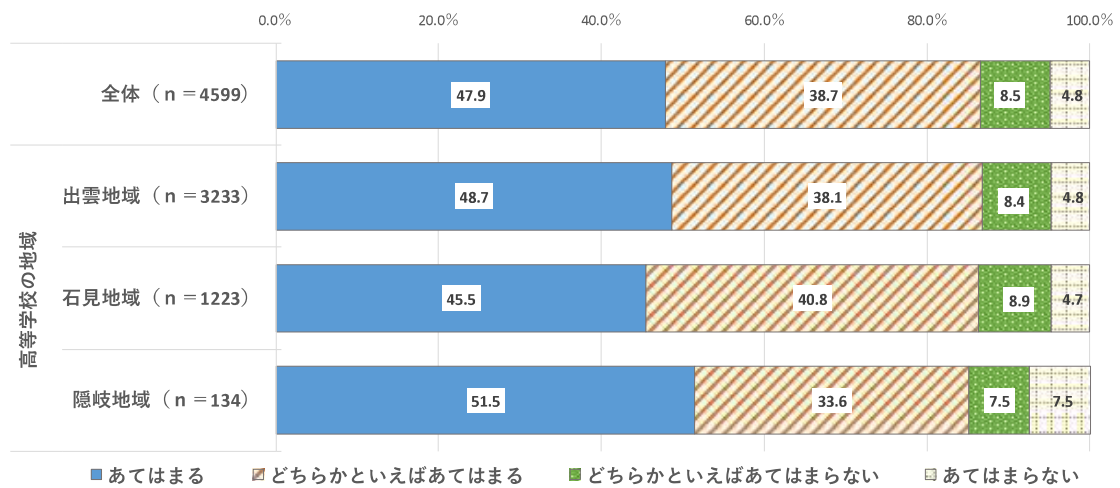
(参考) 図表Ⅱ－21 地域への意識（その他属性）



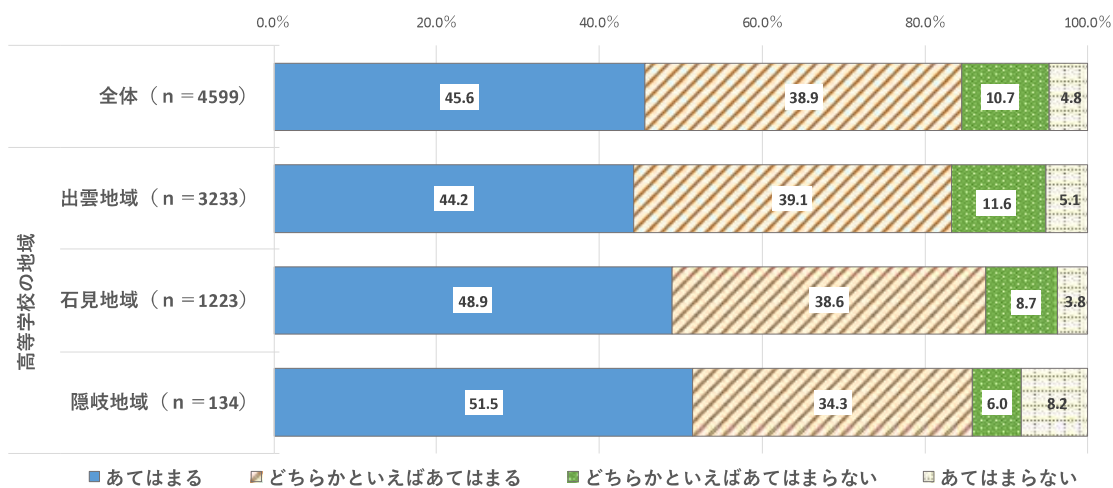
(参考) 図表Ⅱ－22 ①生まれ育った地域に興味や関心がある (SA)



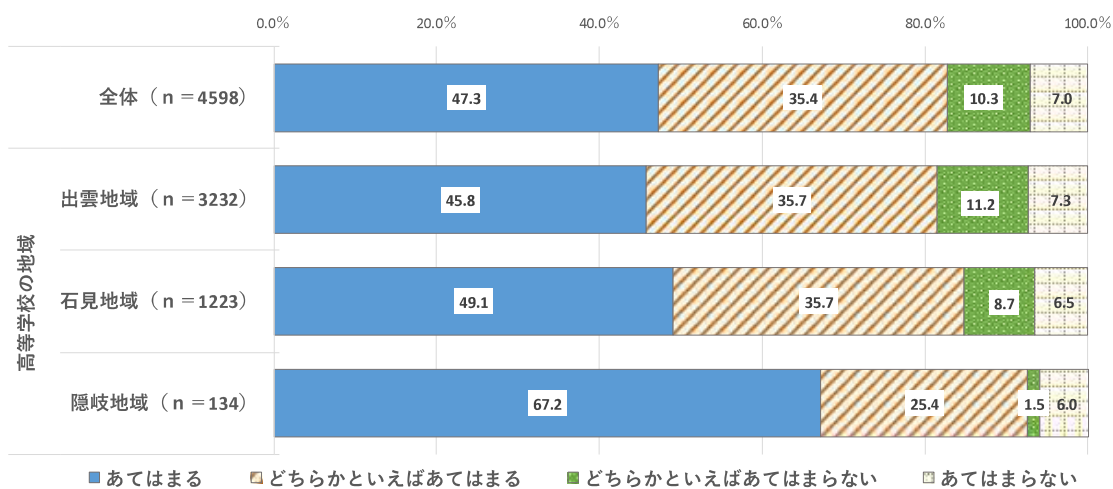
(参考) 図表Ⅱ－23 ②生まれ育った地域への愛着や誇りがある (SA)



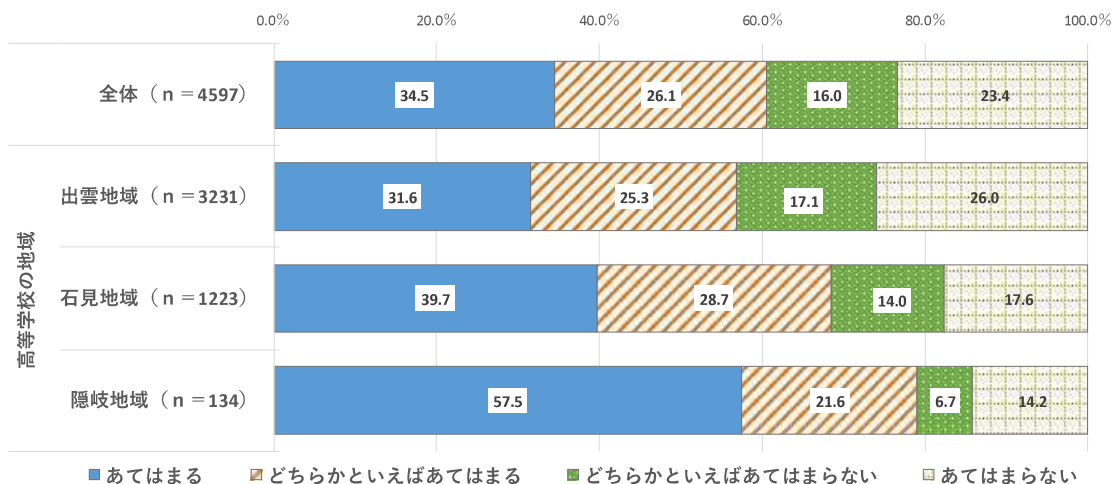
(参考) 図表Ⅱ－24 ③自分が今住んでいる地域の住民と関わり（あいさつ、会話など）がある（SA）



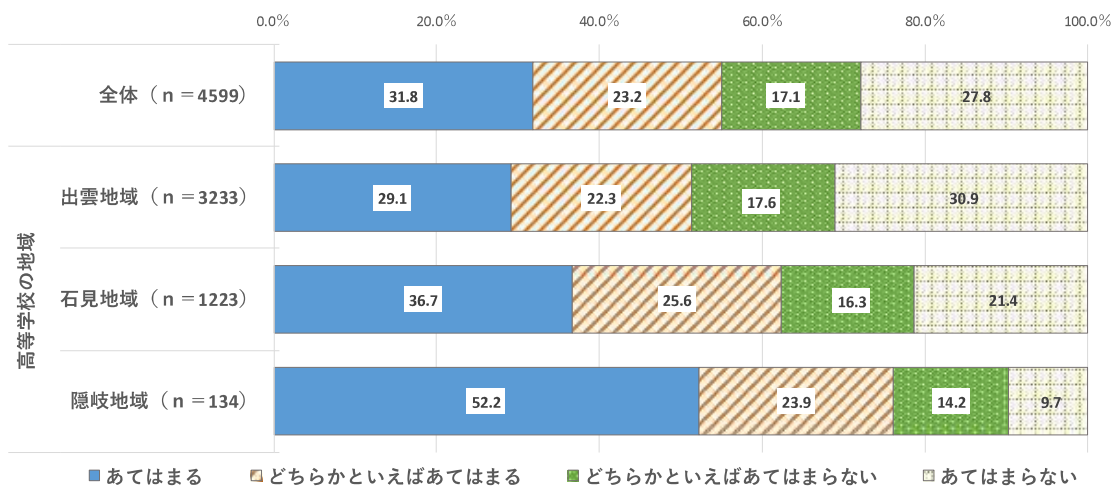
(参考) 図表Ⅱ－25 ④高校で、地域の課題解決や活性化を目指した学習をしたことがある（SA）



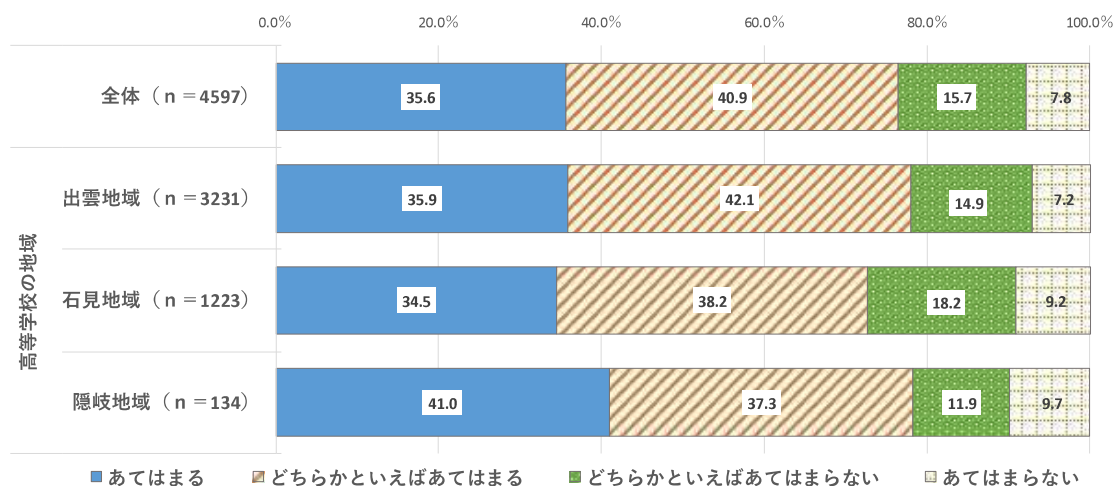
(参考) 図表Ⅱ-26 ⑤高校生になってから、自分が今住んでいる地域の行事(伝統行事、公民館行事など)に参加したことがある(SA)



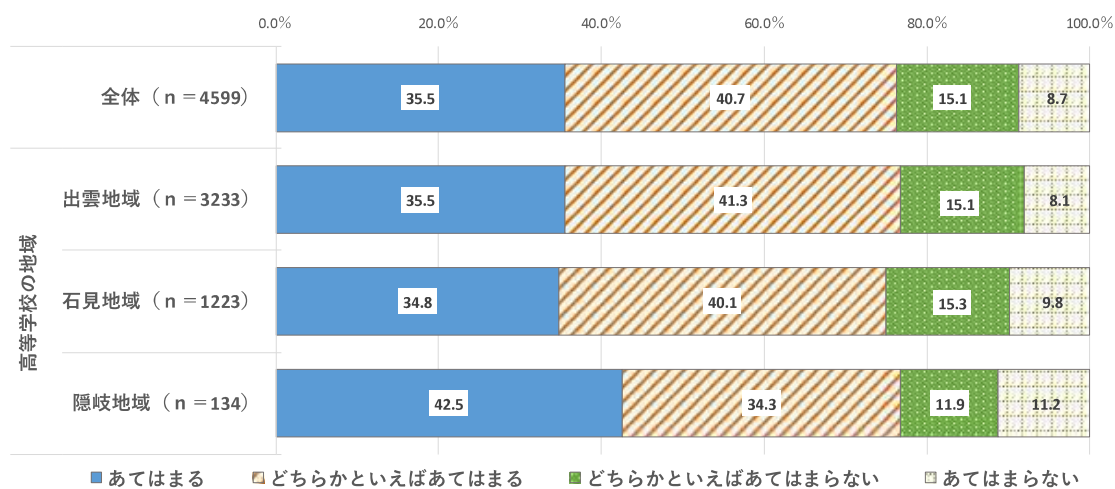
(参考) 図表Ⅱ-27 ⑥高校生になってから、自分が今住んでいる地域のボランティア活動や社会貢献活動に参加したことがある(SA)



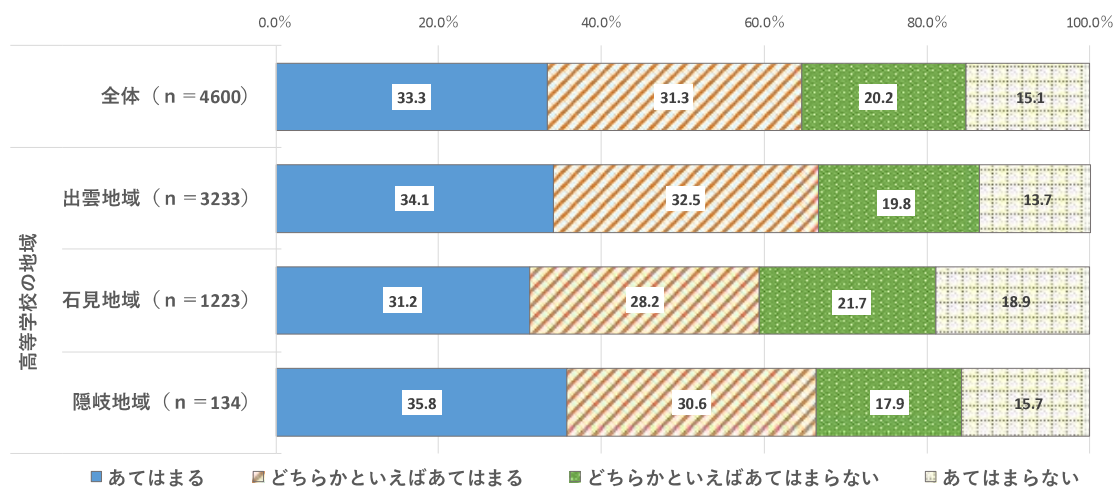
(参考) 図表Ⅱ－28 ⑦卒業後も、自分が今住んでいる地域や島根県に関わりを持ち続けたいと思っている（県外からの関わりも含む）(SA)



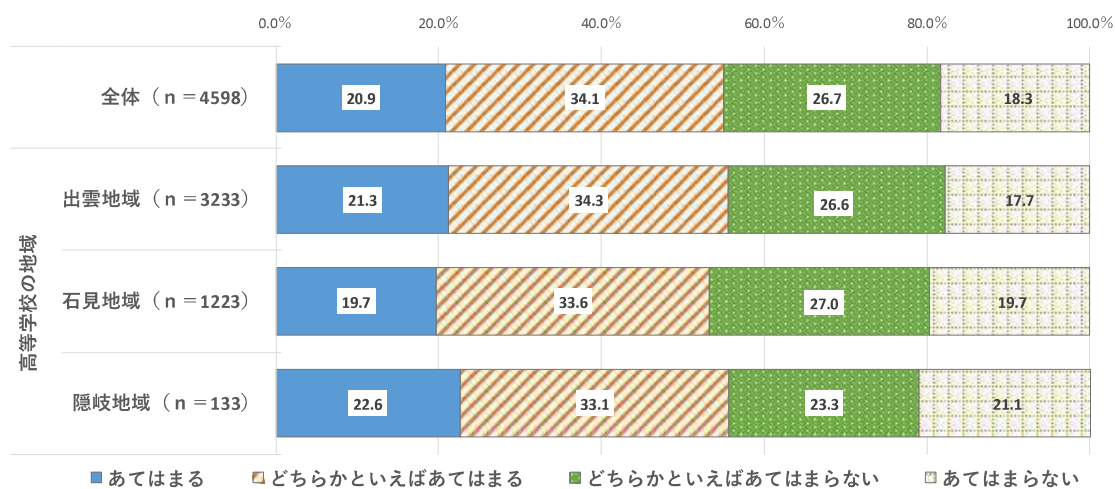
(参考) 図表Ⅱ－29 ⑧将来、自分が今住んでいる地域や島根県のために役に立ちたいと思っている（県外からの貢献も含む）(SA)



(参考) 図表Ⅱ－30 ⑨将来、自分が今住んでいる地域や島根県で仕事をしたいと思っている (SA)

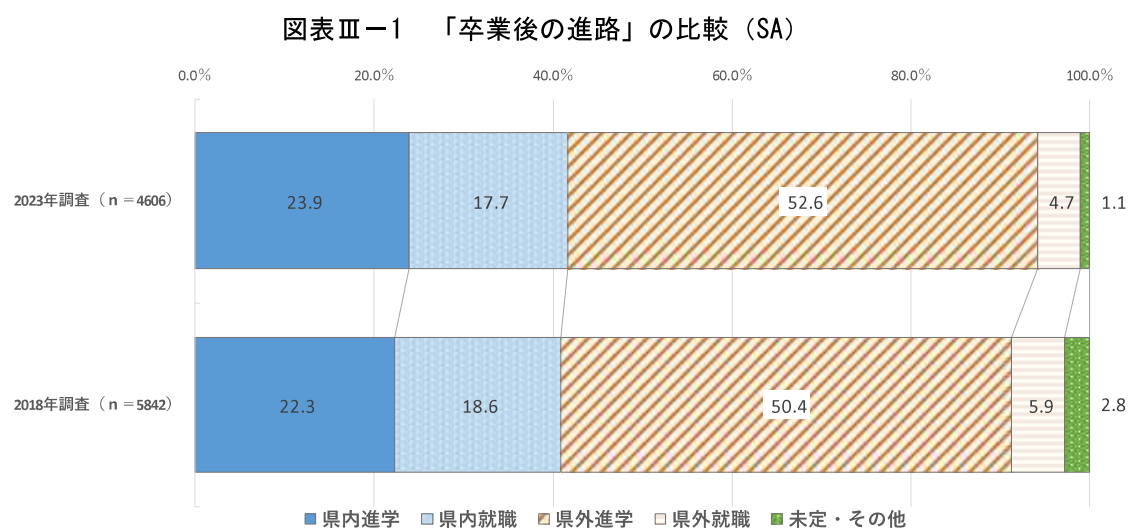


(参考) 図表Ⅱ－31 ⑩将来、自分が今住んでいる地域や島根県をどんな地域にしたいか希望がある (SA)



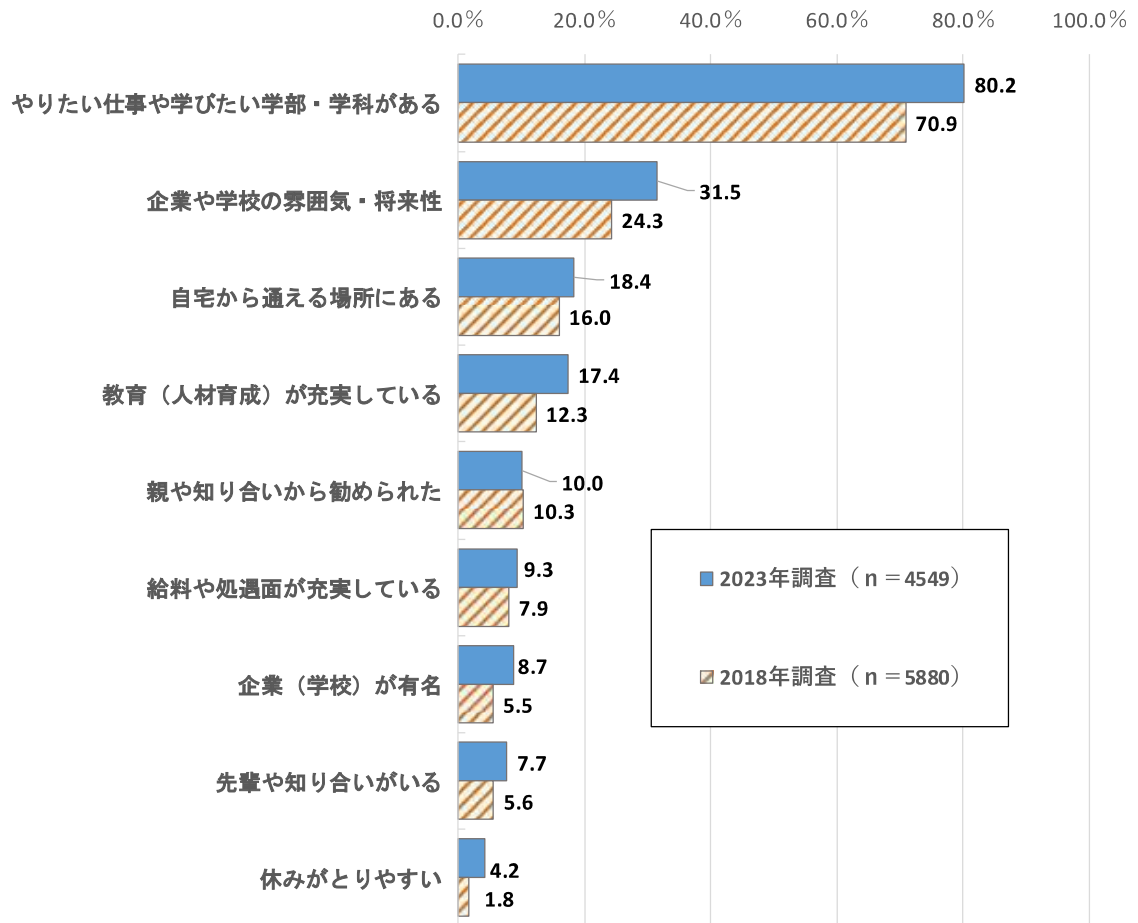
III. 前回調査との比較

2018年に実施した、高校生の進路決定に関する意識等の実態についての調査結果について、調査方法や実施時期、質問内容等が異なるため単純に比較は出来ないが、参考までに主要な設問について今回調査結果との比較を実施した。

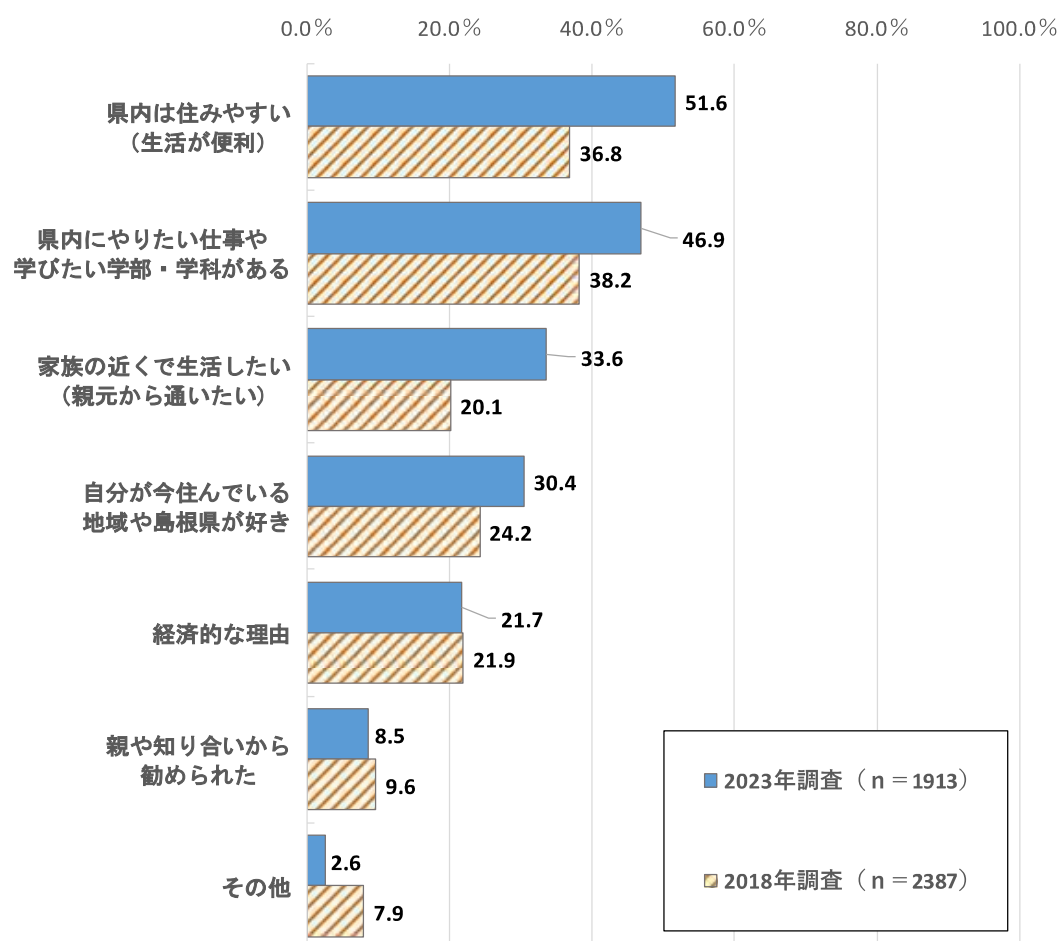


注）2023 調査：「進学する」が県内か県外かは不明の 1 件を除く数値。

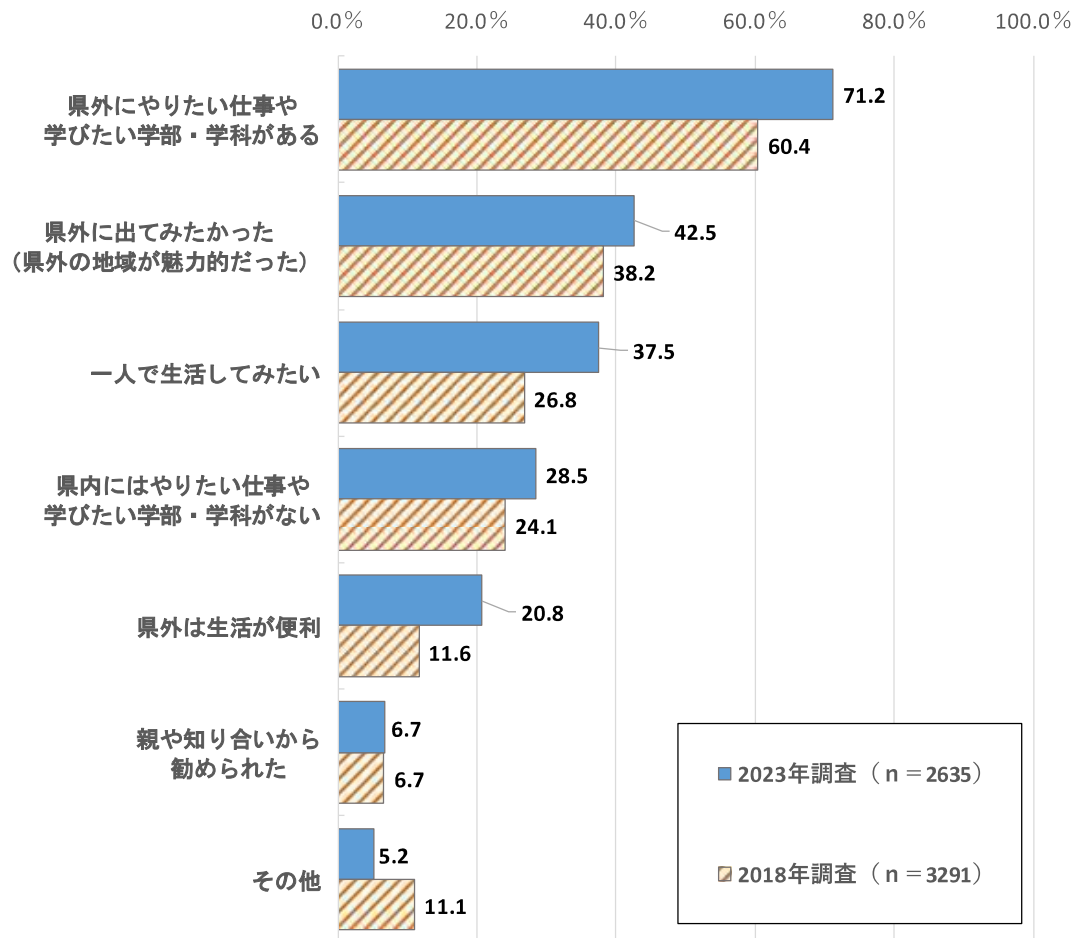
図表Ⅲ－2 「進学先・就職先を決めた理由」の比較（MA）



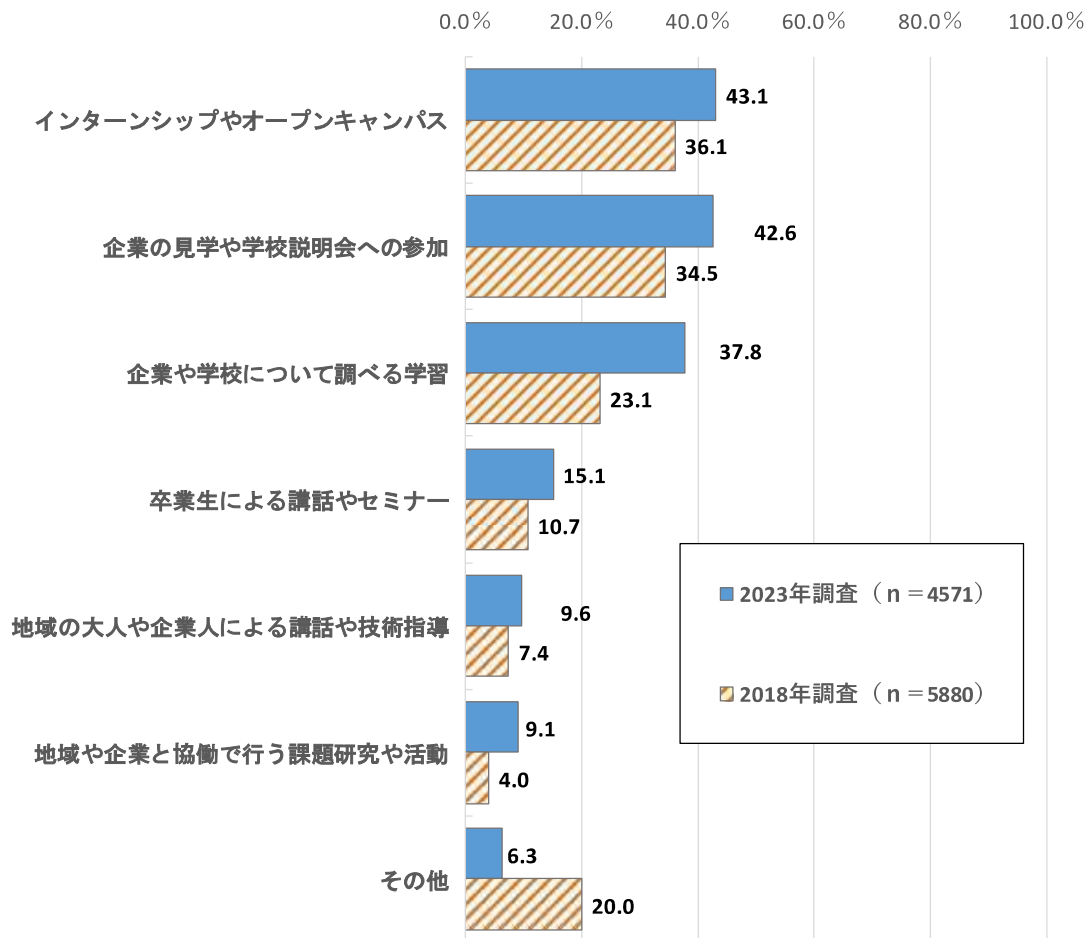
図表Ⅲ－3 「県内への進学や就職を決めた理由」の比較（MA）



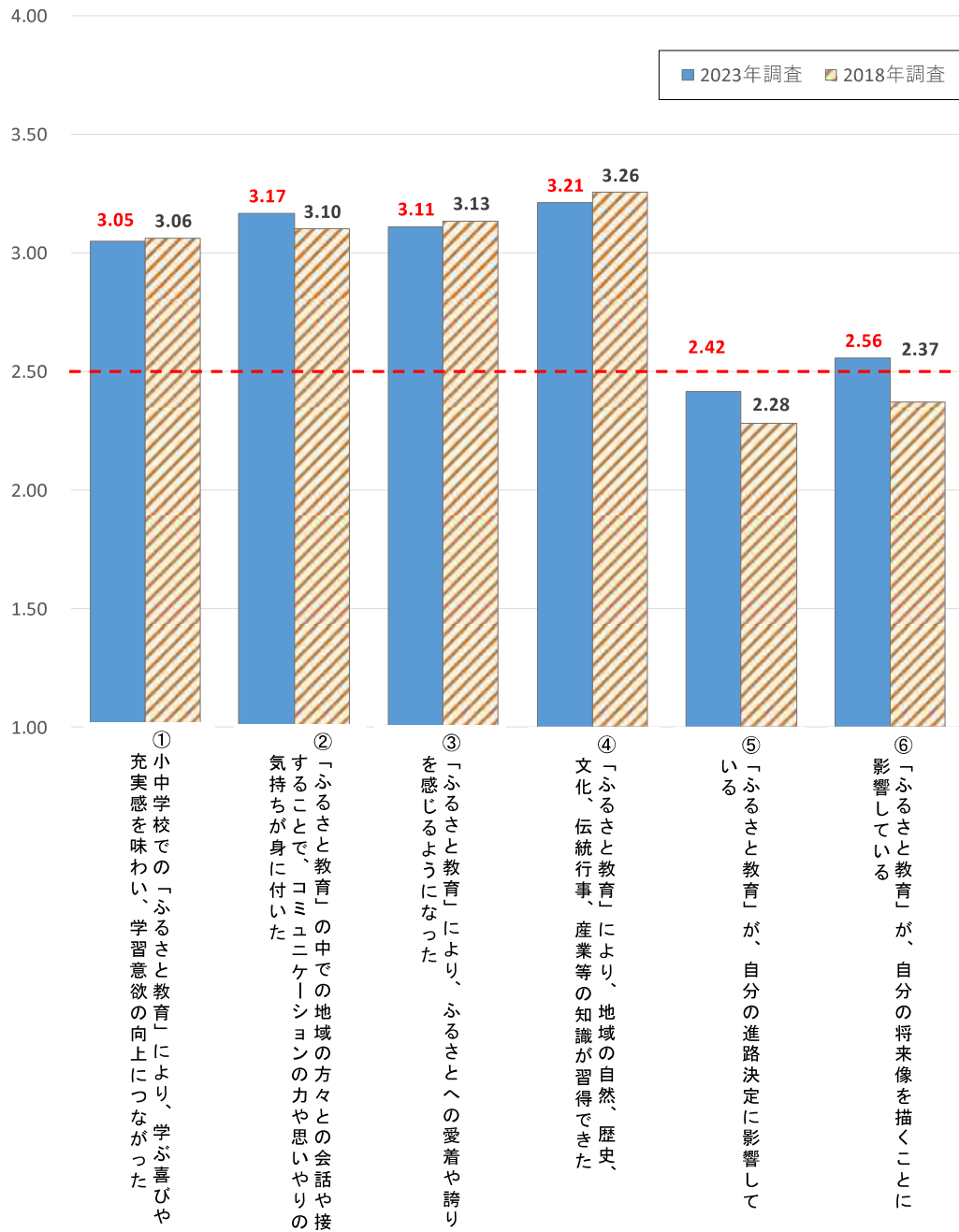
図表Ⅲ－４ 「県外への進学や就職を決めた理由」の比較（MA）



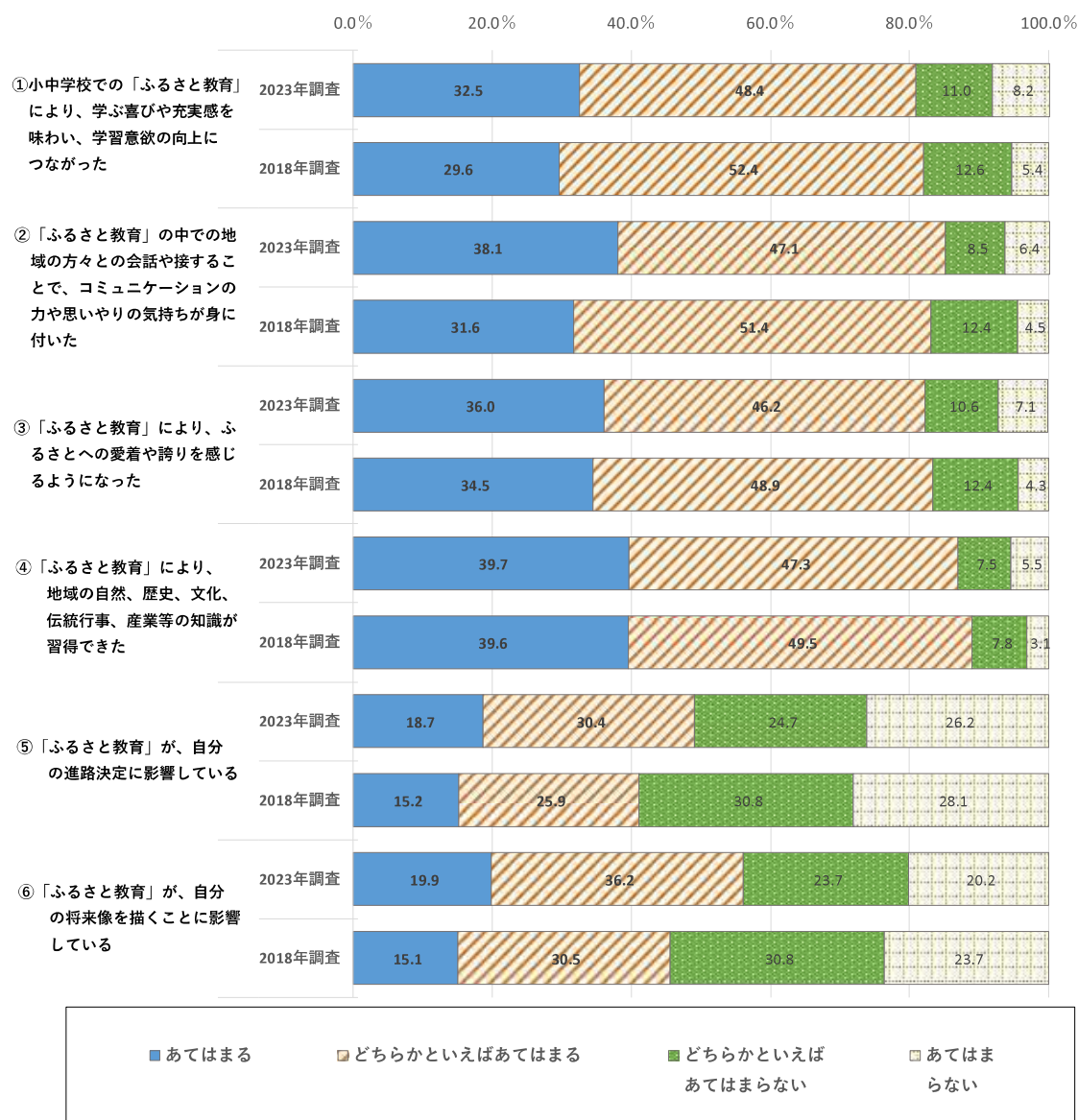
図表Ⅲ－5 「進路決定にあたり、参考になった高校での取組」の比較（MA）



図表Ⅲ－6 「ふるさと教育」への評価（数値）」の比較（SA）

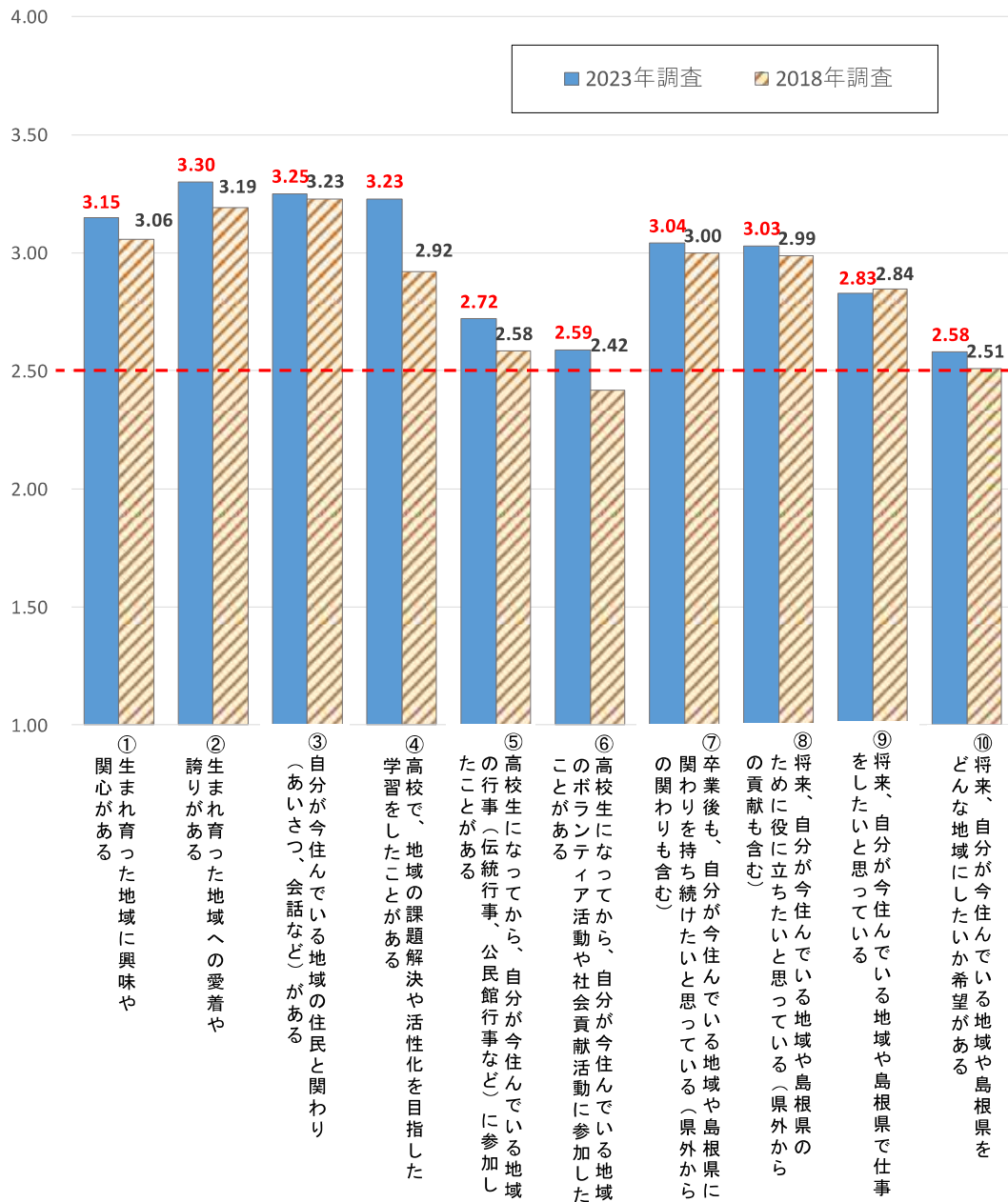


(参考) 図表Ⅲ-7 「「ふるさと教育」への評価」の比較 (SA)

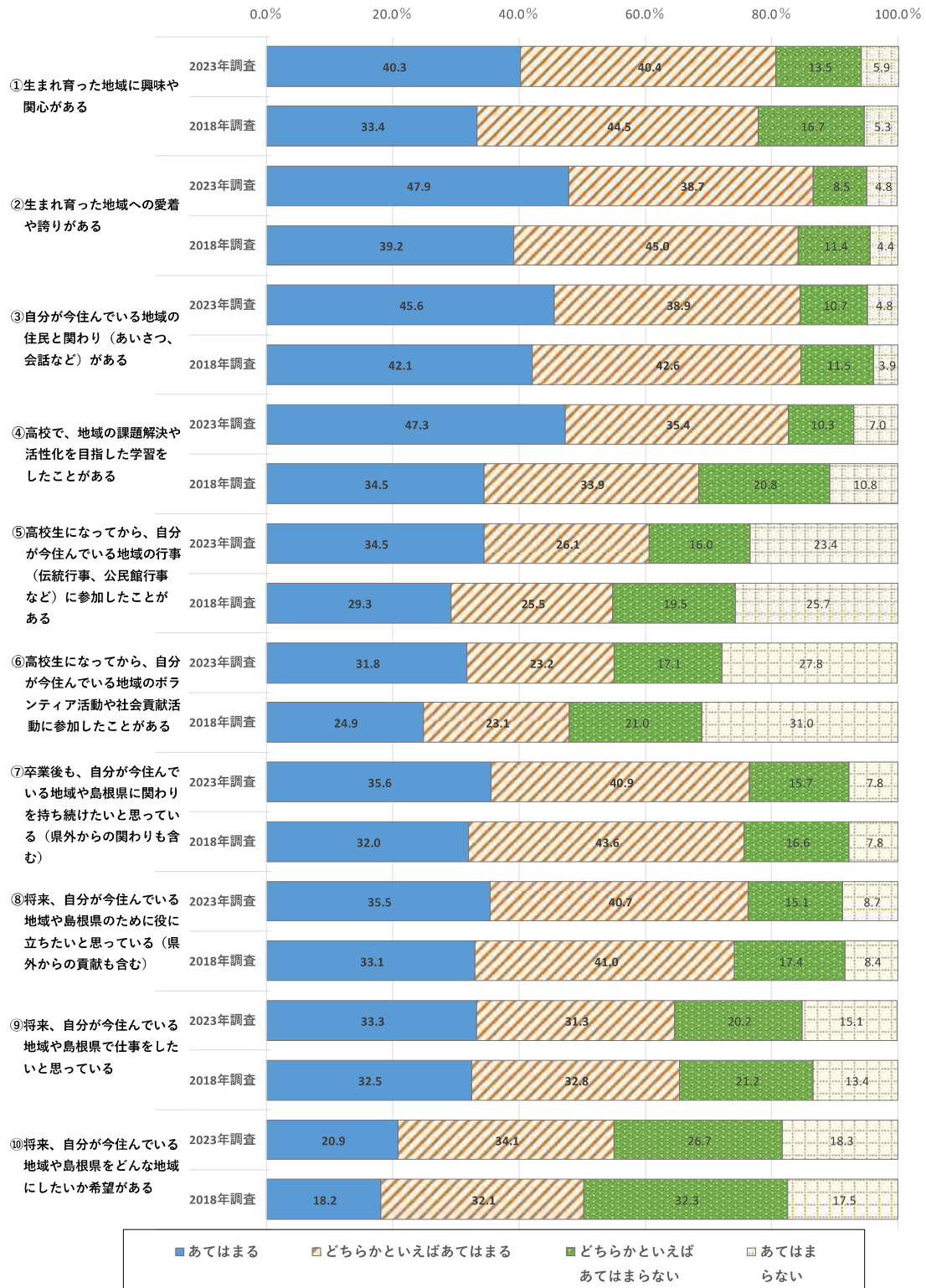


※2023 年、2018 年調査とも無回答を除く有効回答から算出した割合。以下同。

図表Ⅲ－8 「地域への意識（数値）」の比較（SA）



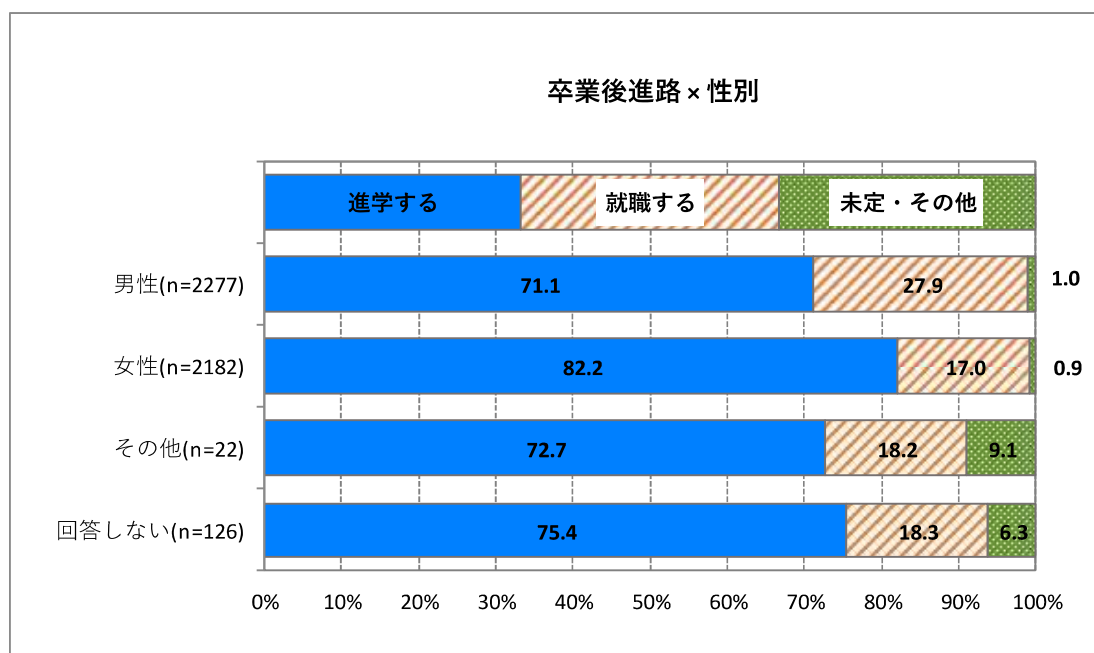
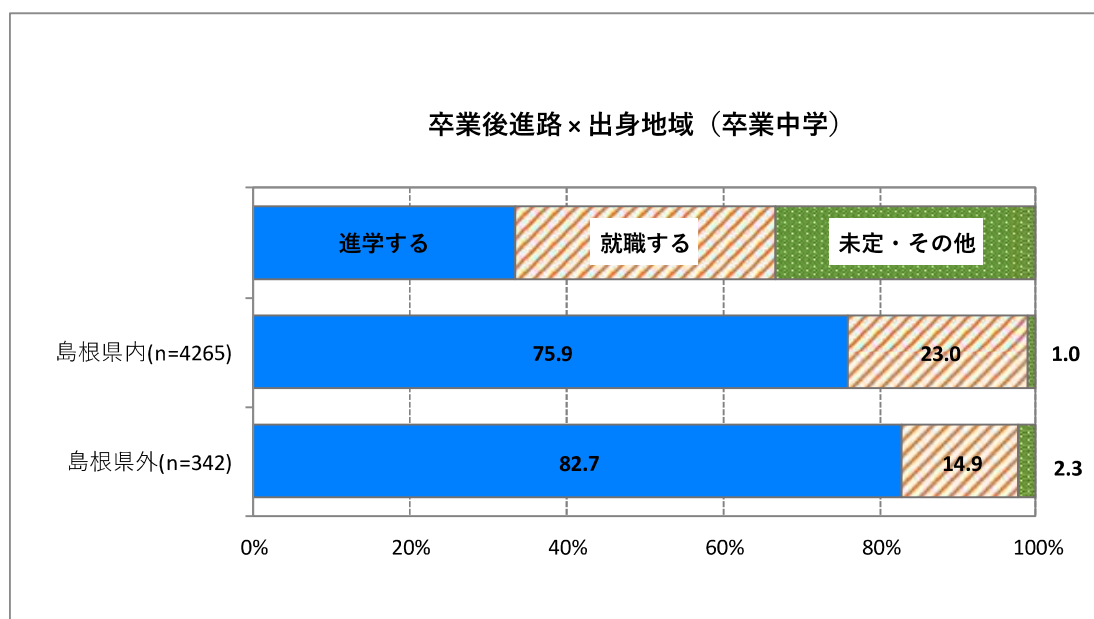
(参考) 図表Ⅲ－9 「地域への意識」の比較 (SA)



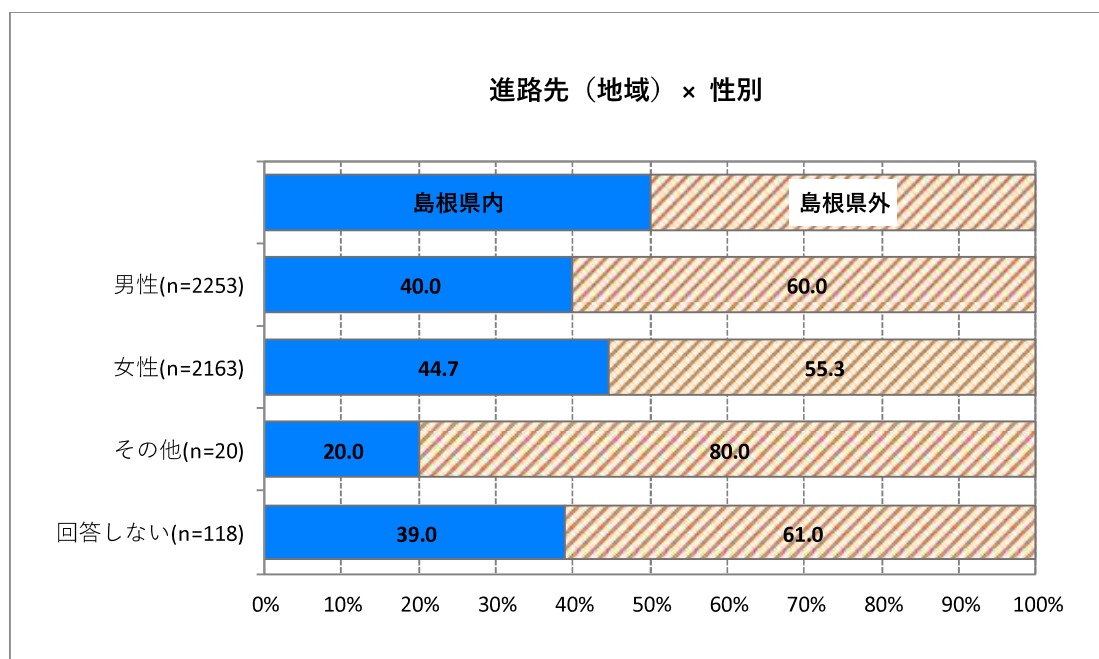
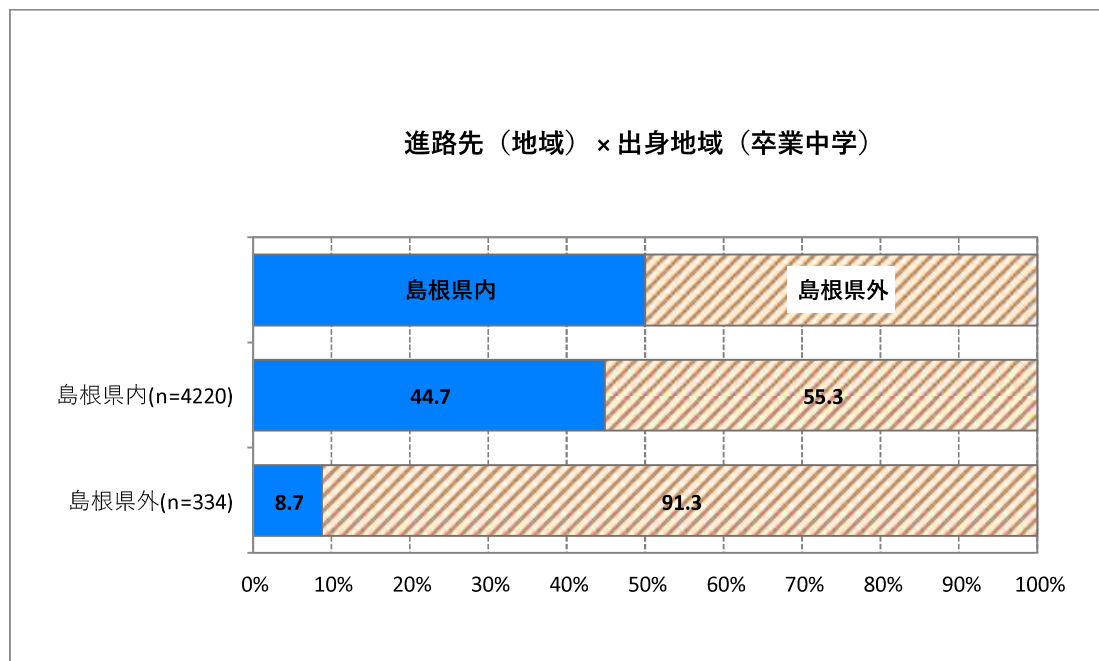
IV. 参考（クロス集計結果等抜粋）

本調査における、その他属性の結果（クロス集計結果等）について、特徴的なものを参考として抜粋し、以下に掲載する。

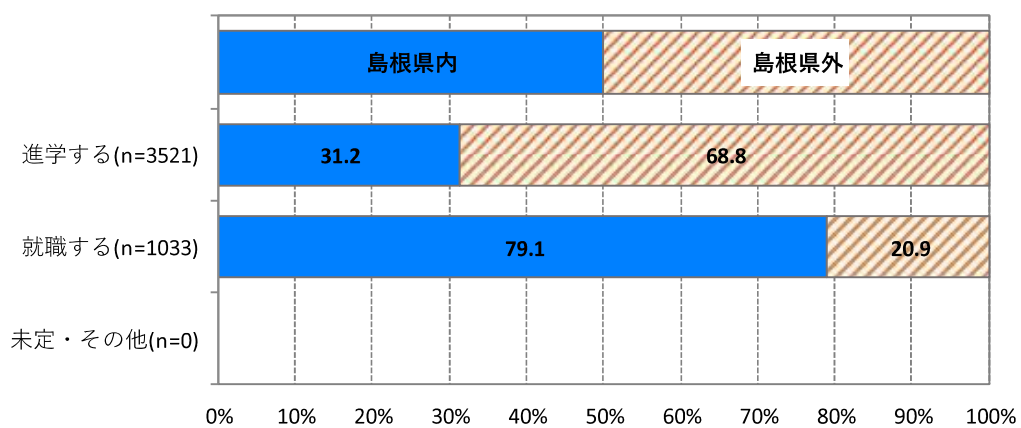
○高校卒業後の進路（進学・就職）



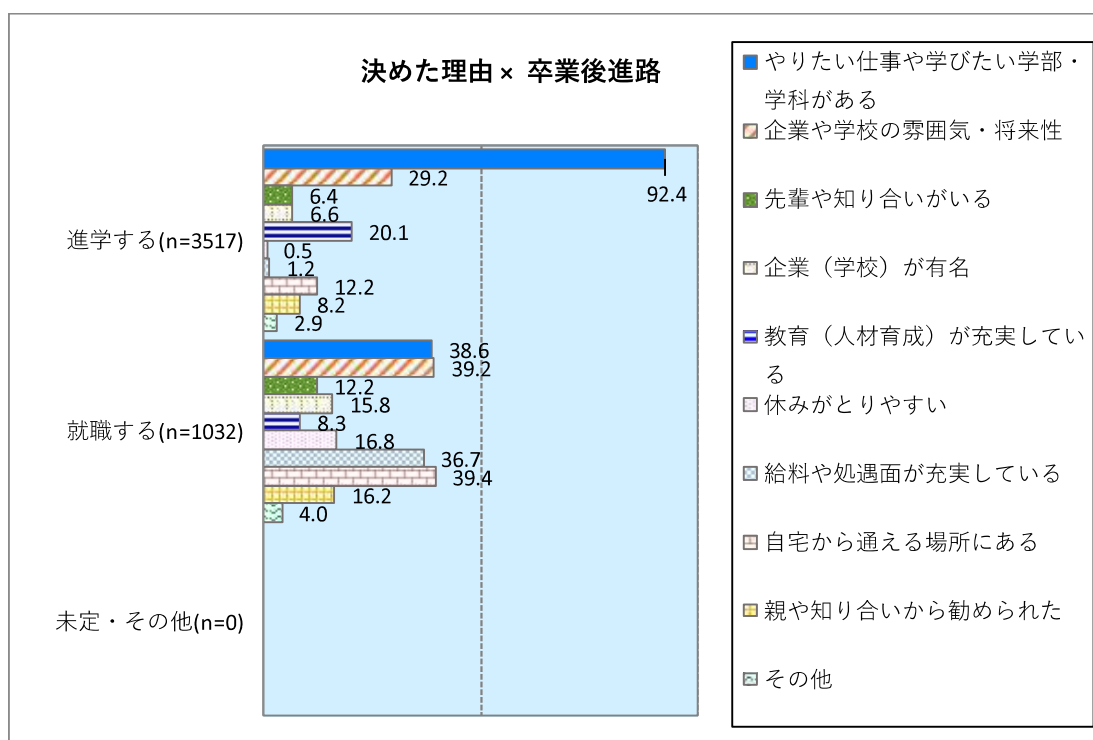
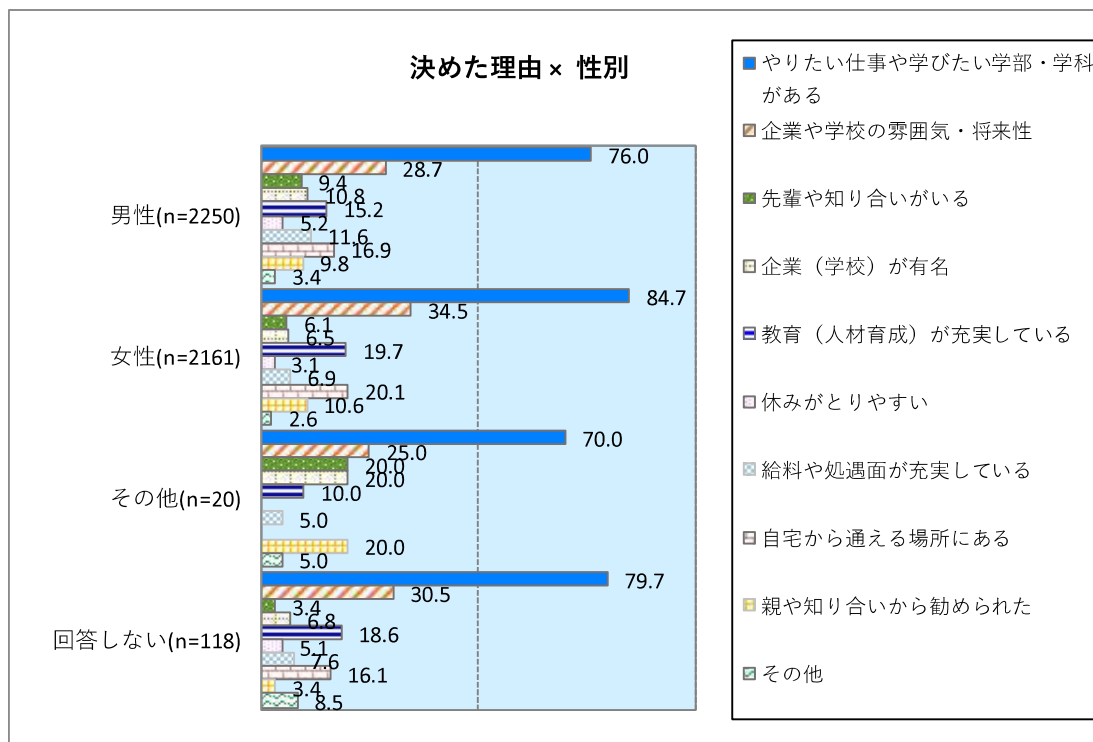
○進学先・就職先（島根県内・島根県外）



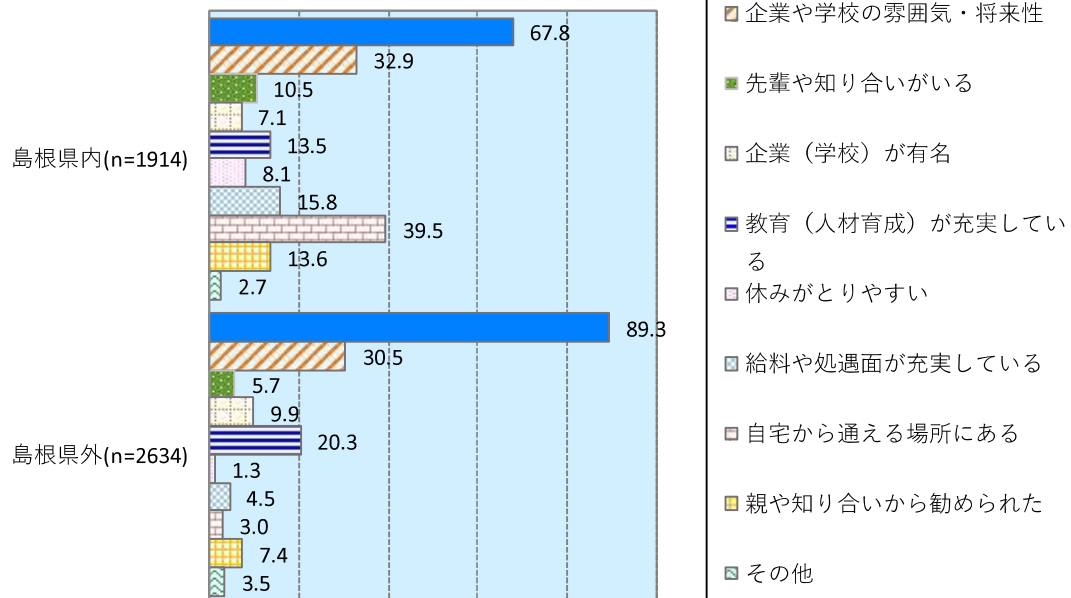
進路先（地域）× 卒業後進路



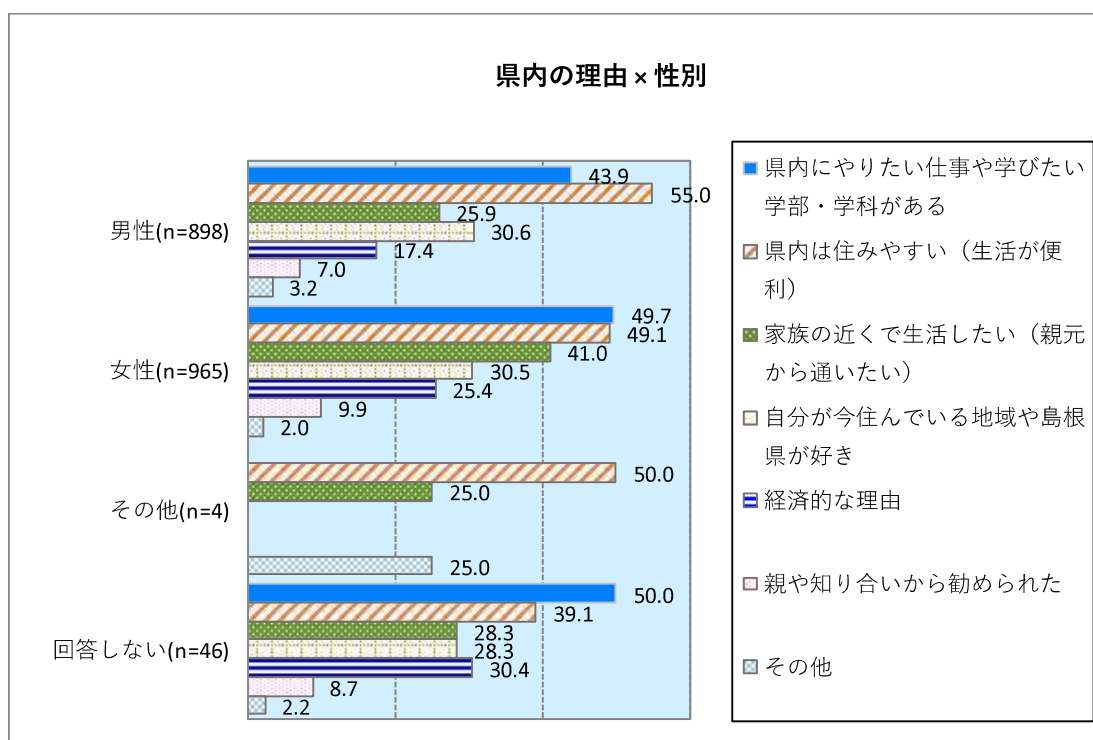
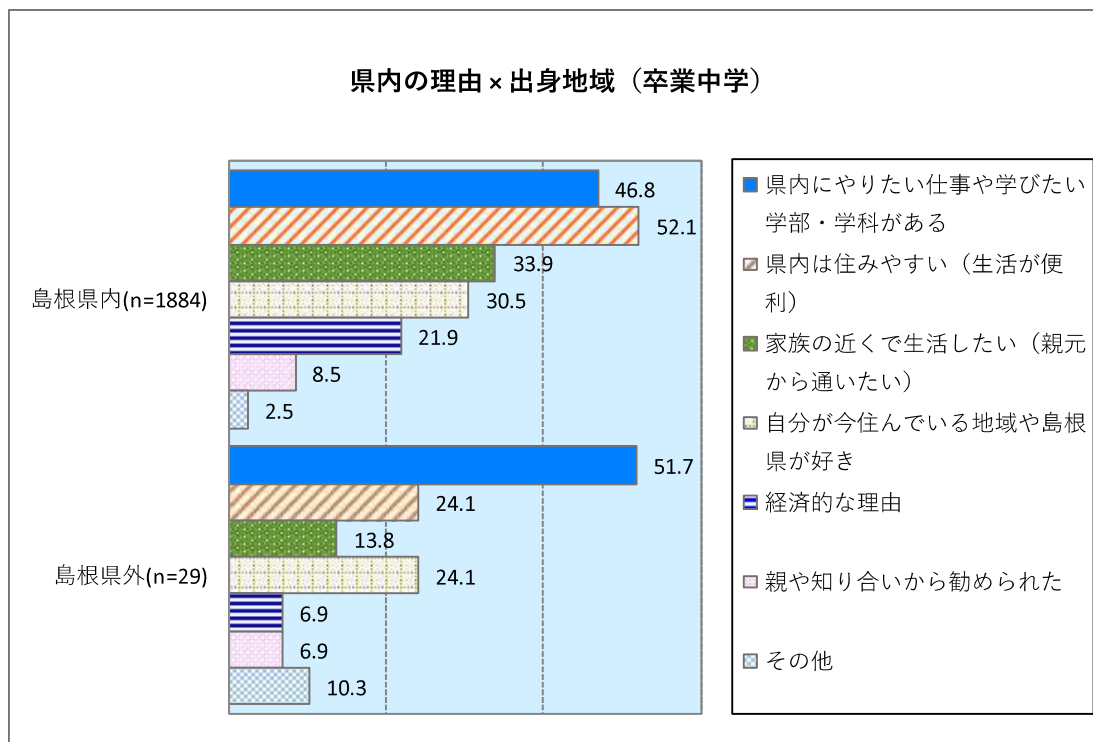
○進学先・就職先を決めた理由



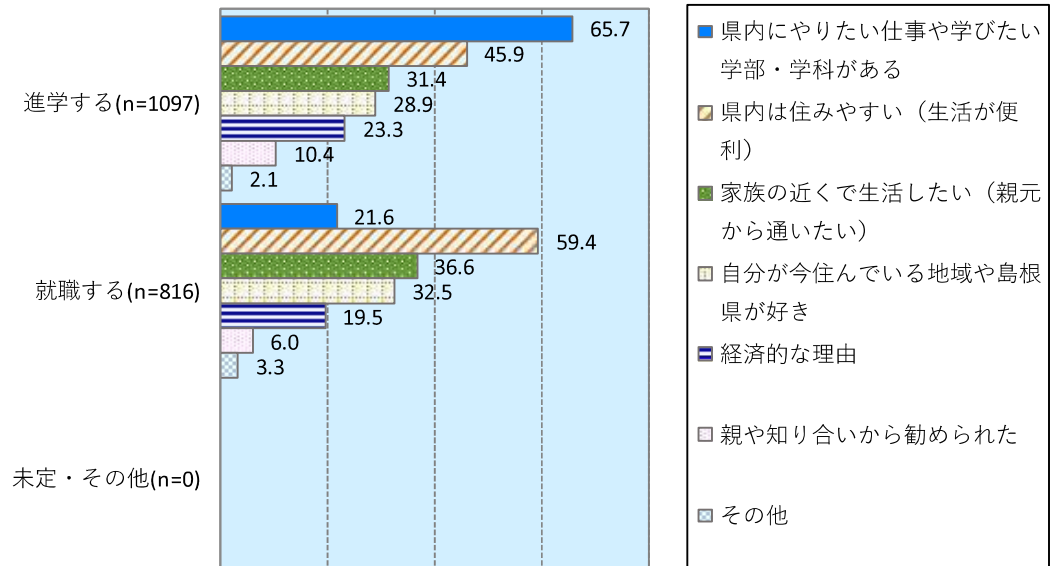
決めた理由×進路先（地域）



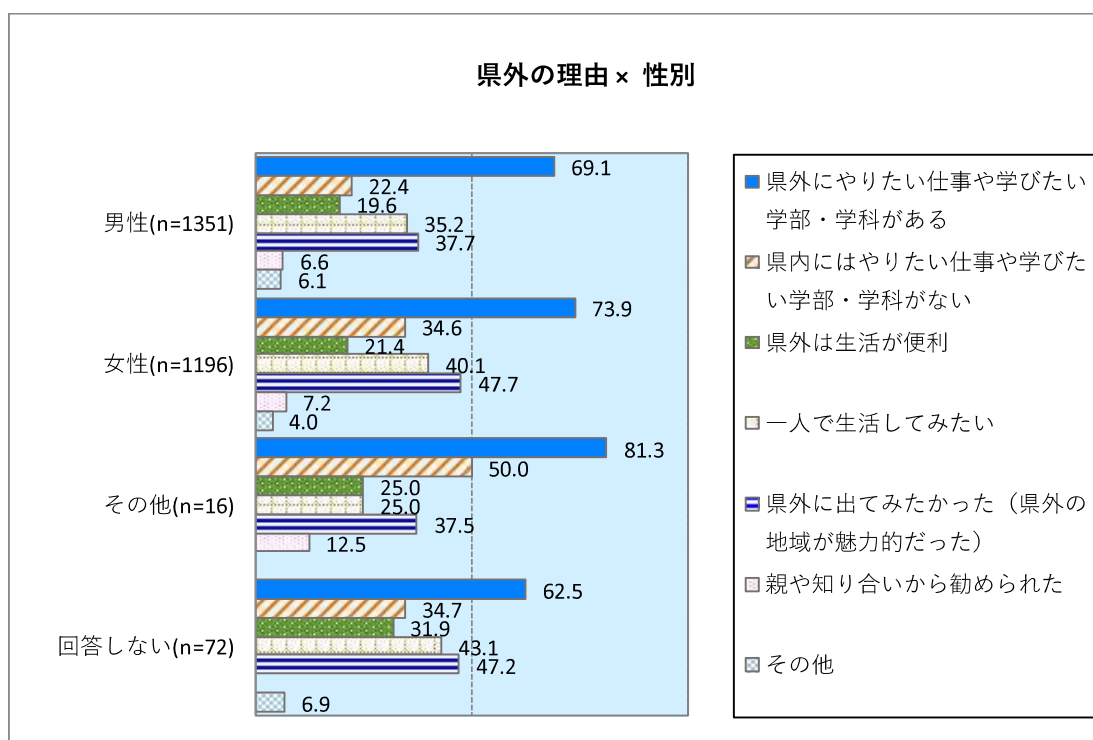
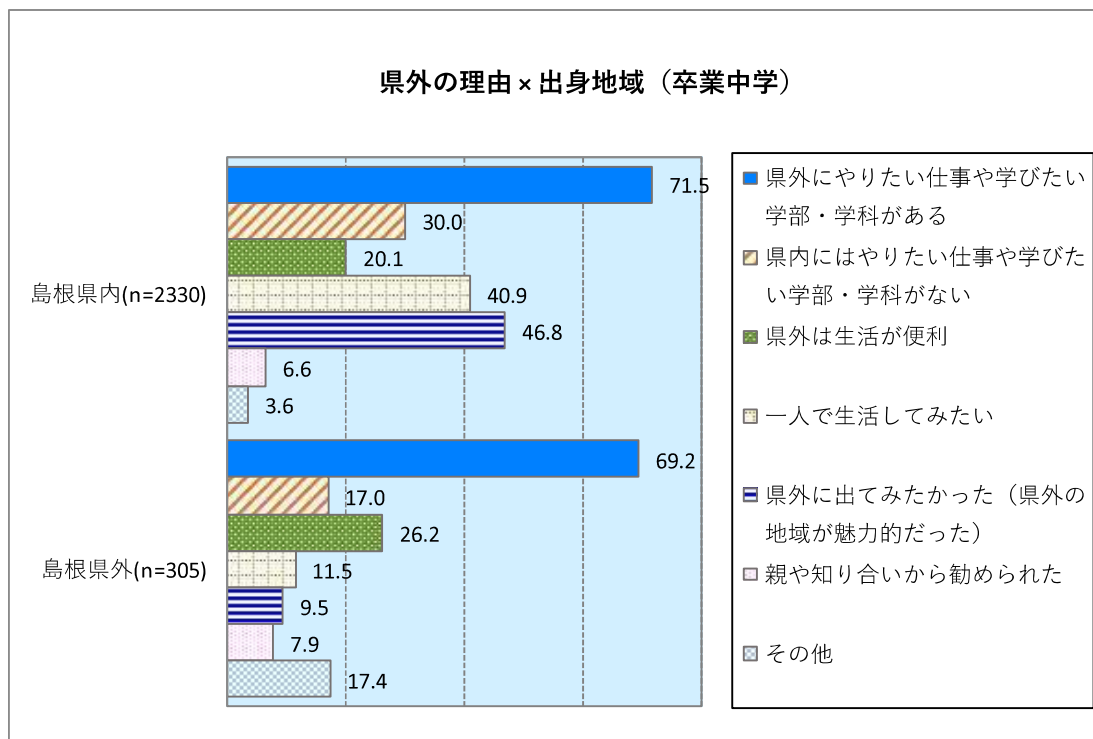
○県内への進学や就職を決めた理由



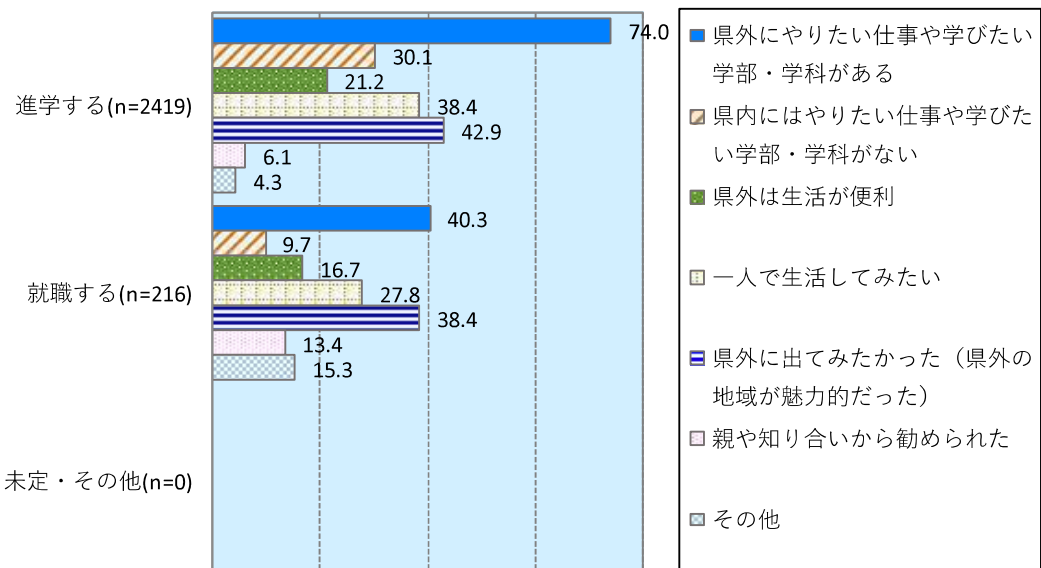
県内の理由 × 卒業後進路



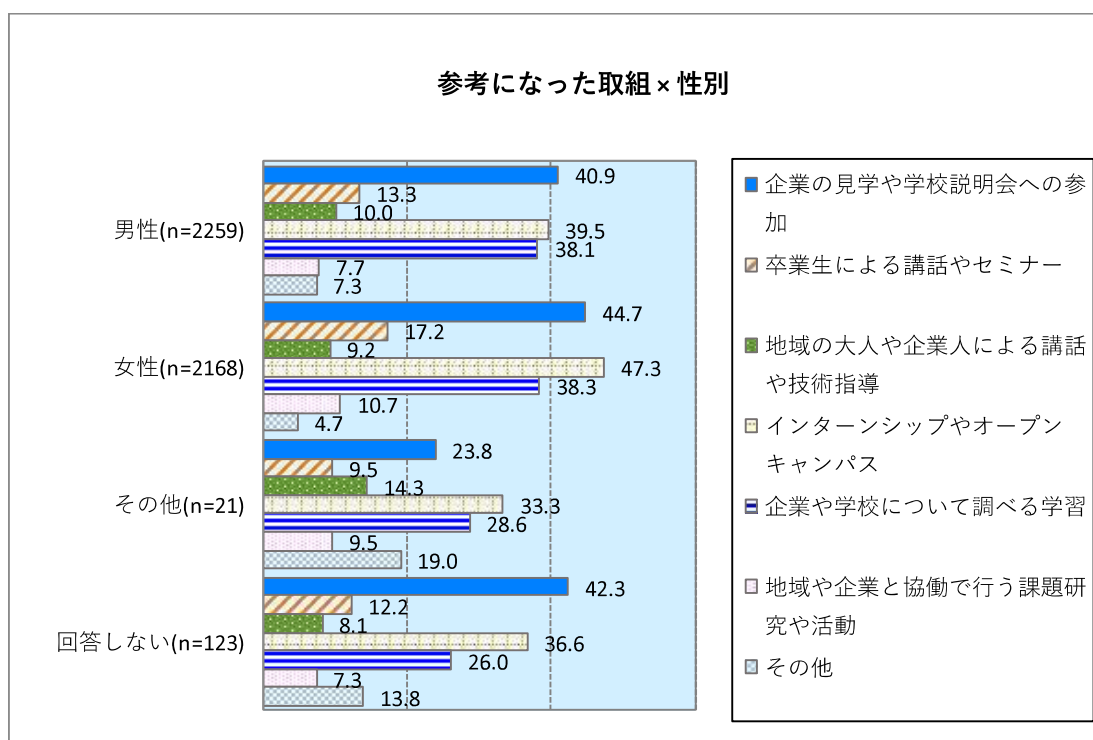
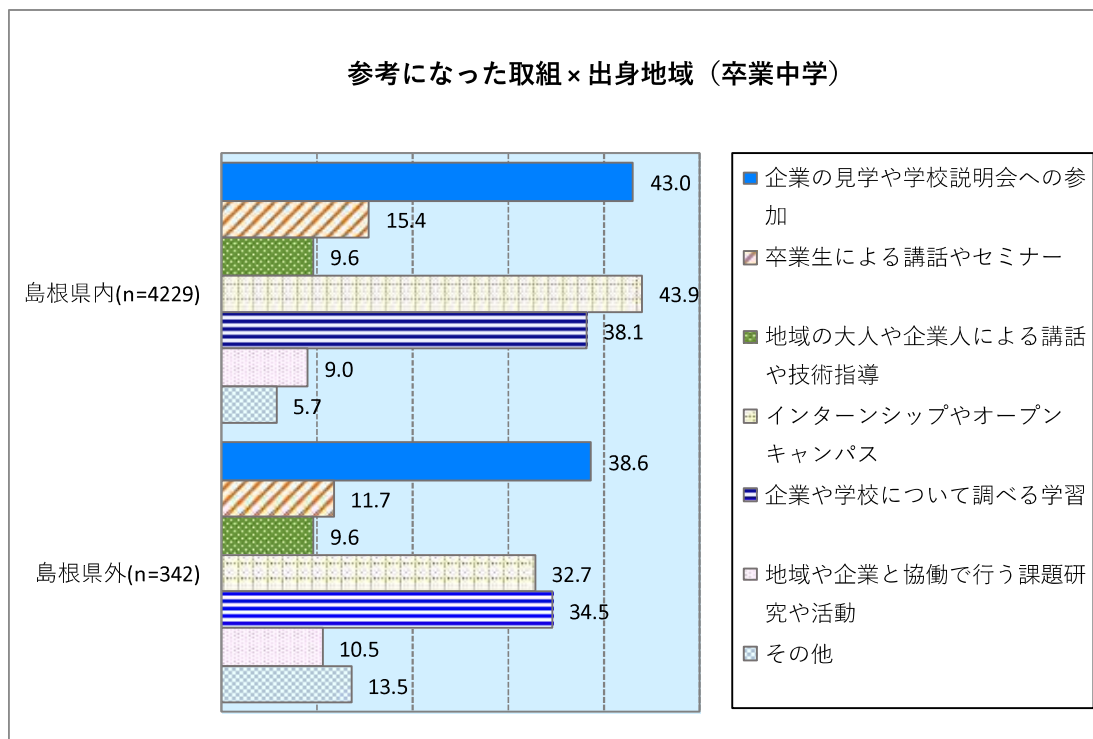
○県外への進学や就職を決めた理由



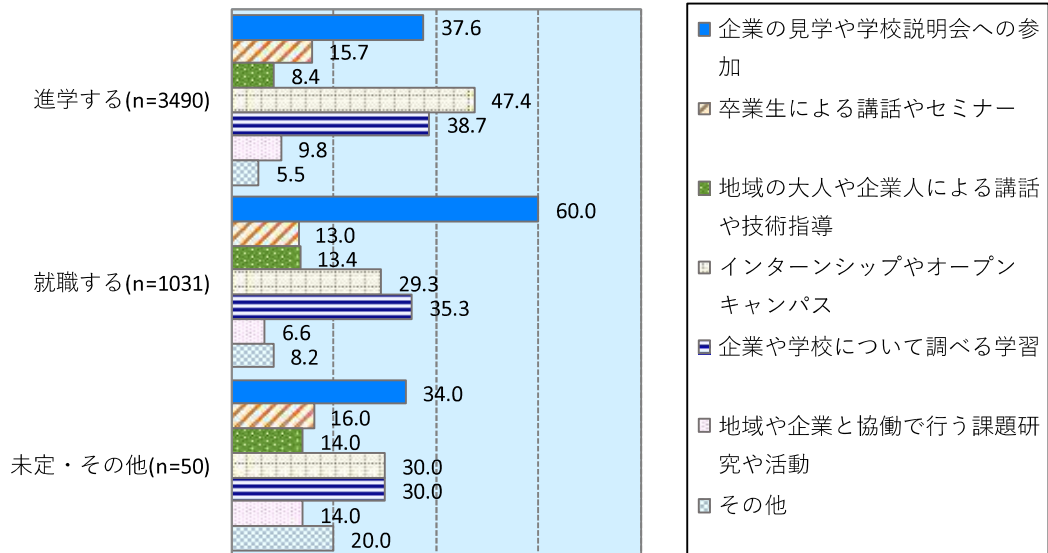
県外の理由 × 卒業後進路



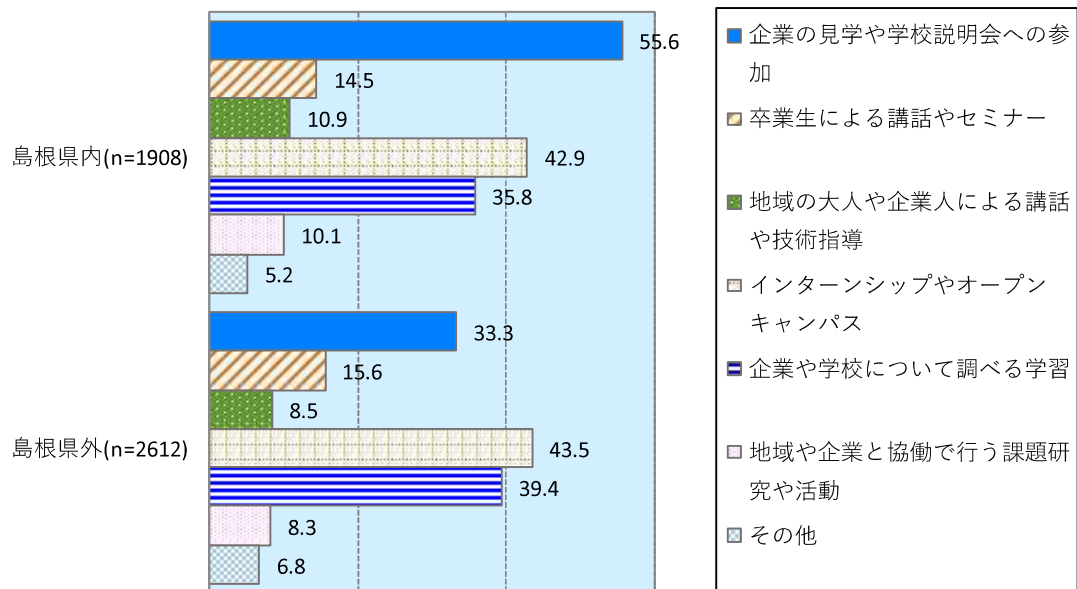
○進路決定にあたり、参考になった高校での取組



参考になった取組 × 卒業後進路

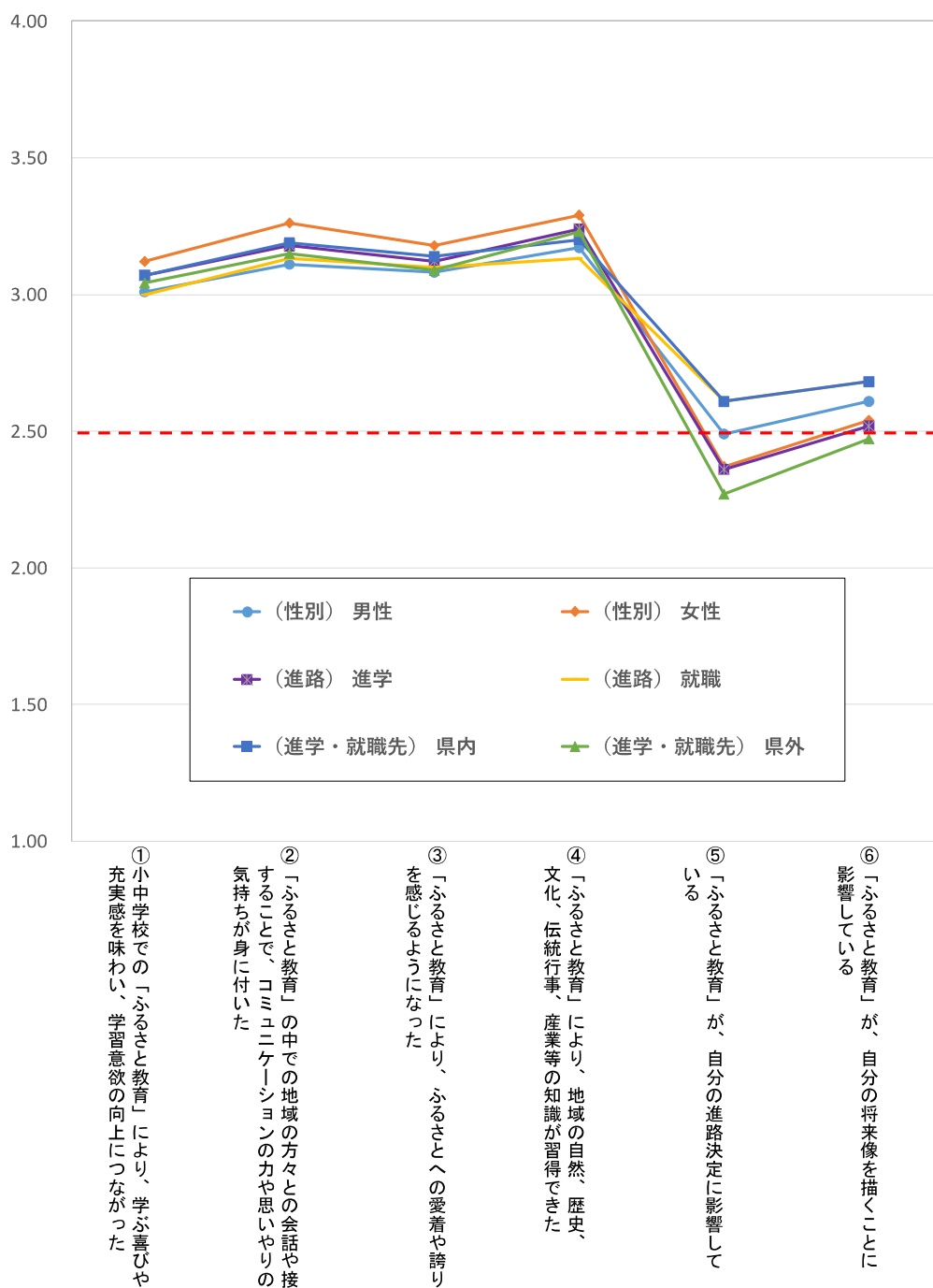


参考になった取組 × 進路先（地域）

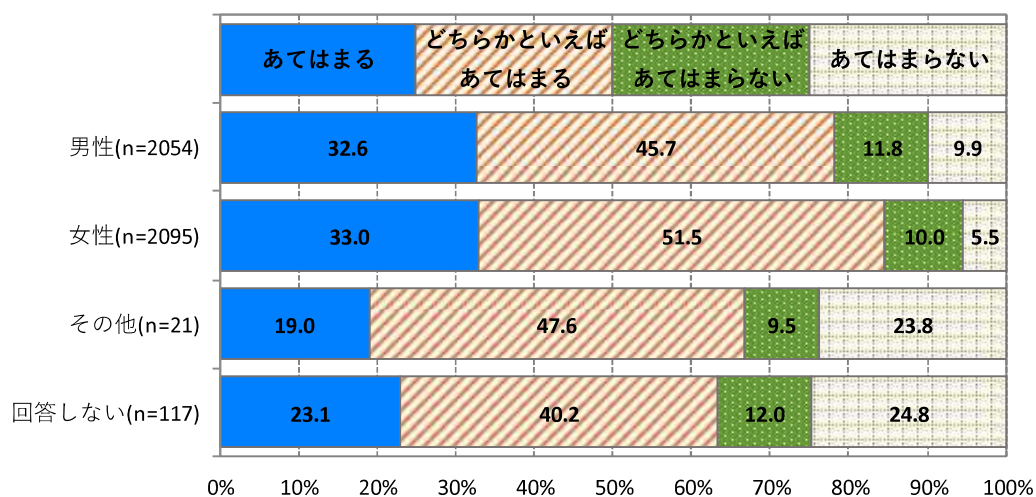


○「ふるさと教育」への評価

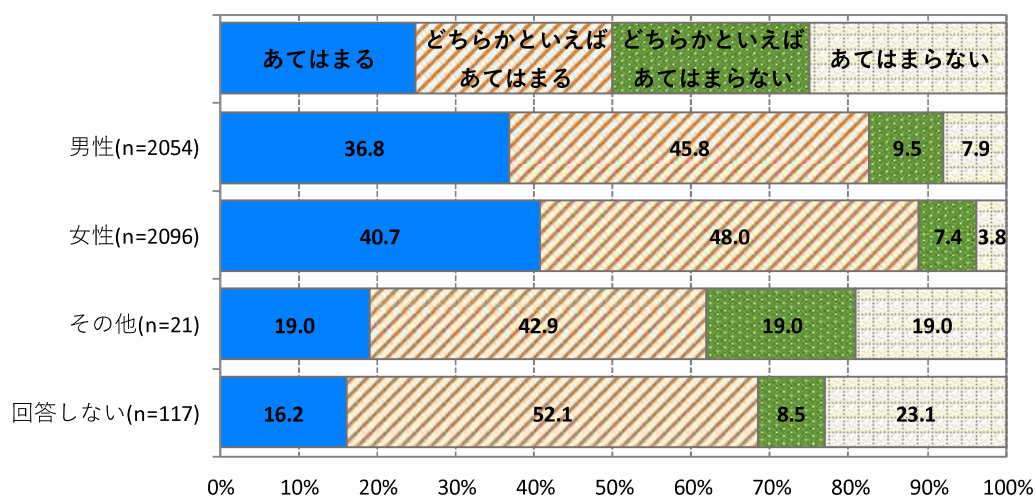
「ふるさと教育」への評価（評点法の結果）



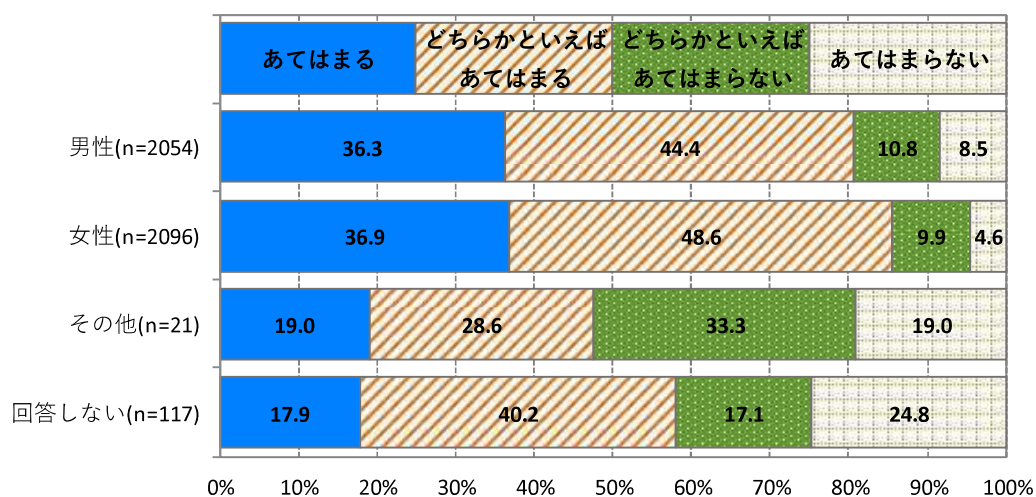
(参考) 問9-① 小中学校での「ふるさと教育」により、学ぶ喜びや充実感を
味わい、学習意欲の向上につながった × 評価点が高い属性 (女性)



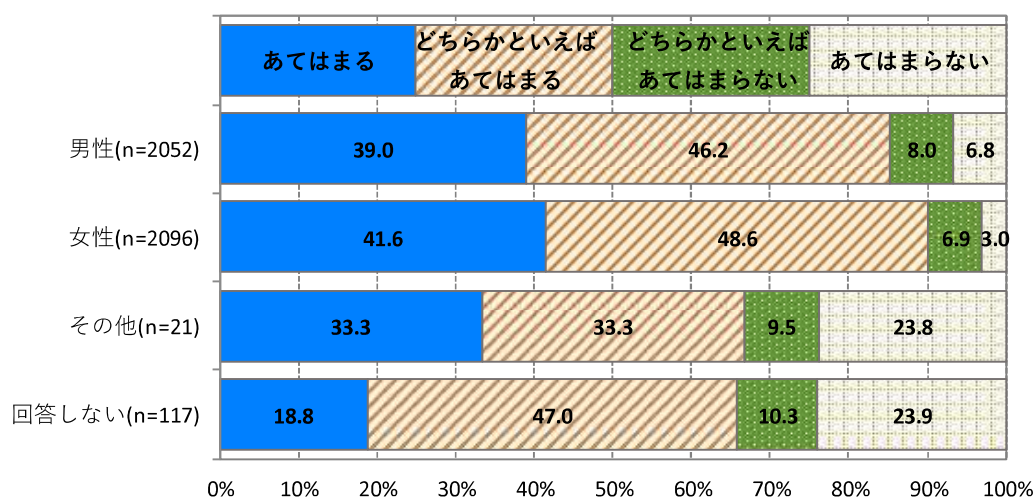
(参考) 問9-② 「ふるさと教育」の中での地域の方々との会話や接することで、コミュ
ニケーションの力や思いやりの気持ちが身に付いた × 評価点が高い属性 (女性)



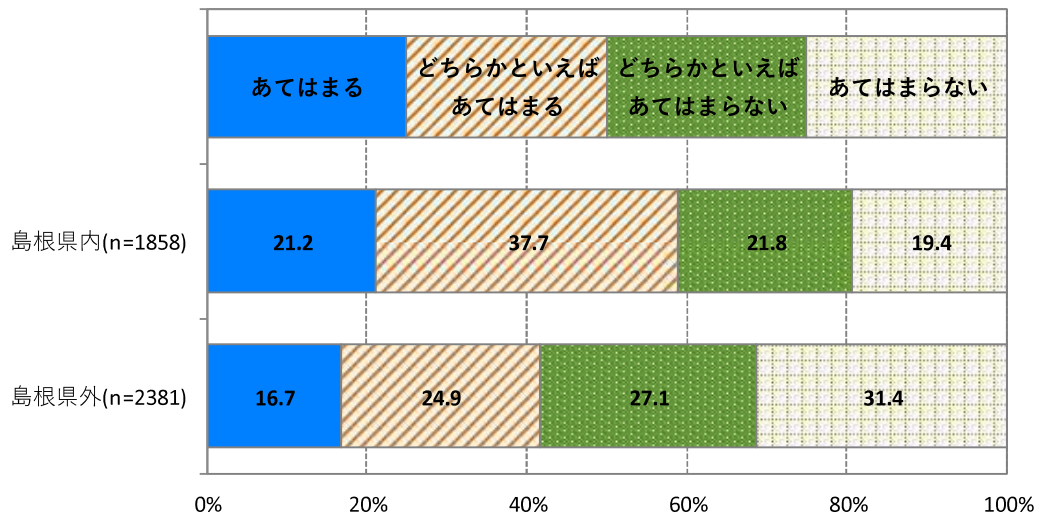
(参考) 問9-③ 「ふるさと教育」により、ふるさとへの愛着や誇りを感じるようになった × 評価点が高い属性 (女性)



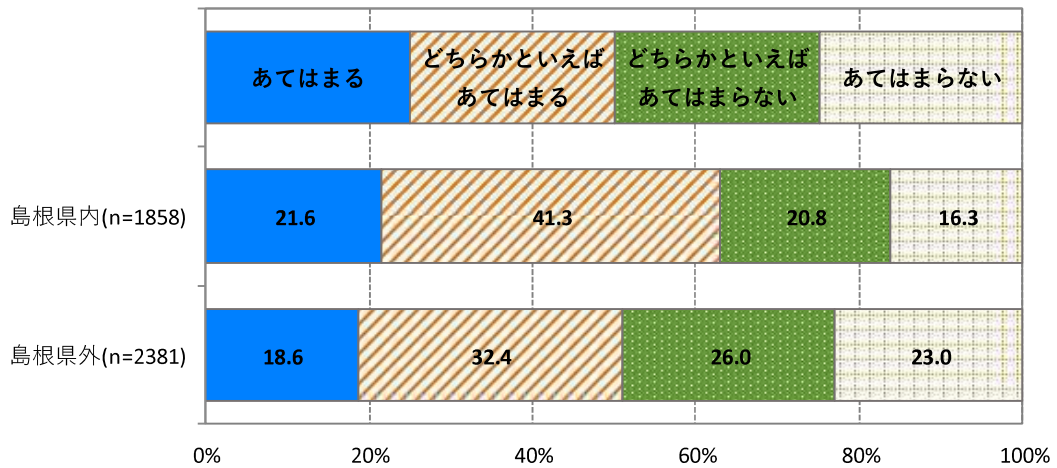
(参考) 問9-④ 「ふるさと教育」により、地域の自然、歴史、文化、伝統行事、産業等の知識が習得できた × 評価点が高い属性 (女性)



(参考) 問9-⑤ 「ふるさと教育」が、自分の進路決定に影響している
× 評価点が高い属性 (進学・就職先島根県内)

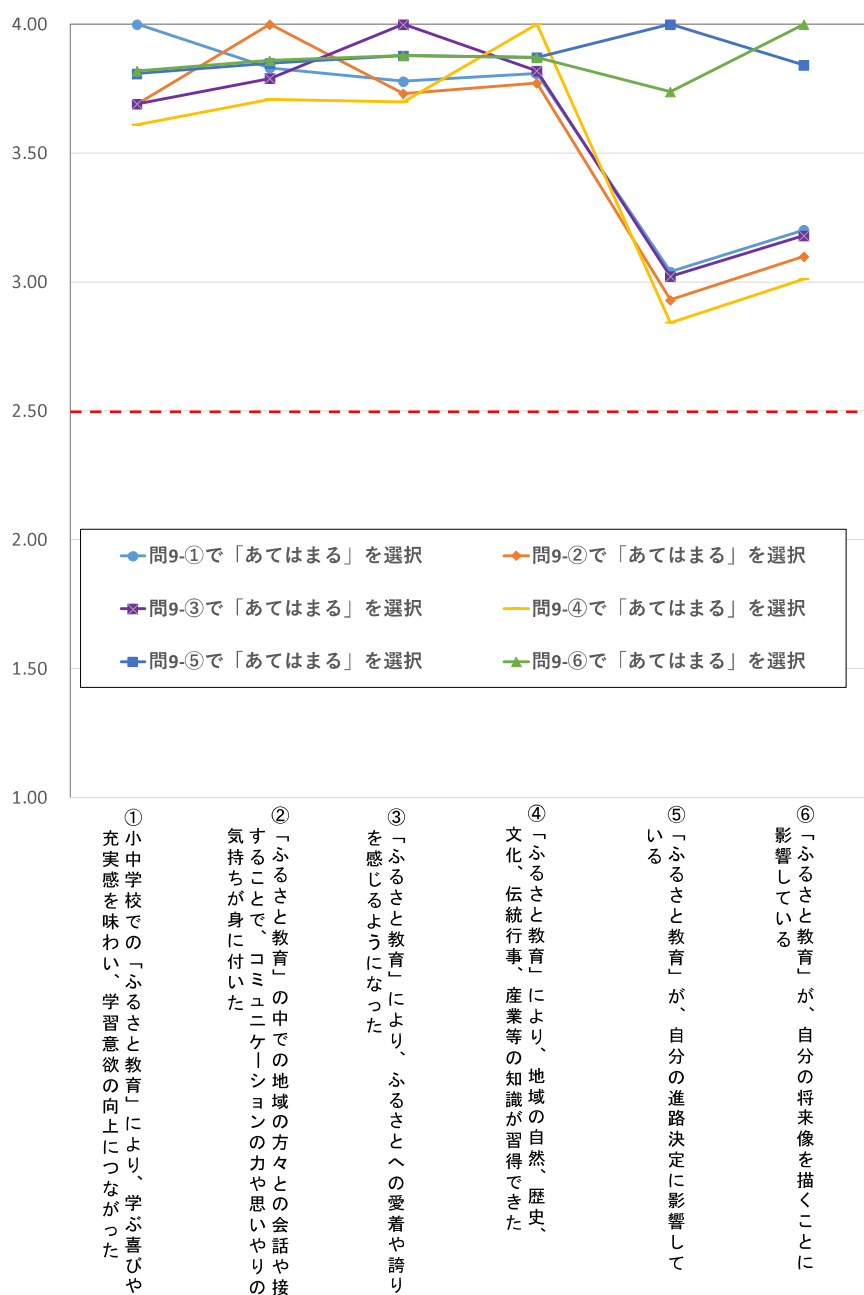


(参考) 問9-⑥ 「ふるさと教育」が、自分の将来像を描くことに影響している
× 評価点が高い属性 (進学・就職先島根県内)

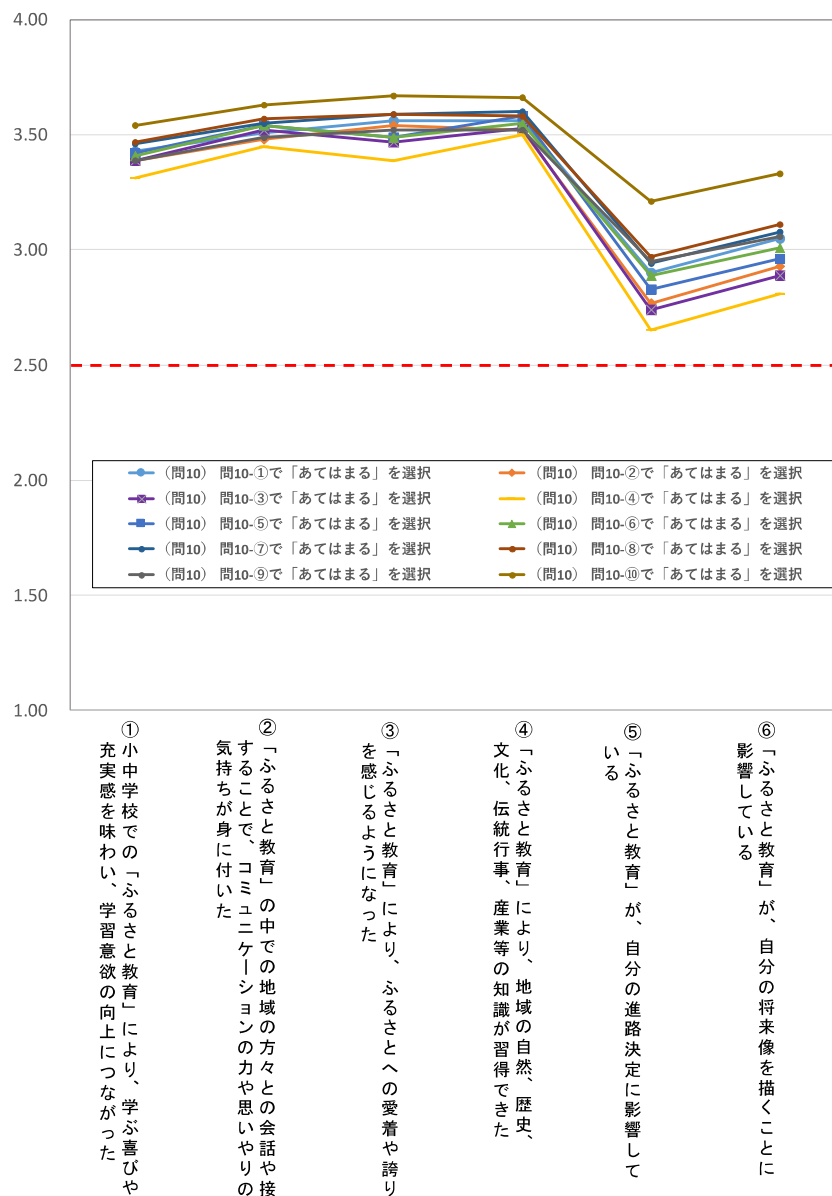


各設問の選択肢で「あてはまる」を選択した人の評価

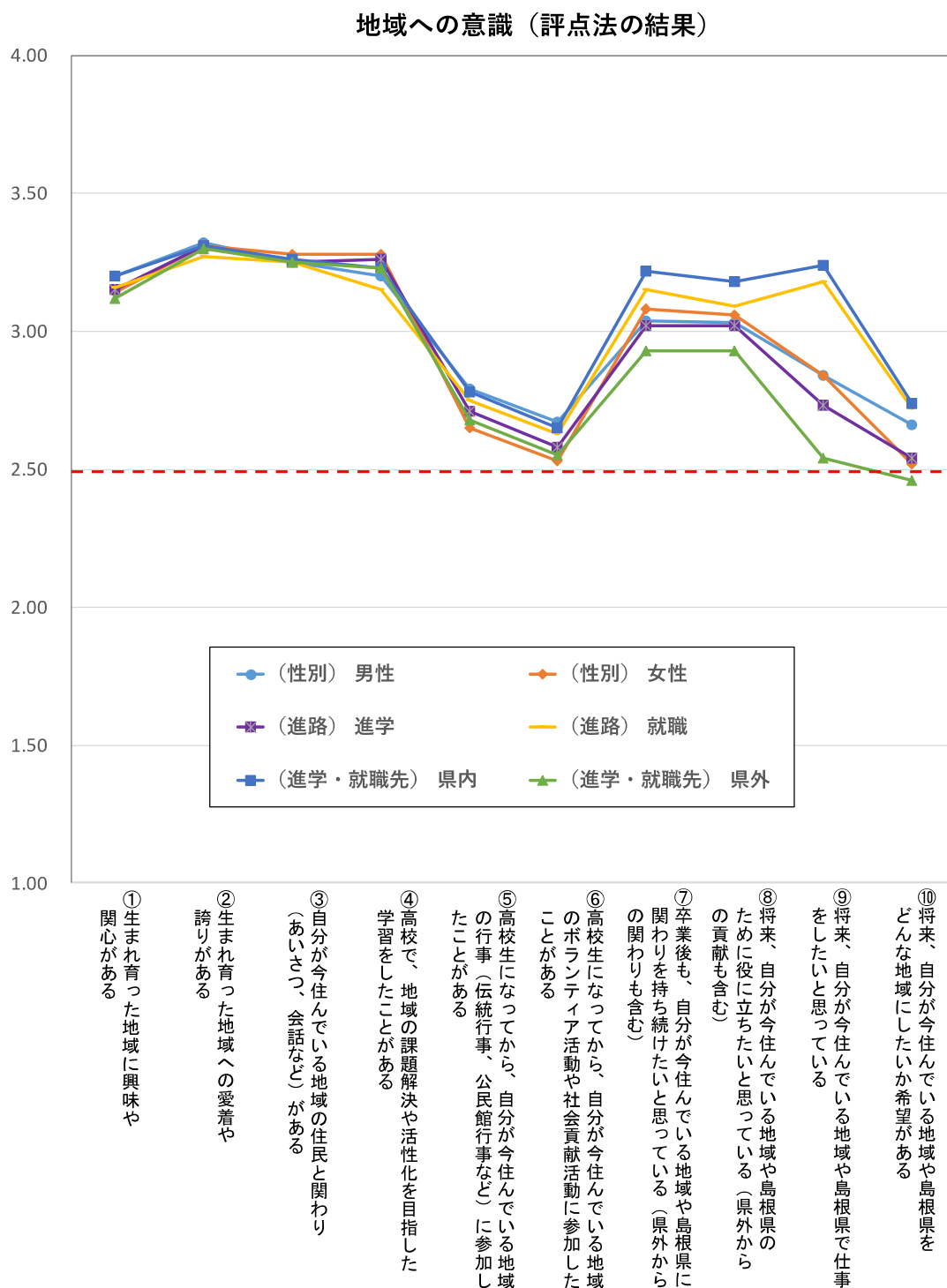
- 問 9-① 小中学校での「ふるさと教育」により、学ぶ喜びや充実感を味わい、学習意欲の向上につながった
- 問 9-② 「ふるさと教育」の中でも地域の方々との会話や接する機会を持つことで、コミュニケーションの力や思いやりの気持ちが身に付いた
- 問 9-③ 「ふるさと教育」により、ふるさとへの愛着や誇りを感じるようになった
- 問 9-④ 「ふるさと教育」により、地域の自然、歴史、文化、伝統行事、産業等の知識が修得できた
- 問 9-⑤ 「ふるさと教育」が、自分の進路決定に影響している
- 問 9-⑥ 「ふるさと教育」が、自分の将来像を描くことに影響している



- 問 10-① 生まれ育った地域に興味や関心がある
- 問 10-② 生まれ育った地域への愛着や誇りがある
- 問 10-③ 自分が今住んでいる地域の住民と関わり（あいさつ、会話など）がある
- 問 10-④ 高校で、地域の課題解決や活性化を目指した学習をしたことがある
- 問 10-⑤ 高校生になってから、自分が今住んでいる地域の行事（伝統行事、公民館行事など）に参加したことがある
- 問 10-⑥ 高校生になってから、自分が今住んでいる地域のボランティア活動や社会貢献活動に参加したことがある
- 問 10-⑦ 卒業後も、自分が今住んでいる地域や島根県に関わりを持ち続けたいと思っている（県外からの関わりも含む）
- 問 10-⑧ 将来、自分が今住んでいる地域や島根県のために役に立ちたいと思っている（県外からの関わりも含む）
- 問 10-⑨ 将来、自分が今住んでいる地域や島根県で仕事をしたいと思っている
- 問 10-⑩ 「ふるさと教育」が、自分の将来像を描くことに影響している
- 問 10-⑪ 将来、自分が今住んでいる地域や島根県をどんな地域にしたいか希望がある

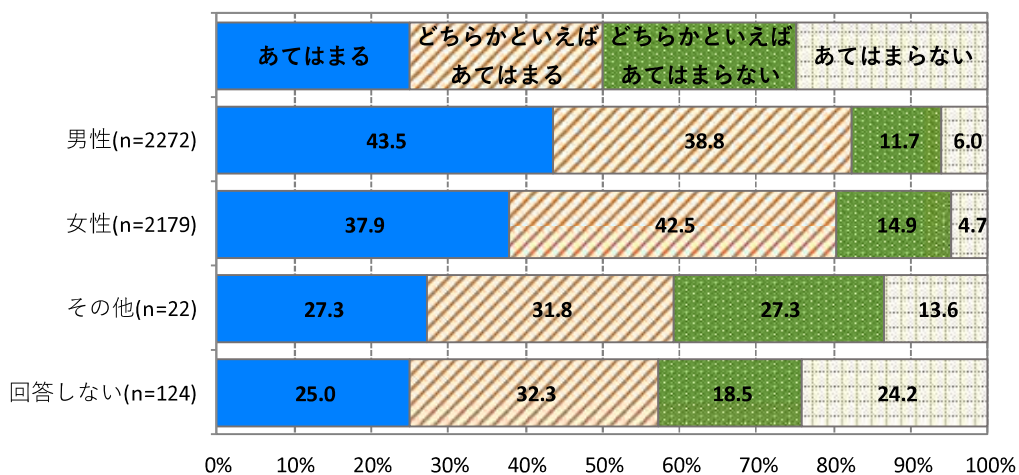


○地域への意識



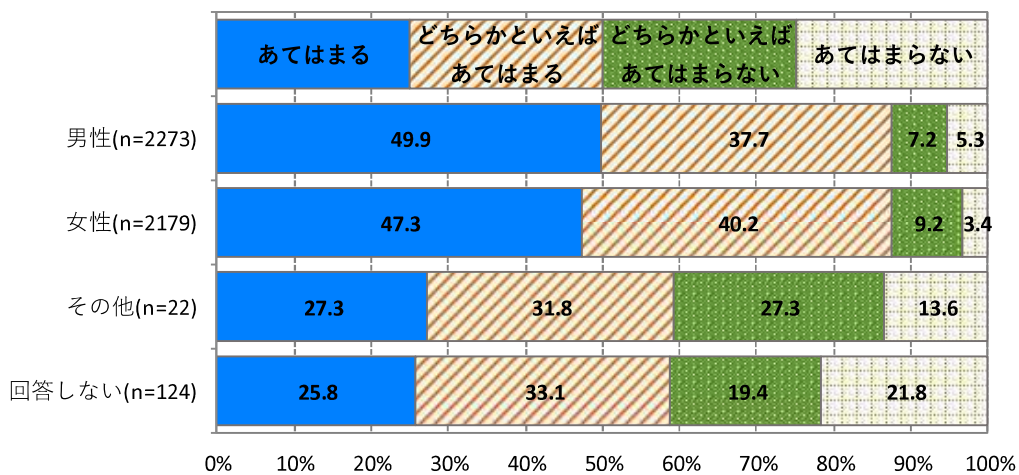
(参考) 問10-① 生まれ育った地域に興味や関心がある

× 評価点が高い属性 (男性)

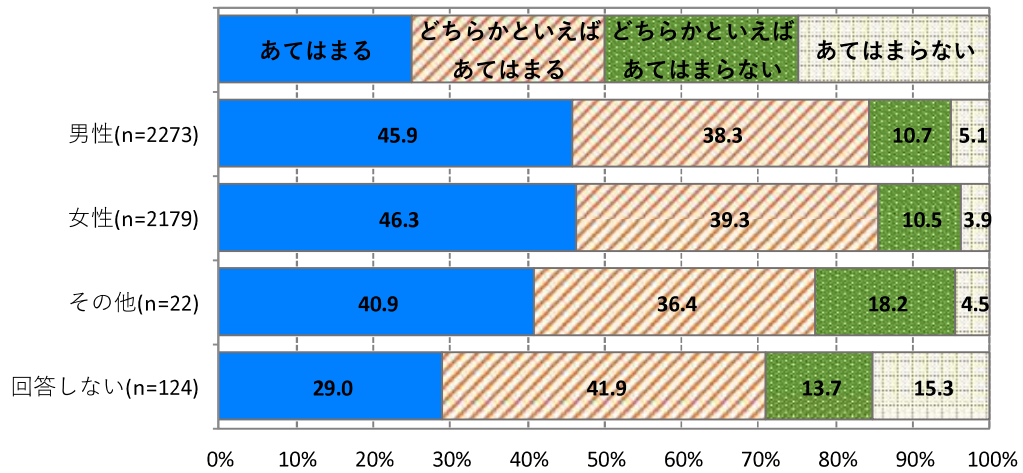


(参考) 問10-② 生まれ育った地域への愛着や誇りがある

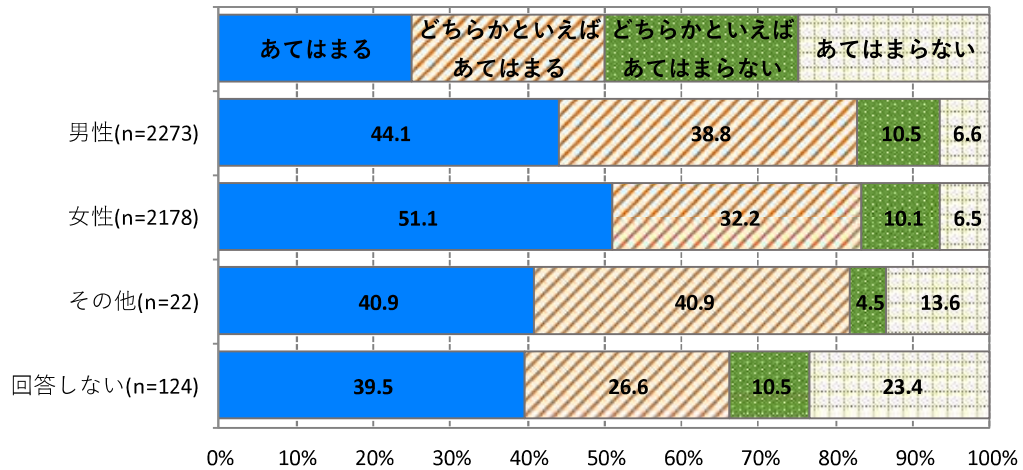
× 評価点が高い属性 (男性)



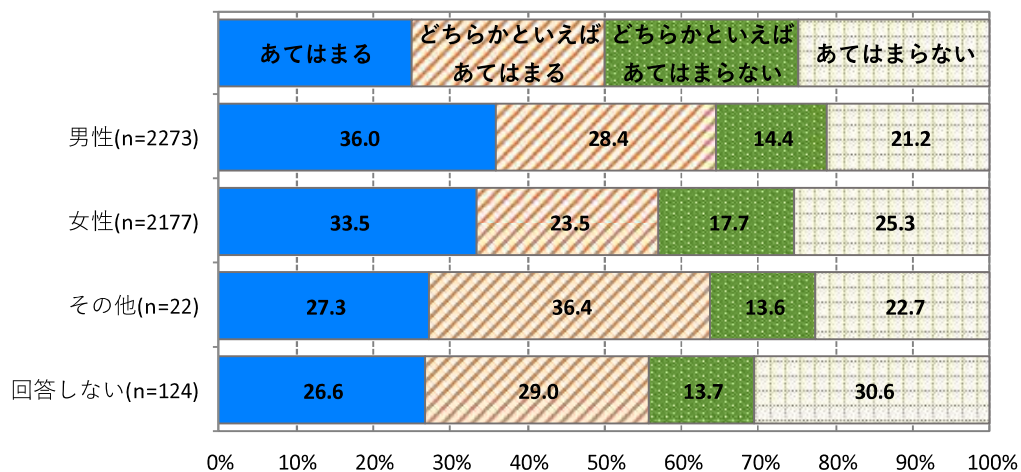
(参考) 問10-③ 自分が今住んでいる地域の住民と関わり（あいさつ、会話など）がある × 評価点が高い属性（女性）



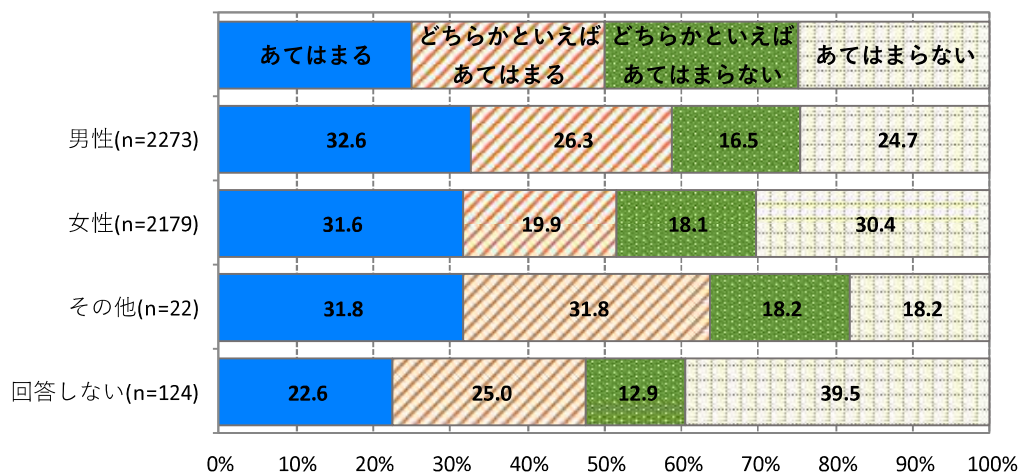
(参考) 問10-④ 高校で、地域の課題解決や活性化を目指した学習をしたことがある × 評価点が高い属性（女性）



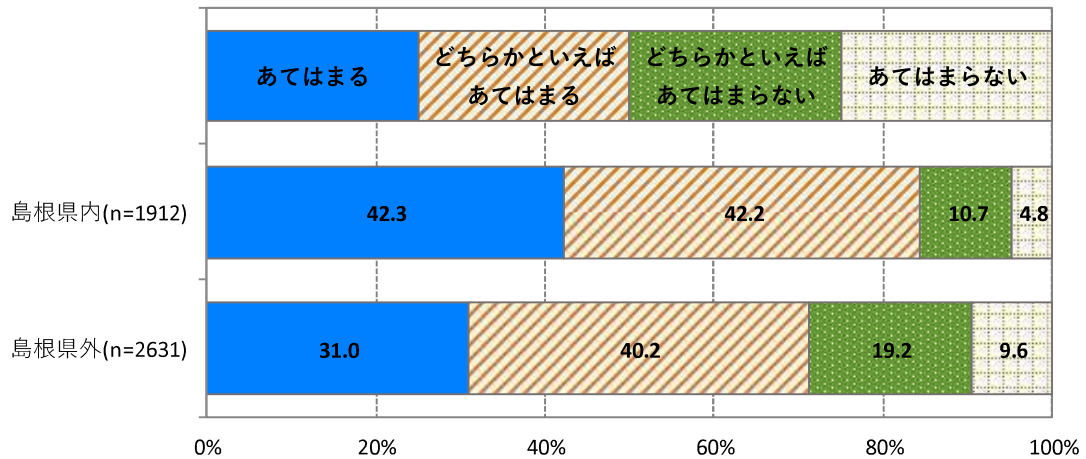
(参考) 問10-⑤ 高校生になってから、自分が今住んでいる地域の行事（伝統行事、公民館行事など）に参加したことがある × 評価点が高い属性（男性）



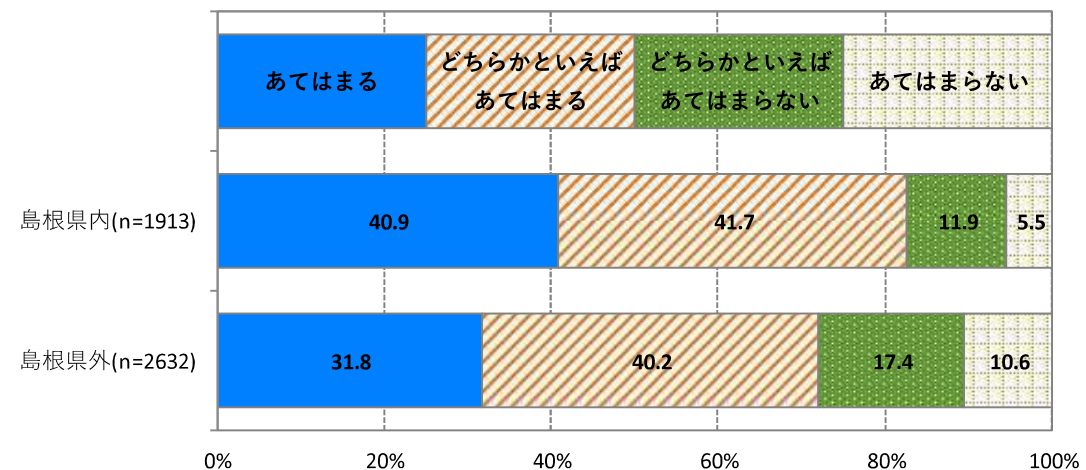
(参考) 問10-⑥ 高校生になってから、自分が今住んでいる地域のボランティア活動や社会貢献活動に参加したことがある × 評価点が高い属性（男性）



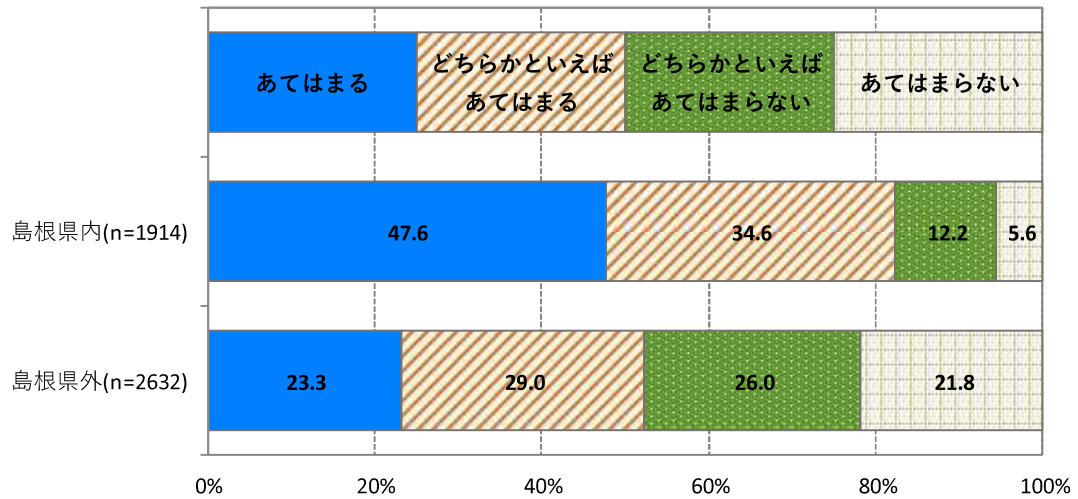
(参考) 問10-⑦ 卒業後も、自分が今住んでいる地域や島根県に関わりを持ち続けたいと思っている（県外からの関わりも含む） × 評価点が高い属性（進学・就職先島根県内）



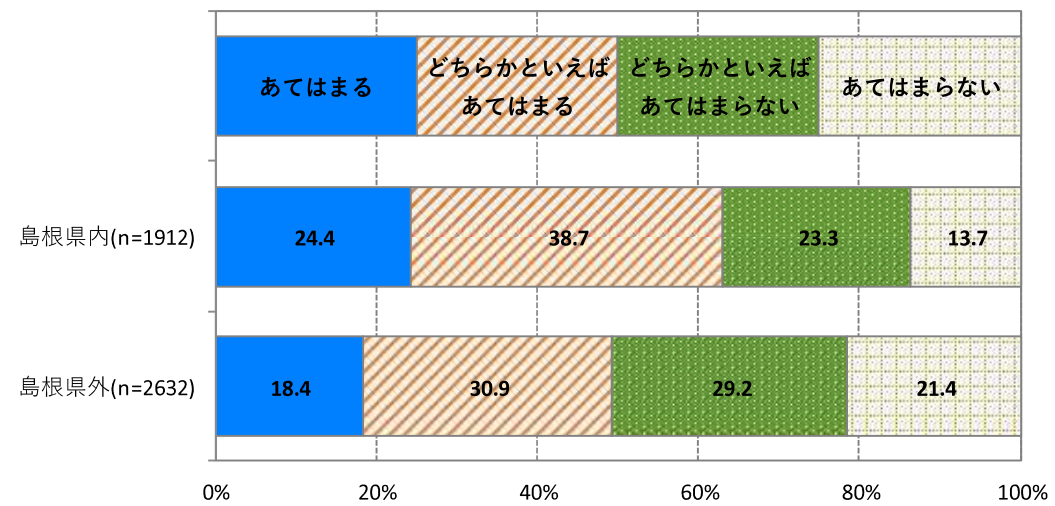
(参考) 問10-⑧ 将来、自分が今住んでいる地域や島根県のために役に立ちたいと思っている（県外からの貢献も含む） × 評価点が高い属性（進学・就職先島根県内）



(参考) 問10-⑨ 将来、自分が今住んでいる地域や島根県で仕事をしたいと思っている × 評価点が高い属性 (進学・就職先島根県内)



(参考) 問10-⑩ 将来、自分が今住んでいる地域や島根県をどんな地域にしたいか希望がある × 評価点が高い属性 (進学・就職先島根県内)

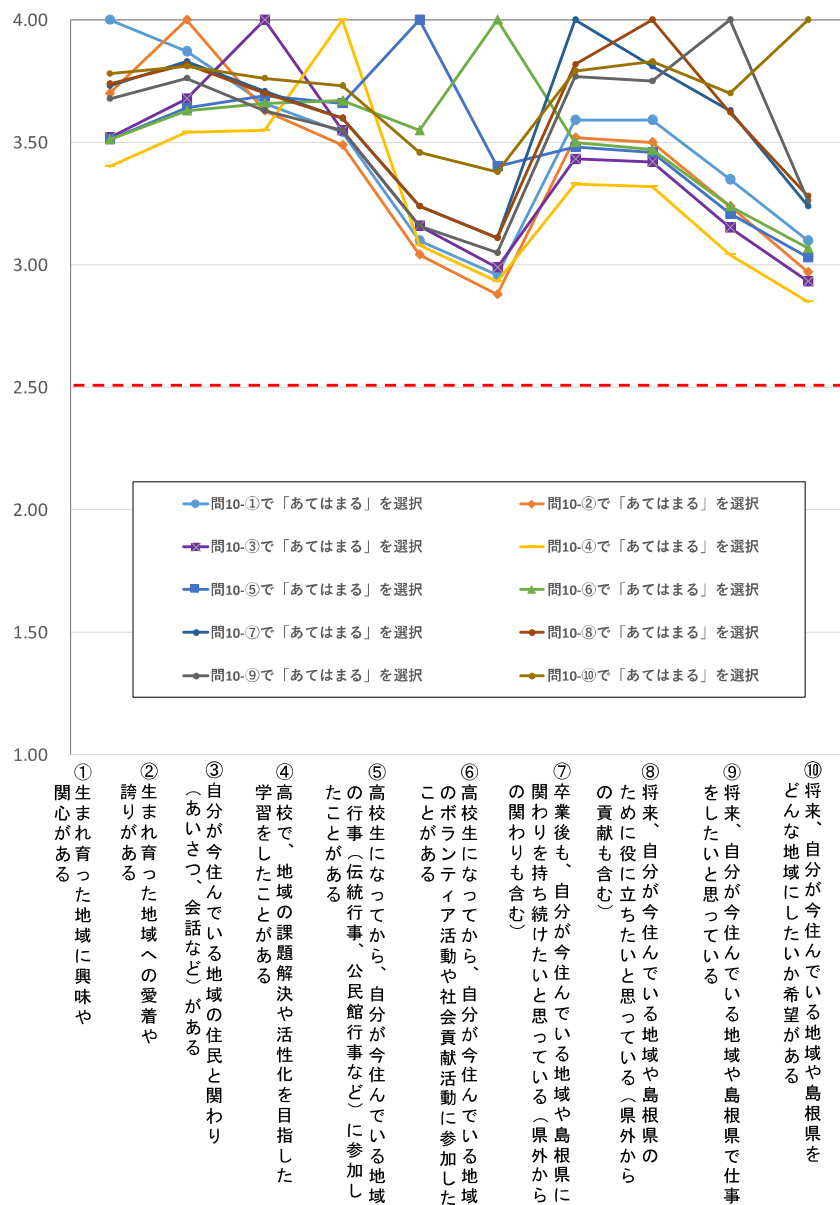


各設問の選択肢で「あてはまる」を選択した人の評価

- 問 9-① 小中学校での「ふるさと教育」により、学ぶ喜びや充実感を味わい、学習意欲の向上につながった
- 問 9-② 「ふるさと教育」の中でも地域の方々との会話や接する機会を持つことで、コミュニケーションの力や思いやりの気持ちが身に付いた
- 問 9-③ 「ふるさと教育」により、ふるさとへの愛着や誇りを感じるようになった
- 問 9-④ 「ふるさと教育」により、地域の自然、歴史、文化、伝統行事、産業等の知識が修得できた
- 問 9-⑤ 「ふるさと教育」が、自分の進路決定に影響している
- 問 9-⑥ 「ふるさと教育」が、自分の将来像を描くことに影響している



- 問 10-① 生まれ育った地域に興味や関心がある
 問 10-② 生まれ育った地域への愛着や誇りがある
 問 10-③ 自分が今住んでいる地域の住民と関わり（あいさつ、会話など）がある
 問 10-④ 高校で、地域の課題解決や活性化を目指した学習をしたことがある
 問 10-⑤ 高校生になってから、自分が今住んでいる地域の行事（伝統行事、公民館行事など）に参加したことがある
 問 10-⑥ 高校生になってから、自分が今住んでいる地域のボランティア活動や社会貢献活動に参加したことがある
 問 10-⑦ 卒業後も、自分が今住んでいる地域や島根県に関わりを持ち続けたいと思っている（県外からの関わりも含む）
 問 10-⑧ 将来、自分が今住んでいる地域や島根県のために役に立ちたいと思っている（県外からの関わりも含む）
 問 10-⑨ 将来、自分が今住んでいる地域や島根県で仕事をしたいと思っている
 問 10-⑩ 「ふるさと教育」が、自分の将来像を描くことに影響している
 問 10-⑪ 将来、自分が今住んでいる地域や島根県をどんな地域にしたいか希望がある



V. 【資料編】

【アンケート調査票】

卒業を迎える皆さんへのアンケート

このたび、島根県の実教育行政等の参考とするため、卒業年次生の皆さんを対象にアンケート調査を実施させていただくこととしました。ついては、本アンケートにご協力をお願いいたします。

島根県・島根県教育委員会

※ご記入にあたってのお願い

- ・次の設問について、右余白の「回答欄」に、該当する番号をご記入ください。
- ・「その他」を選んだ場合は、() 内に具体的な回答をご記入ください。
- ・本調査のご回答内容については、統計上の目的以外に使用することはありません。

★最初に、あなたの所属する学校のコード（数字2桁）を記入してください

《学校コード一覧》は、別紙『卒業を迎える皆さんへのアンケート』への協力
のお願い」の2ページ目に記載しています

学校コード
(数字2桁)

--	--

1. あなたのことについてお聞きします。

【問1】卒業された中学校の地域はどちらですか。1つを選んでください。

回答欄

1. 出雲地域（松江市、出雲市、安来市、雲南市、奥出雲町、飯南町）
2. 石見地域（浜田市、益田市、大田市、江津市、川本町、美郷町、邑南町、
津和野町、吉賀町）
3. 隠岐地域（海士町、西ノ島町、知夫村、隠岐の島町）
4. 島根県外

--

【問2】あなたの性別を選んでください。

1. 男性
2. 女性
3. その他
4. 回答しない

--

2. 卒業後の進路希望などについてお聞きします。

【問3】高校卒業後の進路を次のうち1つ選択してください。

（※試験の結果がでていない場合は、第一希望を選んでください）

1. 進学する
2. 就職する
3. 未定・その他（⇒問8に進んでください）

--

【問4】【問3】で「1. 進学する」、「2. 就職する」を選択された方へお聞きします。次のうち、どの
場所をお考えですか。

1. 島根県内
2. 島根県外

--

⇒次のページにお進みください

アンケート調査票
【紙配布用】

【問５】【問３】で「1. 進学する」、「2. 就職する」を選択された方へお聞きします。進学先または、就職先を決めた理由として、あてはまるものを選んでください（複数回答可）。 回答例

回答欄

1. やりたい仕事や学びたい学部・学科がある
2. 企業や学校の雰囲気・将来性
3. 先輩や知り合いがいる
4. 企業（学校）が有名
5. 教育（人材育成）が充実している
6. 休みがとりやすい
7. 給料や待遇面が充実している
8. 自宅から通える場所にある
9. 親や知り合いから勧められた
10. その他（

【問6】【問4】で「1. 島根県内」を選択された方にお聞きます。県内への進学や就職を決めた理由として、あてはまるものを選んでください（複数回答可）。

1. 県内にやりたい仕事や学びたい学部・学科がある
2. 県内は住みやすい（生活が便利）
3. 家族の近くで生活したい（親元から通いたい）
4. 自分が今住んでいる地域や島根県が好き
5. 経済的な理由
6. 親や知り合いから勧められた
7. その他（

【問7】【問4】で「2. 島根県外」を選択された方にお聞きます。県外への進学や就職を決めた理由として、あてはまるものを選んでください（複数回答可）。

1. 県外にやりたい仕事や学びたい学部・学科がある
2. 県内にはやりたい仕事や学びたい学部・学科がない
3. 県外は生活が便利
4. 一人で生活してみたい
5. 県外に出てみたかった（県外の地域が魅力的だった）
6. 親や知り合いから勧められた
7. その他（

【問 8】全員にお聞きます。進路決定にあたり、参考になった高校での取組として、あてはまるものを選んでください（複数回答可）。

1. 企業の見学や学校説明会への参加
2. 卒業生による講話やセミナー
3. 地域の大人や企業人による講話や技術指導
4. インターンシップやオープンキャンパス
5. 企業や学校について調べる学習
6. 地域や企業と協働で行う課題研究や活動
7. その他（

4. 島根県の「ふるさと教育※」についてお聞きします。

※「ふるさと教育」とは、島根県内全ての公立小中学校で行われている、地域の自然や歴史、文化、伝統行事、産業などについて学んだり体験したりする授業のことです。地域住民が講師や、ボランティアなどで参加される場合もあります。

- (例)
- 稲作や、野菜、果物などの栽培
 - 味噌や豆腐など、食品の加工や販売
 - 神楽、盆踊りなどの郷土芸能
 - 「まち探索」などの校外学習
 - 漁業、林業、工業、商業など
 - 陶芸、木工、竹細工などの伝統工芸
 - 地域の歴史や偉人の学習、遺跡見学
 - 環境保全活動、福祉体験

その他、地域によって、様々な活動が行われています

【問 9】「ふるさと教育」に関する次の質問について、あてはまるものをそれぞれ 1 つ 選んでください。

※【問 1】で「4. 島根県外」を選択された方（＝島根県外の中学校出身）で、小中学校で、「ふるさと教育」と同様な授業を受けたことがないと思われる方は、問 10 に進んでください。

	1 あてはまる	2 どちらかといえばあてはまる	3 どちらかといえばあてはまらない	4 あてはまらない
記入例	1	②	3	4
1. 小中学校での「ふるさと教育」により、学ぶ喜びや充実感を味わい、学習意欲の向上につながった	1	2	3	4
2. 「ふるさと教育」の中での地域の方々との会話や接することで、コミュニケーションの力や思いやりの気持ちが身に付いた	1	2	3	4
3. 「ふるさと教育」により、ふるさとへの愛着や誇りを感じるようになった	1	2	3	4
4. 「ふるさと教育」により、地域の自然、歴史、文化、伝統行事、産業等の知識が習得できた	1	2	3	4
5. 「ふるさと教育」が、自分の進路決定に影響している	1	2	3	4
6. 「ふるさと教育」が、自分の将来像を描くことに影響している	1	2	3	4

⇒次のページにお進みください

アンケート調査票
【紙配布用】

【問 10】 全員にお聞きします。次の質問について、あてはまるものをそれぞれ1つ選んでください。

	1 あてはまる	2 どちらかといえばあてはまる	3 どちらかといえばあてはまらない	4 あてはまらない
記入例	1	②	3	4
1. 生まれ育った地域に興味や関心がある	1	2	3	4
2. 生まれ育った地域への愛着や誇りがある	1	2	3	4
3. 自分が今住んでいる地域の住民と関わり（あいさつ、会話など）がある	1	2	3	4
4. 高校で、地域の課題解決や活性化を目指した学習をしたことがある	1	2	3	4
5. 高校生になってから、自分が今住んでいる地域の行事（伝統行事、公民館行事など）に参加したことがある	1	2	3	4
6. 高校生になってから、自分が今住んでいる地域のボランティア活動や社会貢献活動に参加したことがある	1	2	3	4
7. 卒業後も、自分が今住んでいる地域や島根県に関わりを持ち続けたいと思っている（県外からの関わりも含む）	1	2	3	4
8. 将来、自分が今住んでいる地域や島根県のために役に立ちたいと思っている（県外からの貢献も含む）	1	2	3	4
9. 将来、自分が今住んでいる地域や島根県で仕事をしたいと思っている	1	2	3	4
10. 将来、自分が今住んでいる地域や島根県をどんな地域にしたいか希望がある	1	2	3	4

～質問は以上です。ご協力ありがとうございました。～